

平成25年度

福島市民憲章制定40周年記念

作文コンクール作品集



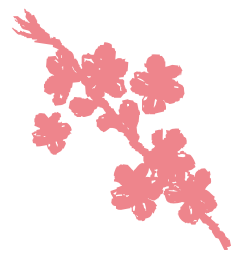
福島市民憲章推進協議会



市の鳥
シジウカラ



市の木
ケヤキ



市の花
モモ

昭和48年4月1日制定 福島市

わたくしたちは、みどりにつつまれた信夫山と清い流れの阿武隈川をもつ福島市民です。

福島市は、地味豊かなしのぶの里に古くから開けた人情の美しいまちです。

わたくしたちは、平和で、さらに住みよく希望にみちた

まちをつくるためこの市民憲章をさだめます。

安全で健康なまちをつくらねば
みどりがあふれるまちをつくらねば

力をあわせて楽しく働ける
まちをつくらねば

親切で愛情あふれる
まちをつくらねば

教育と文化を尊び希望に
輝くまちをつくらねば

空も水もきれいなみどりの
まちをつくらねば

市民憲章作文コンクールに寄せて

今年度は昭和四十八年に制定された福島市民憲章四十周年の記念する年であり、その記念事業の一環として、市内中学一年生の皆さんを対象として作文の公募をしたところ、市内十三校より九十七点の作品を寄せていただきまして心より感謝いたします。

早速、全作品を読ませていただきました。

今年度の作品には、当時皆さんが四年生で遭遇した東日本大震災と付随してもたらされた原発事故の悲惨さが多く表れておりました。これまでに経験をしたことのない衝撃、そして、何不自由なく生活してきた日常の制限、親しかった友だちとの別れなど精神的なダメージを受け、つらい生活を強いられたことに心が痛みました。

しかし、大震災から二年半が経過し、ようやく生徒の皆さんの心に「笑顔」が戻りかけてきたなという実感を行間から感じることができて大変うれしくなりました。

福島市にも相双地区より避難し仮設住宅で生活する方々との交流にも明るさが見られますし、ホッとする話題を見つけることもできました。

また、生徒の皆さんにとっても今回の作文の応募を契機に福島市民憲章の五つの条文に触れて、自分のふるさとである福島県、福島

市の自然の美しさや年齢を超えた人間の優しさ・暖かさを改めて考える機会になったことも読み取れます。

千年に一度という未曾有の大災害の前に、人間が営々と築き上げられてきた生活が一瞬にして失われ、そしてまた時間の経過の中で、人間の力強い絆と共に生き抜く知恵により再生していこうとする姿勢は、人間社会のすばらしい一面だと思います。

若い中学生の皆さんにとって、しっかりと自分の生き方を身につけることは大変難しいことかと思いますが、日々新たな考えで前向きに心身を鍛え、地域の中の一員としての自覚を持って生活をしてほしいと願います。

自分を愛し、一番大切に考えることは当然ですが、自分の住んでいる街にそして、皆さんの隣の方に温かい心をもってほしいと切に望みます。

平成二十六年二月

福島市民憲章推進協議会会長

両 國 茂

目次

◆金賞

福島市民憲章を通して

◆銀賞

幸せな福島をつくるためには
私の大好きなふるさと福島市
親切で愛情あふれるまちをつくろう
感謝の心

◆銅賞

『市民憲章』を実現するために
きれいな街にするために
福島市民憲章について
私の誇り福島市
高齢化問題とおとしよりとの交流
市民憲章から考えること

◆佳作

身近な『みどりのまち』を大切に
福島市民憲章を読んでみて

福島市立福島第四中学校	熊谷雄至	1
福島市立福島第四中学校	瓶子和真	2
福島市立福島第四中学校	幕田優菜	3
福島市立福島第四中学校	舟山大輝	4
福島市立松陵中学校	渡邊さくら	5
福島市立松陵中学校	今泉友希	6
福島市立北信中学校	遠藤亮佑	7
福島市立福島第四中学校	國分桃香	8
福島市立北信中学校	岡村優子	9
福島市立北信中学校	西牧讓志	10
福島市立松陵中学校	村越笙	11
福島市立渡利中学校	亀山睦海	12
福島市立松陵中学校	大内双葉	13

大好きな福島
 愛 情
 市民憲章について
 『大切な心』を持って
 福島市民憲章
 福島市民憲章
 今、私達にできること
 福島市の『やさしゅ』
 これからの福島
 親かな福島市にしよう
 福島のよさ
 私のふるさと、福島
 移住したての福島で…
 美しきふるさと福島
 私の大好きな福島
 光輝く未来のために
 私の希望、福島の夢
 楽しく働くこと
 福島の形は愛のカタチ
 川が流れていて美しい景色の福島
 親かな心を持つとう福島市

福島市立福島第一中学校	柴田 麻由佳	14
福島市立北信中学校	宍戸 雄太	15
福島市立北信中学校	阿部 遥花	16
福島市立野田中学校	堀 美結	17
福島市立北信中学校	齋藤 まき	18
福島市立野田中学校	二階堂 和	19
福島市立野田中学校	大河内 奈々	20
福島市立野田中学校	鈴木 日菜	21
福島市立福島第一中学校	高橋 里佳	22
福島市立福島第一中学校	浅野 琴美	23
福島市立福島第一中学校	佐藤 綾香	24
福島市立福島第一中学校	佐藤 日菜多	25
福島市立福島第一中学校	湊 未沙	26
福島市立福島第一中学校	黒澤 紗英	27
福島市立福島第一中学校	菅野 早也伽	28
福島市立福島第一中学校	渡辺 優花	29
福島市立福島第一中学校	星 春花	30
福島市立福島第二中学校	八島 杏風	31
福島市立福島第三中学校	下釜 佑月	32
福島市立福島第三中学校	安田 周知	33
福島市立福島第三中学校	小林 優里	34

自然と果物豊かな福島
 自然がいっぱい福島市
 一人一人の心がけ
 福島市とは…
 支え合える福島
 『福島市民憲章』について
 なにもかもきれいな町にしよう
 福島市民憲章
 福島市民憲章について
 福の島 福島市
 福島に住むという事
 福島市をよりよくするために
 よりよい福島になるために
 まちの緑で心もきれいに
 働くということの大切さ
 親切で愛情あふれる安全な町に
 笑顔の絶えない福島県
 空も水もきれいなまちにするには
 今以上の福島に
 福島市を輝く町へ
 かがやく福島
 みんなで安全で健康な町づくり

福島市立福島第三中学校	関	菜々子	35
福島市立福島第三中学校	堀田	侑里	36
福島市立福島第三中学校	五十嵐	璃乃亜	37
福島市立福島第三中学校	加藤	遥	38
福島市立福島第三中学校	阿部	大樹	39
福島市立福島第四中学校	菅野	楽人	40
福島市立福島第四中学校	島貫	陽向	41
福島市立福島第四中学校	奈良輪	拓海	42
福島市立福島第四中学校	栃久保	紫陽	43
福島市立福島第四中学校	斎藤	浩太	44
福島市立福島第四中学校	白坂	亮太	45
福島市立岳陽中学校	山本	雪乃	46
福島市立岳陽中学校	八島	かすみ	47
福島市立岳陽中学校	齋藤	雅鈴恵	48
福島市立岳陽中学校	小林	遥香	49
福島市立岳陽中学校	山田	朋佳	50
福島市立岳陽中学校	加藤	あかり	51
福島市立岳陽中学校	渡邊	奈々羽	52
福島市立岳陽中学校	茂木	陽	53
福島市立岳陽中学校	渡辺	麗菜	54
福島市立岳陽中学校	大場	千智	55
福島市立渡利中学校	宇賀神	愛美	56

環境が良い町をつくりましょう
 安全、安心して暮らせる町づくり
 安心して暮らせる町づくり
 福島市民憲章
 安全できれいな町へ
 空も水もきれいな緑の町
 福島市民憲章作文
 福島市の身近にある自然
 残したいもの
 『福島』をこうしたい
 大きな心と豊かな気持ち
 もっときれいな福島に
 福島市民憲章について
 市民憲章について考える
 みんなが大好きなまちにするために
 親切で愛情あふれる松川町
 私たちの福島市
 市民憲章から感じたこと
 福島 の 自然
 わたしの生活と市民憲章
 福島の親切な輪
 川遊びで学んだ自然

福島市立渡利中学校	小賀坂理紗	57
福島市立渡利中学校	樋谷香織	58
福島市立渡利中学校	滝口綾奈	59
福島市立渡利中学校	斎藤生成	60
福島市立渡利中学校	熊谷ゆき	61
福島市立渡利中学校	大友康太朗	62
福島市立渡利中学校	斎藤真子	63
福島市立渡利中学校	佐藤尚紀	64
福島市立清水中学校	松本陽菜乃	65
福島市立北信中学校	熊谷まなみ	66
福島市立北信中学校	小林大士	67
福島市立北信中学校	佐竹樹	68
福島市立北信中学校	黒津拓海	69
福島市立大島中学校	坂野井利緒	70
福島市立松陵中学校	遠藤優花	71
福島市立松陵中学校	中津雪名	72
福島市立松陵中学校	鳴原優実	73
福島市立松陵中学校	田尻千尋	74
福島市立松陵中学校	加藤麻那	75
福島市立松陵中学校	伊藤渉	76
福島市立野田中学校	安田仁菜	77
福島市立野田中学校	佐藤あづさ	78

福島市立野田中学校	福島市立野田中学校	福島市立野田中学校	福島市立野田中学校	福島市立野田中学校	福島市立飯野中学校	福島市立飯野中学校	福島市立飯野中学校	福島市立飯野中学校	福島市立飯野中学校	福島市立飯野中学校	福島市立飯野中学校	福島市立飯野中学校	福島市立飯野中学校	福島市立飯野中学校	福島市立飯野中学校	福島市立飯野中学校	福島市立飯野中学校	福島市立飯野中学校	福島市立飯野中学校
美濃	星野	佐藤	蒲倉	阿曾	菅野	齋藤	藤野	高野	阿曾	大澤	伊藤	菅野	渡辺	山岸	佐藤	松本	佐藤	伊藤	藤辰哉
由紀乃	小百合	紅音	成美	舞佳	ひかり	はるな	正希	真由	友佑	花音	凜	あかり	美夢	咲亜	舞奈	尚輝	創平	辰哉	藤辰哉
97	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	97

金賞

「福島市民憲章を通して」

福島市立福島第四中学校

熊谷 雄至

ぼくは福島市民憲章を初めてしりました。その中でも「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」という項目が一番気になりました。理由は二つあります。

一つ目は、生まれた時から一緒にいる八十才と七十一才の祖父母がいること、二つ目は、父がケアマネージャーだということとです。ぼくにとってお年寄りの存在や話題は、身近であり大事なことです。

まず、「安全」とはどのようなことだろうと考えました。歩行者が安心して歩ける道路の確保や、運転しやすい見通しの良い道路の整備、正しい角度のミラーの設置も必要です。時々、トラックが当たってしまったのか、違う方向を向いてしまっていて危ないと感じることがあります。出会い頭に衝突したら大変なのに、すぐに直らない

ことが多いです。

次に「健康」についてですが、なかなか浮かばなかったのも、祖父母や地域の方との事を思い出してみることができました。

祖父母は「雄至がいなかったら、毎日笑っていなかったかもしれない」と言います。近所のおばあさんは、ぼくが挨拶をする「遠くに住む同じ年齢の孫と重なって、このくらいになったのかなと思うと嬉しいんだ。」と祖母に話していたそうです。登下校を見守ってくださったおじいさんは「子どもたちと毎日会えるからとても楽しい。」と話していたと、母から聞きました。ぼくは、普通にしていただけなのに、知らない内にみんなが元気になっていたことに気が付きました。これらのことから、「健康」とは心の健康を指しているのではないかと思いました。心の健康は体の健康に繋がるはず。

ぼくは、入学式の誓いの言葉で「地域の皆さんに恩返しをしたい」と発表しましたが、それは感謝の思いからで、実際どのようにすれば良いかは分かりませんでした。そのため何か活動する機会やお手伝いがな

いかと考え、JRC委員会に入りました。

しかし、今回、この市民憲章を考えたことで、その方法が分かりました。それは「意識をすること」です。小学生の時までは、元気になるお手伝いが自然と出来ていたのかもしれませんが。しかし、これからは意識をして皆さんに接していきたいと思います。意識をすることで、表情や様子の違いに気付くかもしれないからです。道路のミラーのこと一つをとっても、意識して見ることでミラーの向きが変わったことに気付く、危険と感ずることも出来たのです。家族が、顔色や声で変化に気付くのも意識して毎日接しているからです。

福島市民は、震災や原発問題で、未だに少なからず不安や問題を抱えています。だからこそ、お互いが意識して周囲に目を向ける必要があります。小さな気付きが、もっと素晴らしい町づくりのもとになると思います。

銀賞

「幸せな福島をつくるためには」

福島市立福島第四中学校

瓶子 和真

初めて「福島市民憲章」を読んだ時とても印象に残ったのは「…まちをつくりましよう」という言葉ですべて終わっているところですよ。「憲章」と聞くととても難しいことで、こうしなさいと押しつけられるものかと思いました。とてもわかりやすく、子供からお年寄りまで幅広い年代の人たちが手を取り合って自分たちで福島を作り上げていくという感じがしました。

僕が通っていた森合小学校には「地域クラブ」という時間があります。囲碁や将棋、茶道に生け花、卓球、ソフトバレーなど十種目以上のクラブがあります。大正琴やさりを織りなど普段なかなか経験できない珍しいクラブもあります。教えてくださるのは学校の先生ではなく、森合に住んでいる地域の方々です。学校生活ではふだん触れ合うことのない世代の方々にクラブの指導

はもちろん、活動を通してあいさつや礼儀作法、時には森合地区の歴史などを聞くことができてとても楽しい時間でした。

また登校時間には、通学路にたくさん交通安全パトロール員の方々が出て僕たちが安全に登校できるように見守って下さいました。春から中学生になり、家を出る時間が早くなったので交通安全パトロール員の方に会う機会は少なくなりましたが、たまに道端で会おうと覚えていてくれて「元気かい。大きくなったねえ。」と声をかけてくれます。

今回この「福島市民憲章」について考えたことで、地域の人たちに見守られ、支えてもらっているからこそ安心して生活が送れているのだと実感しました。そしてこのように世代を越えたふれあいがあるということは「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちづくり」につながっていくのではないかと思いました。僕も今まで教えてもらったことを、小学生やもっと小さい子たちにもわかりやすいように話をして伝えていきたいです。

「福島から来たの？地震大変だったね。」

放射能は大丈夫？外で遊べるの？」

震災後、二年半近く過ぎた今でも県外へ出かけると必ず一度はかけられる言葉です。

福島が復興に向けてがんばっている今、中学生の僕にできることは小さなことかもしれない。でも、やれることはきっとあるはず。僕は今回作文の課題で初めて「福島市民憲章」というものがあることを知りました。まだまだ「福島市民憲章」を知らない人がたくさんいると思います。一人でも多くの人にこの憲章があるということと呼び掛け、みんなで力を合わせて幸せで住みやすい福島をつくっていききたいです。そしていつか県外に行っても福島は震災があつたけど素敵な街になったと言ってもらえるよう、県外へ避難した友人がまた安心して帰ってこれる福島になってほしいです。

銀賞

「私の大好きなふるさと福島市」

福島市立福島第四中学校

幕田 優 菜

皆さん、もしこの世界から「きまり」が全てなくなったらどんな気持ちになりますか。よく考えてみて下さい。

きっと、ほとんどの人はこう思うでしょう。「きまりがなくなったら、何でも出来るじゃん。」と。何でも出来るということとは、実はとても恐ろしいことなのです。

例えば、交通のきまりが世界からなくなったらしたら、自動車や自転車、歩行者が車道でも歩道でも関係なしに、自由に行き交っていることになります。飲酒運転も許可されてしまいます。

交通のきまりやお金のきまり等、普段から当たり前に行き来している人がほとんどです。しかし、その当たり前を守れなくなったら、世界、日本、そして福島で築かれてきた秩序が全て崩れてしまうのです。私はそんなことは絶対に起こって欲し

くないです。幼い頃から住んでいる福島市。大好きな私のふるさと福島市は、ずっと「福の町」であって欲しいです。

私は、もう一つ考えました。それは、「仕事」のことです。仕事は、社会に出てから六十歳位まで続く長いものですので、そこでの環境はとても重要です。仕事への取り組みや思いは人それぞれだと思いますが、同じ職場で出会った大切な「仲間」同士協力しながらお互い楽しめる様な環境にするべきです。

私が、将来大人になってどこかの職場に就職したら、自ら仕事を楽しみ、困っている人がいたらお互いに協力し合える様な雰囲気の良い職場にします。それはとても時間がかかり、大変なことですが、人に惑わされることなく、定年退職するぎりぎりまで精一杯努力して行きたいです。私がこの作文を書くにあたり、「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。」の章について一番考えさせられました。

福島市民憲章制定から四十周年、市民同士で受け継がれて来たこの憲章ですが、市

民の何割がこの憲章のことを知っているのでしょうか。私も家族もこの「福島市民憲章作文コンクール」募集要項を読むまで、正直あまり憲章のことを気にも止めず生活していました。「市民全ての幸せと、郷土福島の限らない発展を願いながら、快適で明るく住みよいまちづくりを進めるためのよりどころ」となるよう制定されたそうです。五つの章は、それぞれに、心に優しく染みわたる様な言葉でつづられていて、明るい未来に希望を感じます。二十年三十年経っても、私の家族全員が笑顔で一杯だといいです。

東日本大震災、原子力災害から三年を経過し、復興に向かっていく福島市民が力を一つにして、一步一步確実に進んでいきます。そして最終的には、明るいフクシマをつくりたいです。

銀賞

「親切で愛情あふれるまちを

つくろう」

福島市立福島第四中学校

舟山 大輝

ぼくは、自分のこんな身近なところに「福島市民憲章」というすばらしいものがある事を今まで知りませんでした。今回「福島市民憲章」の五つを知り、特に「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」について考えました。

ぼくは福島第四中学校で、あいさつはすごく大事な事だと学びました。毎朝、地域の人などに会った時、「おはようございます。」と元気にあいさつしています。すると地域の人もあいさつしてくれます。「あいさつ」という小さな事から地域の人のコミュニケーションが広がり、あいさつをすることによって、愛情があふれる福島市になるのだと思います。

また、東日本大震災で困った時に、たくさんの人々に助けてもらいました。昨年、

市の南房総ディスカバリーキャンプに参加しました。震災以来、放射能の影響で以前のように外で遊べなくなったぼく達を快く迎えてくれ福島では体験する事ができないすばらしい経験をしてきました。本当に親切にしてもらい、ぼくがしてもらった親切をまわりの人にたくさん広げていき愛情あふれるまちをつくりたいと思います。

「親切で愛情あふれるまちづくり」にとっても大切なことは、「思いやり」だと思います。例えば、バスや電車などで、いすに座れないお年寄りや障害を持つている人に、席をゆずったり、何かで困っている人たちに、「大丈夫ですか。」などと声をかけたりすると、福島の親切さ、人々への愛が高まっていくのだと思います。ぼくの住んでいる森合にはお年寄が多いので、まず身近なところから実行して行きたいと思います。そのためには、ぼく達がお年寄りを見守り困っている人を助け、愛情の高い人になれば、この福島ももっと親切で愛情があふれるいいまちにきつとなると思います。

神奈川県に住む親せきに「福島の野菜や

米などの食べ物はまだ危険だと思われる」と聞きました。残念ですが「風評被害」です。福島の食べ物はきちんと検査されて安全ですが、まだまだ福島のイメージは悪いそうです。ぼく達が福島市の食べ物食べて、世界中に福島の安全を伝えるのも、福島市の農家の人への親切心だと思います。

ぼく達にできる事は小さな事かもしれませんが、福島市民一人一人が小さな努力や親切を心がけていけば、小さな親切も大きな愛情に変わっていくと思います。

ぼくはこれから「福島市民憲章」の事を考えながらぼく達の力で「親切で愛情あふれるまちをつくろう」と思います。

銀賞

「感謝の心」

福島市立松陵中学校

渡 邊 さくら

私がこの福島市民憲章を読んで一番心に残ったテーマは「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」です。

他のテーマもある中でなぜこのテーマが一番心に残ったのかというと、震災から二年半が経った今でも福島はたくさんの方から支援をしていただいています。そこで私が思った事は支援をしてくださっている他県に今度は私たちが親切のお返しをして行こうということです。また、他県で災害などがあつた場合は、福島が他県を助けて行かなければならないと思っています。

私は震災以降国内外の支援のおかげで、色々な所に保養プランに行き、たくさんの方の貴重な体験をすることが出来ました。

私は、保養プランで行く先々でとても温かく迎えていただいたり、親切にしてももらいました。また、その地域のたくさんの方

イベントに参加することが出来、貴重な体験をすることが出来ました。こうしたイベントをきかしてくださるスタッフの方々にとても感謝していました。

私は中学生になった今、何か自分に出ることはないかと考えたときに、うつくしま復興大使の募集がありました。支援への感謝の気持ちと福島がみなさんの親切のおかげで復興に向かっていくことを伝えるためにうつくしま復興大使になりました。今年の夏休みに福岡と熊本に派遣され、熊本県庁や福岡県庁、市役所を福島の副知事や民報社の方々とおとずれ、みなさんからの親切に感謝している自分の気持ちを伝えることが出来ました。そこでも、出会った方々にたくさんの方の温かい親切な気持ちや、愛情をたくさんいただけてきました。

私はその気持ちを福島に戻って、県民の皆さんに伝え、福島の復興の力にしたいだけだと思います。それも復興大使となった私の大事な役割だと思ふので頑張りたいと思います。

福島の市民憲章の「親切で愛情あふれるというまち」に近づくためには、一人一人

がおたがいを思いやり、支え合うことで出来ることだと思います。

また、このテーマは、福島だけと小さく考えるのではなく、福島から発進することで、他県の皆さんと共通のテーマとして考えられたら、みんなが幸せで明るい日本になると思います。

銅賞

「『市民憲章』を実現するために」

福島市立松陵中学校

今 泉 友 希

一昨年三月十一日、東日本大震災が起こった。豊かだったまちは一瞬で壊され、大切な人を失った。それだけでなく、追い打ちをかけるように起こった原子力発電所の事故。多くの人々が自分のまちを離れ、避難を余儀なくされた。

私が住む松川町にも原発事故の影響で飯舘村の人々が避難している。気候風土の違いで、仮設住宅暮らしはとても大変なことだろう。その上、家族や友達と離れ離れになり、家を失った損害があるとなるとなおさらだ。私は、そんな人々が抱える大きな傷はそう簡単にはいやせるものではないと思う。そして、経験した人でないとわからない辛さがあるのだと思う。私自身は家を失ったわけではないし大切な人と離れ離れになったわけでもない。だから、きつと辛い思いを背負っている人の気持ちは一

生わからないと思っていた。

しかし、そんな私を変えるきっかけとなったある出来事が起こった。昨年、母が乳がんになったのだ。それは、私たち家族を襲った大事件だった。そして闘病生活は壮絶だった。手術で乳房を失っただけではなく、全身の脱毛、しびれ、むくみなど抗がん剤の副作用も想像以上にひどかった。ガンで死ぬ前にガンの治療によって死んでしまうのではないかと心配したほどだ。私はそれまで「ガン」についてどこか「他人事」と思っていた。しかし、その「他人事」を私は経験したのだ。私はその時、全てのことに於いて「他人事」という意識を持つことをやめた。

そんな経験をした私は、避難している方の辛い思いが少しわかったかもしれない。それは、第一に被害の状況を正しく知ることができたからだと思う。そして、何より「当事者意識」を持つことができたからだ。他の人にはわからない痛みを知ったからだ。

福島市には、飯舘村からだけでなく他の市町村からも避難している方がたくさんい

る。私は、「状況をよく知る」「当事者意識を持つ」ことを大切にそんな方とさらに良い関係を築いていきたい。それは、市民憲章の「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」を実現することだからだ。

そして、このことを実現するために私は二つのことを提案したい。

一つ目は、交流の場を設けることだ。私達の松川町では地元の夏祭りに飯舘村の方を招待した。このように、お互いの文化の交流をもっとできるようにしたいと思う。

二つ目は、生活の知恵を共有することだ。農業の知恵、慣れない生活の知恵など二つの知恵を合わせればよりよい生活になるはずだ。

つい先日、近所に浪江町から避難している方が引っこしてきた。私は、経験を生かして身近なところからこれらを実践していきたい。そして福島を親切で愛情あふれるまちにする。

銅賞

「きれいな街にするために」

福島市立北信中学校

遠藤 亮佑

「空も水もきれいなまちをつくりましょう」これは、福島市民憲章の一つだ。しかし残念なことに街のあちこちにごみが捨てられているのを目にする。「少しだけなら」「自分だけなら」というちよつとした気持ちで多くの人がポイ捨てをすれば、あつという間に大量のごみとなってしまう。

先日、家の近所の公園を通った時のことだ。顔見知りのおばあさんがいたのであいさつをし、話をしたところ毎朝健康のために散歩をしていて、その散歩のついでにごみ拾いをしているというのだ。確かにおばあさんは透明の袋を持ち、中にはタバコの吸い殻や空き缶や空きビン、おカシの袋が入っているのが見えた。

「けっこう落ちているんだよ。でもこうして拾ってきれいになると気持ちいいよね。」

と言っていた。

ポイ捨てをする人がいる一方でこういう人もいるのかと感心させられると同時にほつとした。

そういえばこの公園にゴミが落ちていてもいつの間になくなっていった。おばあさんのおかげだったんだと今日まで何も気づいていなかった自分がはかしくなった。

その日の夕食の時にこの話をしたら、母もそのことを知っていて、おばあさんはごみ拾いだけでなく草むしりもしているということを教えてくれた。しかも、それを見た母も公園の草むしりをしているおばあさんを手伝っていたことを知り、さらにおどろいた。良い手本があればまたそれをまねる人がいる。一人の力は小さいけれど、その力が集まれば大きな力となる。その力の一つにぼくもなりたいと思った。

この四月ぼくは中学生になった。今まではどちらかといえば何かをしてもらう受け身の立場だったけれど、中学生となった今、自分から何かを考え行動を起こす立場になったと思う。

この夏休み、早速行動を起こすことにし

た。身近に出来ることを考え、火曜と金曜の可燃ゴミの日に家のゴミ出しをすることにして、家からゴミ収集所まで百メートル足らずの道のりだが、その間に見つけたゴミを持っている袋と一緒に入れて出すことにした。たとえゴミでもきちんと分別して捨てれば、そのゴミが資源となり、また違うものとして生活の役に立つ。

このふるさとをきれいな街にするためにぼく達のような未来を担う次世代が進んで行動を起こし、力になりたいと思う。

銅賞

「福島市民憲章について」

福島市立福島第四中学校

國分 桃香

福島市には、市民のためのおきて、「福島市民憲章」があります。環境・文化・教育などの市民が安心して暮らすためのおきてが五つあります。そこで私は市民憲章の一つ、「子供からお年寄りまで安全で健康なまちをつくりましょう」という部分に注目してみました。

まずは子供にやさしい施設を探してみました。こむこむや学習センターは本の貸出し、屋内外で遊べる遊具や勉強できる環境、ワークショップ、そしてプラネタリウムなど、知識や技術を身につけたり、体力をつけたりと子供にとって大切な事がつめこまれた施設です。

他にも、親と子供が屋外で楽しめる十六沼公園、四季の里があります。とちらも幼い子供からお年寄りまで楽しめる芝生広場や水遊びのできる小川や噴水、そして屋外

遊具がそろっています。この二つの施設は四季の風景の美しさにふれたり、家族や友人と外で遊ぶ楽しさを知ることができるとても良い施設だと思います。

私は前に出た四つの施設に全て行ったことがありますが、どこも親子のつながりを感じました。こむこむや学習センターの図書室には幼児むけの本を親子でくつろぎながら読むスペースが設置されており、十六沼公園や四季の里では、ほとんどの親子が一緒に自然にふれて楽しんでいました。

さて、次はお年寄りにやさしい施設を探してきました。探した中で特にお年寄りがいた施設は、アクティブシニアセンター（アオウゼ）や、学習センターです。アクティブシニアセンターでは、料理教室を開くなどの色々な集まりをしたり、イベントを開催するなど、昼間も時間のあるお年寄りがよく来るそうです。学習センターは先ほども紹介したように、本の貸出し、数人で使えるテーブルなどがあり、たまに四、五人のお年寄りが談笑しているのが目に入ります。

お年寄り向けの施設は、基本バリアフリ

ーを意識されていました。そして、アクティブシニアセンターのフロアには、疲れた時にすぐに座れる長いすが設置されており、お年寄りにはとてもやさしい空間になっている、「時間があるときにまた来たい」と思うような施設でした。

私たち若者の中には、いずれ福島市から離れた所で生活する事になる人も少なくはないと思います。ですが、すてきな物が、場所が数え切れないほどたくさんある福島市を忘れないでほしいと私は願います。そして、福島市の事を思い出して帰って来た人が、福島市民憲章とまったく同じな福島市を見て、感動するような町づくりに協力したいです。

銅賞

「私の誇り福島市」

福島市立北信中学校

岡村 優子

桃・りんご・なし・ぶどう・さくらんぼ
：福島市にはたくさんのおいしい果物がある。これらは、おいしい水や美しい自然環境、そして何より、人の心もきれいな福島市だからこそのものではないだろうか。

私も、私の家族も福島の果物が大好きだ。毎年、果樹園や近くのスーパーからたくさん果物を買っては、おいしく食べたり、福島市外に住む親戚に送ったりしてきた。しかし、昨年、毎年りんごを買いに行っていた果樹園からはがきが届いた。それは、震災後の風評被害のせいで生産規模を縮小するという内容だった。今まで、わが家が市外に送ってきたりんごはもう、送ることができなくなったのである。

その知らせを聞いて、私も家族もとても暗い気持ちになった。「今年も楽しみにしていたのに。」

その果樹園は、放射線の検査もしていて、品質に問題はないはずだ。それなのに、福島というだけで、なぜ、売れなくなってしまうのか。私は、とてもくやしい気持ちになった。りんごを作っている人たちは、もつとくやしいに違いない。

しかし、それに負けることなく福島のいいところを守り続けていかなくてはならない。そして、福島のいいところをもつと、世の中の人たちに知ってもらいたい。知らせなければいけない：私は強く思うようになった。

今の私にできることは何か。それは、自然も人の心も美しい福島市を保ち続けること。そして、その福島市で力強く生きていくこと。

例えば、ゴミを減らす努力をする。水を大切に使う。ごはんを残さない。電気のむだづかいをしない。周りの人に優しく接する。地元の食材を食べる。笑顔で元気に生活をする：など。私にできることはどれも小さく、あたりまえのことばかりだが、このような小さなことから始めていけば、きつと大きな力になると信じている。

数年前まで、私の家は両親・弟、祖父母・曾祖父母との八人家族だった。曾祖父母が亡くなり、二番目の弟が生まれて、今は、七人家族になった。震災の時も、その後も、家族で力を合わせて生活してきた。私は、これからはずっと、家族と一緒に、ここ福島市に誇りを持って住んでいこうと思っている。

福島市の人みんなが市民であることに誇りを持って生活していったら、きつと、福島市は今よりもっと住みよく、よい町になっていくと思う。みんなが笑顔で生き生きと暮らしていれば、風評被害もなくなつて、元の福島市に戻るのではないだろうか。空も水もきれいなまち。親切で愛情あふれるまち。子どもからおとしよりまで安全で健康なまち：。そんな福島市を誇りに思い、私は、毎日元気に暮らしていきたいと思う。

銅賞

「高齢化問題と

おとしよりとの交流」

福島市立北信中学校

西 牧 譲 志

僕は、福島市民憲章の中の「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちづくりをしましょう」というものに注目しました。

小学校の頃、高齢化問題というものを学習しました。総人口に占める、おおむね六十五歳以上の老年人口が二十三パーセントを超え、経済や社会保障などに大きな影響を与える深刻なものだと教わかりました。僕たちが将来、大人になってかかえていくこの問題を今、身近に自分でできる対策はないかと考えました。

一番は、医療において病気の重病化を防ぐことだと思います。つまり、病気を予防することです。そのために、食事の管理や運動、頭や指先、足などを使うことで認知症など予防できると思います。そこで僕たち子どもがおとしよりと交流することで、

病気を予防できると共に、昔の遊びや、話を聞くことができ、貴重な経験になると思います。そして違う年代の人同士の交流が、お互いがお互いを元気づけ、安全で健康な町づくりにつながると思います。

僕は実際に、そのような体験をしたことがあります。小学校の頃、町内会の集まりで仲良くなったおばあさんの家に遊びに行くようになりました。あやとりやお手玉、折り紙などを教えてもらったり、散歩をしながらおばあさんの話を聞いたり、とても楽しい時間を過ごしました。中学校に上がり、忙しくなった僕はそのおばあさんの家に行けなくなってしまうしました。しかし、たまたま道ばたで会った時に、

「小学校の頃は、遊びに来てくれてありがとう。おかげで、おばあちゃん毎日楽しくて元気に過ごせたよ。」

と言ってくれました。僕は、人の役にたっていたんだ：おばあさんを元気にさせていたんだと嬉しくなりました。今思うと、福島市民憲章の一つを果たせていて、もっともおとしよりのみなさんと仲良くしていきたいと考えています。

僕の住んでいる町は、交通や買い物に便利だとは言えませんがその分、緑があつてとてもいいところが良く子どもからおとしよりまでみんな仲良く暮らしています。通学路に毎日おとしよりの方が立って送ってくれたり、夏休みに行われるラジオ体操などでは、一つ一つ丁寧にやり方を教えてくれたりと、お互いに助け合っています。交流することで子どもからおとしよりまで安全で健康な町づくりができていっていると思います。今年で福島市民憲章は、制定四十周年をむかえたと聞いています。この長い間守り続けられてきたものを、僕たちがしっかりと受けついでいき、十年後、百年後もずっと福島市全体が快適で明るく住みよい町になるようにしたいと思います。

銅賞

「市民憲章から考えること」

福島市立松陵中学校

村越

笙

五つある市民憲章で私の印象に残ったのは、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」です。この文章が印象に残った理由は二つあります。

まず一つ目は「水」です。私の住んでいる町には、「水原川」という川があります。私は小学校四年生のときに小学校の目の前にある水原川の中流で、川に住んでいる虫や小さい生き物を観察しました。バスで上流にも行きました。周りの友達が中流にはいなかった魚を見つけたり、つかまえたりしていたのに私は全く見つけることができなくて「いいな」とか「くやしいな」と思ったことを覚えています。川にいく少し前に、きれいな川に住む生き物と、あまりきれいではない川に住む生き物を習いました。先に行った下流にあまりきれいではない川に住む生き物がいて、「私の町の川は

あまりきれいではないのか」と少し心配になりましたが、次に行った上流にはきれいな川に住む魚などがいて「上流はきれいで良かったな」と安心しました。下流にもきれいな川に住む生き物が住めるように汚い水はあまり流さないようにしたいです。

二つ目は「みどり」です。私が使う通学路の途中に「土合館」という山があります。土合山は別名「あじさい小路」とも呼ばれていて、六月ごろに開さいされるあじさい小路のイベントには、いろいろな色のきれいなあじさいを見にたくさんの方が訪れます。私の家の庭にもそのイベントでもらったり買ったあじさいが三株あります。庭に植えた時は小さい苗だったのに、今はすっかり成長してあじさい小路に植えてあるものと同じくらいの大きさになっています。毎年あじさいの花が咲く季節になると、三株それぞれの色のあじさいでとても心が温まります。今は土合山がある地区の町内会の方が管理をしてくださっているようですが、雑草取りなどをやれる機会があったらぜひ参加してみたいです。そして、土合山にあじさいを植えることとそこで開

くイベントはいつまでも続けてほしいと思います。

私はきれいな水とみどりがある町に住むことができて良かったなと思いました。「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」という憲章を守れるように、空や水、みどりを守ることができるような活動があったら参加して少しでもこうけんできるようにしたいです。

佳作

「身近な『みどりのまち』を大切に」

福島市立渡利中学校

亀 山 睦 海

私は、福島市民憲章の中の「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」という事について考えました。私の家の近くには、阿武隈川があります。昔は、水がきれいだから、放流した鮭などが帰ってきているのを見れましたが、今は、水もにごっていて魚が見れなくなりました。これは家庭で出た洗剤などが川に流れてしまっているからだと思います。私は小学生の頃にこの話を聞いたので家では食器などを洗う時は出来るだけ洗剤を少しだけつけて洗うようにしています。前にテレビで、洗剤をつけなくてもきれいに洗えるアクリルタワシというのを見ました。このアクリルタワシは、環境に良い物だなと思いました。これからは、それぞれの家庭で出来る限り環境を考えて、また阿武隈川に、放流した魚が大きくなって戻ってくるといういいなと思

います。

しかし、阿武隈川はにごっていますが、阿武隈川の周辺はみどりがたくさんあります。天気がいい時は、空が青くて、緑がたくさんあってとてもきれいです。しかし、前は、田んぼや畑だったところが震災があつてから農業をやらなくなつて草などがかれてしまい、果物を育てていた木も切つてしまつたところがありました。今、そこは空き地になつていて、草も生えていません。みどりのまちをつくるためには、このような場所に苗などを植えて、育てるということが必要だと思います。もう一ヶ所、農業をやらなくなつてしまつていて、空き地になつてしまつているところがあります。そこは、しばらくは、何もありませんでしたが、今は建物の工事をしています。最近では色んなところで木を切つたり、農業をやらなくなつたりして、建物をつくつています。こういう事は、福島市の発展にはなりますが、みどりのまちはつくれません。この前言ったように、空き地には苗を植えたり、みどりがつくれるように何か果物を育てたりする事が大事だと思います。そして、福

島市のみどりを増やして、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」という憲章を実現できるようになればいいなと思います。それと原子力災害にも負けないように、色んな果物をつくつて、食べ物もおいしい福島ができればいいと思います。

私は、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」という憲章についても考えましたが、他の四つの憲章についても今後ゆっくり考えてみたいと思います。どの憲章も福島市で生活するには大切なことなので、一人でも多くの市民が市民憲章を実現出来るように努力して欲しいと思います。そのためにはまずは自分から快適に住みよいまちづくりを進めるために努力することが大事だと思うので、これから少しずつ実行していきたいと思います。

佳作

「福島市民憲章を読んでみて」

福島市立松陵中学校

大内 双葉

『「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」』

わたしがこの市民憲章を読んで見て思い浮かんだのは、花々がさく花見山と、近所を流れる水原川です。

花見山は、父や母、弟とお花見に行きました。春になると、ピンクや白、黄色といった花々が咲きほこり、きれいなグラデーションがつくられます。今年の春頃には、アニメの「サザエさん」とコラボレーションし、テレビの中でサザエさん一家が花見山に登っているシーンを見た時は、

「おおっ。」

と声を上げてしまうくらい驚き、同時に自分のことのようにうれしかったことを覚えています。

また、自分で登った時も、頂上からの景色を見て、とても感動しました。途中で植

えられた花たちの一つ一つがこのグラデーションを作っているのだと思うと、ますます心に響き、じんとしました。今でもあの景色は鮮明に思い出すことができます。

水原川は、わたしの家の近所を流れている川で、何度も近くを通っています。小学校低学年のとき、白鳥に食パンをあげたり、上級生になつてから上流へ体験学習をしに行つたのも全てこの川です。

その中でも特に心に残っているのが、幼いころ、父とわたしと弟で水原川を探検したことですが、探検といっても、ただ浅瀬を歩くだけでしたが、幼いわたしはわくわくして、本当に冒険しているような気分になりました。小さな弟も、くつをきゅつきゅつといわせながら足場の悪い川べりを一生懸命歩いていて、ほほえましい気持ちになりました。

今、福島県は、原発事故による風評被害に、放射能に苦しめられています。海は原発によって汚染水が混じり、山は放射能で汚れ、人々はガラスバッチをつけたり、モニタリングポストを設置しています。福島市でも、そんな光景が多く見られます。で

も、わたしたちが知っているのはこんな福島ではありません。空は青く、小鳥がさえずり、田んぼが広がる、おだやかで平和なところなのです。

県外の人たちは、そんな本当の福島を知らない人が多くいます。ネットでも、福島をひどく言うコメントがたくさんあります。でも、その中の一人でもとの福島に戻そうと努力すれば、何十年かかっても、もとに戻るとわたしは信じています。その中で、この『空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。』という言葉はとても大切だと思うのです。

今まで、憲章があることを知りませんでしたが、これからは、この言葉を胸に、福島のために力をつくしていきたいと思います。

佳作

「大好きな福島」

福島市立福島第一中学校

柴田 麻由佳

私は、福島が大好きです。でも、もっともっと大好きな福島にしたいです。

私は、福島に生まれました。福島でいろいろなことをおそわりました。福島で、人の優しさにふれました。福島でいろいろな人に出会いました。でも三月十一日震災が起きてしまいました。私の大好きな福島が被害にあいました。でも、福島は、震災の前のようにになるようにがんばっています。大震災以降、いろいろな人が助け合っていました。私はそれを福島市民憲章の親切で愛情あふれるまちをつくりましょうということだと思いました。私は助け合っている人を見て、とても気持ち良く、とてもステキなことだと思いました。

私は、この作文を書くときに初めて福島市民憲章を知りました。私の他にも知らない人初めて知った人がいっぱいいると思います。

ます。福島市民憲章を知らない人が助け合っていると思うと、もっとステキな気持ちになります。

これから二十年・三十年たつて、この福島を引っ張っていくのは私達です。もし、私が引っ張っていくとき、私はまず、福島に住んでいる人全員に市民憲章を知ってもらいたいです。私がこの福島市民憲章を初めて見たとき、福島にはこんなものがあつたんだ。なんか良いなと思いました。そして、私が小学校の時、いっしょうけんめい歩いた道、いっぱい愛情をそそいでくれた家族、親切にいつも話しかけてくれた地域の方々のことが頭にうかび今以上に福島に生まれて良かったと思います。福島が大好きになりました。そんな気持ちを福島に住む人に感じてほしいと思います。そうすれば、この福島は、もっともつとよい福島になると思います。

私は、この作文を書いて、果物がおいしい福島、人が温かい福島、人と人が支えあつて生きている福島がもっと大好きになりました。

佳作

「愛情」

福島市立北信中学校

六戸雄太

僕が、この五つの「福島市民憲章」で最も大切だと思うのは、

「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」

の中の「愛情」だと思う。

まず、二つ目の理由は、残り四つの「福島市民憲章」に、すべてあてはまる言葉だと思うからだ。

まず一つ目の、「空も水もきれいなまちをつくりましょう」

という憲章に、「愛情」をつなぎ合わせると、愛情があれば人は水や物を大切にしようとする、という言葉になると思う。これが理由の一つ目だ。

二つ目の、「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう」

にも「愛情」をつなぎ合わすと、愛情があれば文化を大事にでき、愛情がある人には、たくさんさんの希望が持てる、そう僕は思うからだ。

そして、三つ目の、

「きまわりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう」

にも「愛情」をくつつけると、愛情があれば、決まりを守ろうとするし、楽しく働ける、そう思うからだ。

最後に四つ目の、

「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」

にも「愛情」をつなぎ合わせると、愛情があれば、安全に気を配ろうとするし、健康でいようとする、そう思うからだ。

そして、この四つの憲章をまとめると、

「愛情」があれば、人々は豊かな心ができ、人と人同士、大切にしあえて、そうすると「福島市民憲章」もすべてクリアできると思う。

そして僕は、ここ福島には温かく愛に包まれた「愛情」があると思う。

なぜなら、あの三月十一日以降、福島は

原発事故に見舞われて大変な被害が出た。しかし福島はめげずに除染作業や風評被害の拡大を抑える活動など様々な取り組みをしてきた。これは、みんなを守りたいという「愛情」があるからできた取り組みだと思う。さらに、少し前には「東北六魂祭」が行われた。これも、復興を一步でも進めたいという「愛情」があつたからできた取り組みだと思う。

さらに日本という国では、経済効果を上げるため、復興のためにオリンピックの開催地として立候補したり、各県で「ユルキヤラ」を作ったりして日本を励ましたり、元気付けようとしている。これは、日本という国で見ても、絆みたいなの、とても大きく、がんじょうで絶対に壊れないような温かい「愛情」があるからだと思う。

このような理由から、僕が「福島市民憲章」で最も大切なのは「愛情」というそう簡単には作れない、ハートに包まれた言葉だと思う。

佳作

「市民憲章について」

福島市立北信中学校

阿部 遥花

福島市民憲章は、市民すべての幸せと、郷土福島の限らない発展を願いながら、快適で明るく住みよいまちづくりを進めるためのよりどころとして、昭和四十八年四月に制定されました。そして今年で、制定四十周年を迎えたのです。

さて、この様に昔から受けつがれてきた市民憲章、市民は今でも、しっかりと守り受けついでいるでしょうか。「空も水もきれいなまち」「教育と文化を尊び希望に輝くまち」「親切で愛情あふれるまち」「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまち」「子どもからおとしよりまで安全で健康なまち」をつくっているでしょうか。私はこの中から、「空も水もきれいなまちをつくりましょう」「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」の二つについて考えました。

「空も水もきれいなまち」、今この状態で、空も水もきれいなまちだと言い切れるでしょうか。工場や家庭から出る汚染物質も大きな原因ですが、今は、福島原子力発電所から大量に流れ出ている汚染水が、きれいな海を汚しています。海が汚染されてしまうと、海に住む生き物たちが死んだり、病気になったりします。そんな生き物を食べる私たちも、病気になったり、死んでしまったりするかもしれません。しかし、海の汚染水が蒸発して雨になりそれが降つてくると、恵みの雨といわれる雨も、人々に害を与える恐ろしい雨に変わってしまうかもしれません。

では、このような市に住む子どもからおとしよりまでの市民は、安全で健康に暮らせるでしょうか。私は、そうとは思えません。安全で健康に暮らせるというのは、外の空気を吸っても、店で売っている魚貝類を買って食べても、病気にもかからず元気に暮らしていけるということでしょう。それなら、少し問題があります。空気も海も汚染されるかもしれないならば、このようなことを少しでもしたら、大変な事になる

というのは間違いないでしょう。ということは、安全で健康に暮らせるはずはありません。私たち市民が、自分たちの古里で暮らせなくなるとなれば、どんなに辛く悲しいことでしょう。考えたくありません。

色々な物事と結びつけると、色々な問題にたどり着きました。これから私達は、どのような気持ちで市民憲章と向き合っていかなければいけないでしょうか。そのまま続けていくべき所や、問題点を見直す必要のある所など、色々あります。市民憲章などの、必ず守るべき物をまとめた物など、役職の人が考える物だから関係ないではなくて、福島市民だからこそ考えられる物なのではないでしょうか。福島市民だからこそ取り組める事を探して、私自身も何かを始めたいなと思いました。

佳作

「『大切な心』を持って」

福島市立野田中学校

堀 美 結

二〇一一年の震災の直後、両親が共に仕事に出ている私に、「何かあったら家に来ていいからね。」と近所のおばあさんが言ってくれた。その頃は小学四年生で、大きな地震なんて経験したことがなかったから、毎日余震が怖かった。独りぼっちで外にも出られなくて、不安だった。そうしたら、近所のおばあさんが母と立ち話をしてる中で、

「家なんかで良ければ、いつでも来ていいんだよ。何かあったら、すぐに私を呼んでいいからね。」

とおばあさんは優しく私に言ってくれた。人見知りをする私だったけれども、その時だけは、本当に嬉しくてホッとして、素直に心から「ありがとうございます。」って言えた。

中学生になって、下校中におばあさんに

会った。人見知りも少なくなつて、自分から進んであいさつをするようになった。最初のうちは驚いていたみたいだったけれども、今ではおばあさんも、笑顔で「お帰りなさい」と返してくれる。そんな何気ないことが、今の私にとって心が温まる出来事になっていく。

このような体験をして、私は、改めて福島の方々が、とても優しくあたたかい方だということを感じた。自分も大変な状況にある中で、周りの人に気を配る親切な心を持つ福島市民を素晴らしいと思った。私達を襲った大震災は、恐怖や悲しみだけでなく、私に福島市民としての大切な心を教えてくれた。またこの思いやりの心を、私は自らも実行したい。例えば、バスや電車では小さい子供やお年寄りに席をゆずるとか、あいさつをされたら笑顔で返すとか、そういう当たり前のことでも積み重ねていけば、きっと私も大切な心の持ち主になれると思う。そして遠くない未来、私が大人になって、人に教わることより教えることの方が多くなつたとき、そのときは、次の世代に生きる人達に、福島市民としてのあ

たたかい心を持つ大切さを教えていきたい。「私はその心を持った方に、救われたから。」そんな言葉とともに、伝えていくだろう。ずっと先の世代へと、言葉と一緒に受けつがれていってほしい。

笑顔がいっぱいで明るい福島市。私が大好きなこの福島市が、これからも「親切で愛情あふれるまち」であり続けられるように、親切を進んで行うような大切な心を持った福島市を私たちが作っていききたいと思う。

佳作

「福島市民憲章」

福島市立北信中学校

齋藤 まき

私の住む福島市には、福島市民憲章があります。

その五つの憲章は、

「空も水もきれいなまちをつくりましょう」

「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう」

「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」

「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう」

「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」です。

私が、この憲章で特に自分でもできるなと思ったのは、三番目と五番目の憲章です。まず、三番目の憲章の親切で愛情あふれるまちをつくるには、自分から進んで明る

く相手の目を見てあいさつすることが大切だと思っています。

そのためには、中学校で行っているあいさつの呼びかけを参考にして地域の人々にあいさつができれば良いと思いました。

そしてもう一つ、ゆずり合いも忘れずに生活していきたいです。例えば、バスで一年寄りを見つけたら席をゆずったりエレベーターでは下りる人を優先したり、たくさんゆずり合いがあります。このようなことを一人一人心がけてもらえば親切で愛情のあふれる良い町になるのではないかなと思います。

次に、五番目の憲章の子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくるには、市民の一人一人が健康を意識して生活することが大切だと思います。

夏には、気温が高くなり熱中症になる人が多いので水分補給を忘れないようにしたいです。それに寝不足になりがちな夏ですがつかれをとるためにも早寝早起きに心がけて十分すいみんをとれるようにしたいです。また、エアコンは温度を下げすぎず適切な温度設定が大事だと思います。

冬には、インフルエンザやかぜが流行るので手洗いうがいをこまめにして適度な温度を心がけようと思います。そして、出かける時にはマスクをしたり人ごみをさけるようにしたいです。一年を通して、健康でいるためにはたくさんの方に気を付ける必要があります。季節ごとに正しい生活をして子どもからおとしよりまで安全で健康にらせるまちにしたいです。

これからもこの福島市民憲章を忘れずに生活していきたいです。そして、市民のみんなにも忘れずに生活してもらいたいです。

この五つの憲章の良さをもっとたくさんの人に知ってもらい一人一人心がけてもらいたいと思います。そうすれば市民のみなさんすべてが幸せになり環境の良い住み良いまちになると思います。

佳作

「福島市民憲章」

福島市立野田中学校

二階堂

和

私は、福島市民憲章の中で、「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。」が心に残りました。私は、夏休みにサマーキャンプに行きました。その時にみんなで協力する活動があり、大勢で協力をしたら、とても大きなことを、たくさんやりとげることができました。また、修学旅行でもみんなと協力して計画を立てたり、その計画を実行したりして、協力しながら見学をしたりしました。これらのことから私は、みんなで協力すれば、どんなことでもやりとげることができるんだなと思いました。そのことを福島市に住んでいない人達にもたくさん知ってほしいなと思いました。また、協力して活動をすれば、その人達ともっと仲良くなれることができるので、きずなを深めることにもつながると思います。

二つ目は、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」が印象に残りました。私は前に、おばあさんが困っているときに、私の母が助けてあげようかどうしようかと、とても心配しながら、見守っていました。困っている人を助けたり、心配する気持ち、他の人を心から思う気持ちは、とてもいいなと思いました。また、私は前に、おばあさんが落とした手袋を拾って届けたことがあります。今まで私は、知らない人に落とした物を届けるような、人の役に立つことをしたことがなかったので、とてもドキドキしました。けれどもおばあさんは、笑顔で「ありがとう。」とお礼を言ってくれました。その時私は、とてもあたたかい、うれしい気持ちになりました。人のために役立つことをすれば、必ずお礼が返ってくるので、私は落とし物を届けて良かったなと思いました。私は今まで落とし物を拾わなかったり、届けてもらって「ありがとう。」という立場だったたりしたので、これから私は逆の立場になって、落とし物を拾ったり、人を助けたりすることを、今まで私にしてくれた回数以上にやりたいです。このこと

に気づいて、福島市の全員がお互いを思いあい、積極的に親切に行動していけば、市民憲章の「親切で愛情あふれるまち」に近づけると思います。

私は、福島市の全員が思いやりの心を持ち、みんなで協力してたくさん活動に取り組めば、福島市は、日本中にほこれる、じまんの市になると思います。

佳作

「今、私達にできること」

福島市立野田中学校

大河内 奈々

私は、

「空も水もきれいな、みどりのまちをつくりましょう。」

という、福島市民憲章の一つについて考えました。福島市には、たくさん川があり、荒川クリーンセンター、浄水場など様々な建物があります。そういう建物があるからこそ自然が守られ、日常生活の中でくさかったり、水を飲めなかったりする、困ったことなく生活を送ることができます。一昨年の東日本大震災で原発事故があり、外で遊べなくなったり、今までのように水道水を普通に飲むということも一時期は減ったりしましたが、今では震災前と同じく外で遊ぶことが増えてきています。私は震災があつて、今まで以上に安全で空も水もきれいなまちをつくりたいと思いました。そこで、今私達にできることはなにがあるだろ

う？と考えました。私達にできることは案外たくさんありました。

一つ目は、植物をたくさん育てたり、大切にしたりすることです。植物が植えられていけば、景観もよくなり、自然にも優しいです。また、ヒマワリは、放射能を吸いとってくれると聞いたことがあります。ですから、植物を大切に育てるということも、私達にとっては、立派なことだと思います。

二つ目は、屋外でゴミが出たら、持ち帰るか、ゴミ箱に捨てるということです。これが当たり前なはずなのに、たまにゴミが落ちているのを見かけることがあります。当たり前なことをもう一回見直す必要もあると思います。まずは自分が見直して、その後、多くの人に広めていきたいです。

三つ目は、奉仕作業です。奉仕作業は、子供会や小学校などで実際に行つた経験があります。奉仕作業を終えた後は、達成感がわいてきます。達成感がわくだけではなく、人の役に立てた喜びもあります。自分ががんばっただけ成果が出て、人の役に立てるので、積極的にこういう活動に参加していきたいです。

私達にできることはまだまだたくさんあります。小さなことでもいいから、コツコツ私達にできることを行っていくのが大切だと思います。自分たちのふるさとのために一つでも良いので協力したいです。そして、福島市民憲章の五つを一つでも多く守り、平和で希望のある福島市をつくってきたいと思っています。

佳作

「福島市の『やさしさ』」

福島市立野田中学校

鈴木 日菜

わたし達の福島市。約十二年程、この市で暮らしてきて思うことは、「福島市ってやさしいなあ」ということです。

市の木「ケヤキ」・市の花「モモ」、市の鳥「シジュウカラ」と、市の中では有名ですが、まさに福島市の人々のやさしさが表れているなあと思います。ケヤキのような伸びやかな心・モモのように可憐で人なごませる心・シジュウカラのように美しくかわい、環境を整えてくれる気づかいができる心……。福島市の人々は、「伸びやかでまわりのことを考える美しい心」を持っているからこそ、そこに「やさしさ」が生まれてくるのだと思います。

実際に、わたしの身の回りの人々にも、やさしい心を持っている人がたくさんいます。親切ではない人なんていません。家族も友達も学校の先生も地域の方々も、みんな

な親切な人ばかりです。

福島市民憲章の「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」には、福島市の人々が、やさしい心を持ち、常に相手の気持ちを考えられるようになってほしいという願いがこめられているのだと思います。

「やさしさ」と言っても、いろいろなやさしさがあります。人に親切なやさしさ・人にはいつも明るいやさしい態度・相手のことを注意してあげられるやさしさ……。どんなやさしさでも、「相手のことを考える」ということに変わりはありません。

福島市の人々は、いろんなやさしさがつまみついて、とても良い人ばかりです。そんな人柄が表れている、この「福島市民憲章」を改めてよく考えてみると、福島市民が一人一人、憲章についての考えを深めなければならぬのだなあと思いました。福島市民一人一人が憲章についてよく考え、福島市民としてのほこりを持って生活していけば、より幸せな「福島市」を築いていくのではないのでしょうか？

わたしは、福島市民憲章の五つをこれからの生活に取り入れて、ほこり高い福島市

民として生きていきたいです。

「これからの福島」

福島市立福島第一中学校

高橋 里佳

私は、福島市民憲章にある「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」というのを見てとても心があたまりました。

でも、まだ少し、町への愛情や親切は足りないと思います。

もし、愛情あふれる町だったら道にゴミなど捨てていないはずなのにゴミが捨ててあります。それは、福島市への愛情がないから簡単にゴミを捨てることができるのだと思います。ふるさとがよれるということとは、人の心もよれているのだと思います。そうすると私たちのふるさとは環境が悪くなり、ふるさとへの愛情がどんどん消えていってしまうと思います。

また、バスに乗る時、おばあさんが立っていて、若い女性の方が席をゆずらないという場面を見かけたことがあります。

なので、これからは、市民一人一人がこ

の「福島市民憲章」を意識して生活していくべきなのです。

例えば、ボランティア活動を行って少しでも環境をよくするとか、お年よりの方に席をゆずるように呼びかけるポスターを作るなど良い町をつくっていく方法は他にもたくさんあります。小さなこと、当たり前前のことを地道に積み重ねていけばきつと、良い町は存在していくと思います。

福島市が良い町になればきつと他の町、この福島県も変わっていくかもしれません。そして、愛情や親切だけでなく「笑顔」もあふれていくと思います。

今はまだ、震災の跡が残っていますが、震災前のあの姿を取り戻していけると私は信じています。

福島の再生は時間がかかると思いますが、でも、あきらめたらいけないと思います。あきらめないで前に進むことが大切なのです。

福島県を変えていくためにもまずはこの「福島市民憲章」で愛情、親切あふれる町を皆さんでつくっていきましょう。

「親切な福島市にしよう」

福島市立福島第一中学校

浅野 琴美

私は、親切な人の多い福島市にしたい。元々、東北は穏やかで田舎という事もあり、のんびりとしている。そして私達、福島市民も東北人として、これからもマイペースに生きることだろう。

けれど私は、穏やかな人ほど親切なのだろうと思う。例えばバスや電車などの席をゆずる事。大事な落とし物をすぐに届けたら、重い荷物を代わって持ってあげる。その小さい行動の一つ一つでも親切という言葉に当てはまる。自分では、当然の事だろうと思いきや親切な行動をしたり、小さな事で喜んでくれるなんて、など思ったりする人もいるだろう。

けれど、席をゆずってもらった人、大事な落とし物を届けてもらった人、重い荷物を持ってもらった人にとっては、とてもありがたいが、感謝しきれない気持ちでいっぱい

になることだろう。どんなに小さな良い事は、受け取った人にはとても大きく、嬉しい事なのだろうと私は思う。

しかし、私には疑問に思う事がある。良い事をして感謝されても、私はただそれだけをしただけなのにと絶対にその気持ちを受け取らない人は、おかしいと思う。自分に厳しい事は決して悪い事ではない。けれど、心から感謝している人にも申し訳ないと思う。なので感謝されたら自分の行動を否定せずに自分に良い事をしたと、心の奥にしまう事が一番である。

私は、数える程しか良い事をしていないと思う。けれど知人や家族には、それこそ数えきれない程の良い事をしてもらっている。行動でお返しが出来ない分、言葉でお返しをしよう。そんなに小さな思いやりでも、受け取って嬉しかったのであったら、ありがとう。そう一言言えば良い。ありがとうを人生で一度も言わない人、思わない人はいないだろう。話す事が出来るけれど、感謝を伝えない人は、今からでも遅くはないから感謝の気持ちを言葉にして伝える。それが大事だと思う。

私は、これからも家族や周りの人々に支えられ生きる。大人になるにつれ、更に支えられ、助けられる事だろう。しかし、私も助けられてばかりはいられない。そこで、人に親切な思いやりのある行動ができ、感謝を言葉でも表せる様な大人になりたい。親切で優しく、穏やかな福島市民が増える事を願い、楽しみで仕方がない。

「福島によさ」

福島市立福島第一中学校

佐藤 綾香

私は、福島市に来て九年がたった今年、初めて福島市憲章を読みました。その時、私が一番に目がとまったのは、親切で愛情あふれるまちをつくりましょうという福島市憲章です。私は、以前にある二つの体験をしました。

一つ目は、私が塾に行く時にバスに乗っていました。すると、バス停で、こしのまがったおばあさんが入ってきて、あたりをきよるきよる見回して、席を探していました。その時は、バスの中も混雑していて、座る所がなくこまっていたおばあさんを見て、私は、どうしよう。こういう時はゆずらないといけないのに。でも回りの人にへんな目で見られたらいやだな。ほかの人がゆずってくれればいいのかな。でもどうしよう。と思っていました。すると、となりの大学生ぐらいの女性の人が、よかったら

どうぞ。と声をおばあさんにかけてました。私は、内心ほっとしましたが、バスを降りた後、よく考えました。なぜあの時、もたもたして、席をゆずらなかつたのか、なんだか、そんな自分がとっても、はずかしくなりました。今度また、同じようなことがあつたら、以前の大学生ぐらいの人のように、席をゆずれるような人になりたいと思いました。

二つ目は、神社の階段での出来事です。つえをついたおばあさんが、階段を、登っている時に、ポケットから小銭入れのようなものがおちました。すると、私の前にいた、おじいさんが、おちた小銭入れをとって、おばあさんにわたしていました。私は、ふつうのことなのに、こうして自らわたせる勇氣があることは、すごいなと思いました。私は以前、小学校の時の講師に、あたりまえのことはあたりまえに。でも、このあたりまえを行うことはとっても難しいこととで、このあたりまえをできる人は、すごい人なんだ。と何回も言われました。私も、席をゆずることも、小銭入れを拾うことも、あたりまえのことだと思います。が、勇氣

が出ませんでした。なので、私も、あたりまえのことはあたりまえにを、実行できるような人になりたいです。

福島市は、親切な人がたくさんいます。あたりまえのことをあたりまえにできる人もたくさんいると思います。なので、私もその一員になれるように、親切で愛情あふれる人になりたいです。

「私のふるさと、福島」

福島市立福島第一中学校

佐藤 日菜多

二年前の震災で原発事故が起こり、空気が汚染されてしまった。だが、現在は福島パワーで復興にかけている。当時は外で遊ぶことも、食べ物も制限され、つまらない日常生活だったが、今では元気に外で遊べるし、福島の美味しい果物や野菜を食べている。すっかり震災前のように戻りかけているのである。

春は、山が桜でピンク色に染まり、花見をしようと人がおとずれる。夏は、緑がいつぱいに広がり自然豊かなまちになる。トマト、ナス、きゅうり、夏野菜が美味しい。秋は、なんといっても果物。桃、りんご、なし。冬は、山が真っ白になり雪景色がとてもきれい。まさに、「花も実もある福島市」である。この、私のふるさと福島市はとても良いところだと心から思う。

私が学校から下校する時、地域の方に優

しく「おかえり。」と声をかけてくれる。それは、初めて会った人だが、なんだか心が温まる。まるで、ずっと前から親しかったかのように。私はこの福島市がとても大好きである。そこで、私は福島市を良いまちとしてあるように小さなことからでも協力したいと思う。たとえばゴミ拾い。たまにまちを歩いていると、ペットボトルやあきかんが落ちていたりするのである。今まで私は、そのゴミを拾って捨てたことがなかった。いつも見て見ぬふりをしていた。だが、この福島市民憲章に出会い、このままではいけない、と思うことができたのである。そして、自分もポイ捨てをしないということが重要である。

このように、福島市をより良いまちにするためにゴミ拾いを進んで行ったりと、今、私に出来ることを小さなことからでも、素敵なまちにすることにつながれば良いなと思う。

「移住したての福島で…」

福島市立福島第一中学校

湊 未沙

私は、今年の四月の始めに、福島市に移住しました。わくわくした気持ちと、反対に不安な気持ちもありました。

車がゆれる中、山からおりて、福島の間を通り、見たしゅん間、おどろきまじやぐじやになり人口が減ってしまった町から来たので、自転車をこぎながら、道を通る人、歩いている人を見て、平和でいいところだな、と感じられました。

そのまま真つすぐ通りながら、平野の方へと向かいました。ふと、車の窓の外に目をやると、そこは緑がたくさんありました。ただぼーっとその風景を見つめて、何を思ったかはよく分かりませんでした。私が私にとつての初めて移住したときのちょっとした感情です。

そして現在、今ではあの時の感情はなく、

なれてきているようにも思えてきます。だけれど、あの時に思わなかった事を思う事があります。

学校の登校時間、アパートのかぎを閉め、学校に向かおうとした時、となりのとびらが開いたと同時に住人が出てきました。私はせいっぱいきんちょうしながらも「おはようございます。」と言うと、住人さんもあいさつをかえしてくれました。今でもあいさつをされたりしたりのおかげで今のアパートにもなじめています。

今の福島もこれからの福島も、今住んでいる人々、移住したての人々に明るくしたしみのある市をつくれるといいなと思います。もちろん私も、これから先も空気や風景を汚すことのないように、努力をし、つぎることのないあいさつをしていこうと考えます。そして、平和でゆたかな福島市がこれからも良い方向へと変化していくことを、いのります。

「美しくふるさと福島」

福島市立福島第一中学校

黒澤 紗英

福島県には有名なものがいっぱいあります。果物のももや梨、自然など数えきれないほどです。ですが、果物や自然より自慢できるところが私達福島の人にはあります。それは、親切さと笑顔です。

二〇一一年三月十一日二時四十六分から、私達の生活が変わりました。今まで経験したことのない強い揺れに襲われ津波がきて、建物が崩壊し多大な死者をだしました。それだけではありません。地震の影響で原子力発電所が爆発しました。爆発したため、私達の目には見えない放射線が空をまうので、外で遊ぶ時間を制限されたり、マスクをしてガラスバッチをつける生活が何か月も続きました。テレビをつけると毎日のように震災の情報が流れて、テレビのインタビューに答える仮設住宅の住民のみなさんは口々に、

「はやく、家に帰りたい。」

と言っている光景を何回も見ました。風評被害にあい、福島県産の野菜や果物が売れず、福島の人からは笑顔が消えていきました。

ですが、福島はそんなことでは負けませんでした。ちよつとずつ、ちよつとずつ復興が進み、テレビで福島の情報が行くとも少なくなってきました。毎朝、新聞を見るたび福島の笑顔は増えていると私は感じます。笑っている理由は違うかもしれないけど、心から笑っていることはみんな同じなんだと思えたからです。最初は、

（復興なんて、復興、復興って言つときながら、ぜんぜん復興してないじゃん。）
と思っていました。一人一人がで努力してちよつとずつ復興していたんだと気づきました。

まだ福島は、原子力発電所の事故をかかえています。この先、何十年か後に放射線の影響で病気になる人もいられるかもしれません。しかし、福島は親切で愛情あふれるまちです。一人一人がもつとがんばれば、また、もとの美しく笑顔がたえない福島に戻

せるはず。みんなで戻しましょう。

「私の大好きな福島」

福島市立福島第一中学校

菅 野 早也伽

私は、福島のと、太陽の光を沢山あびて育った緑が好きだ。都会にはない、この自然が、あたり前だと私は思っていた。

二年前に、いとこが住んでいる、埼玉県の太宮に行った。沢山の人で、私は正直、立っている事さえつらかった。その時私は、ふと周りの風景をみた。それは、まさに「都会」と言う言葉がピッタリ当てはまるような景色だった。右も左も後ろも人、空気はおいしくないし、ビルがいっぱい建っていて、緑は少なく、私は何故か早く帰りたくなった。福島は、周りは自然に囲まれていて、遠くにはおいしい緑、連なる山々、きれいな水、おいしい空気など、とても自然に満ちた場所だという事を改めて痛感した。私は、その夜、夜空を見上げた。しかし、光が強く、星がみえにくかった。私はいとこに、「毎日、星がこんなに

みえないの？」と聞いた。そしたら、「うん。いつもの事だよ。」と言われた。少し悲しくなった。と同時に、なんだか「かわいそう」にも思えた。福島では、沢山の星が毎晩みえるのに。そう思ったら、なんだか心がいたくなった。

その数日後、私は福島に帰って来た。久しぶりに、みおぼえのある風景とおいしい空気に包まれ、幸せだった。しかし、埼玉も全く悪い所ではなかった。人が多い分、沢山の笑顔が見れた。沢山のお店があった。沢山の思い出が作れた。そんな時、電話がきた。それは、いとこのお母さんからだった。内容は、今度、福島に遊びに来るという事だった。私は考えた。福島の良い所を。そして思いついた。沢山の自然を紹介する事にした。そして、夜は、満点の星空と、美しいホテルを紹介すると決めた。

いとこが福島にやってきた。今日は、お祭りがあった。お祭りで、お腹いっぱい食べ、お家にもどった。それから、五分もたたないうちに、外へ出た。今夜も、星が沢山出ていた。いとこは、まるで初めて星をみたかのように、目をかがやかせ、楽しそ

うにしていた。私は、言われた。「毎日、この星空をみているんだ。いいな。」と。その顔はどこか、さびしく、切ない顔をしていた。この後、ホテルをみに行った。ホテルは、お墓の近くの川にいた。少し、こわかったが、勇気をふりしほり、行った。ホテルは、いつもよりも数が多かった、いとこは、ホテルをつかまえ、両手の中でじつとみていた。これが私の、夏の思い出だった。

いとこは帰りぎわにこう言った。「また福島に来るよ。今度、虫かごと虫取りあみを持って。」と。私は、うれしかった。原発で沢山いやな思いをしてきた福島が、他県からあこがれられた瞬間だ、と心で思った。負けないし、応援してくれる人もある。その時私は、前に進もうと思えた。

「光輝く未来のために」

福島市立福島第一中学校

渡 辺 優 花

私の福島市のイメージは色で例えると、緑です。福島市は豊かな緑があり、輝く青い海、青い空もあり、そして幸せが集まっているとても素敵な町だと思います。

そんな幸せに三月十一日、きれつが入りました。地震、原発の事故と次々にやって来る災害に耐えきれなくなったその時、幸せは一瞬にして崩れ落ちました。そんな苦しい現実を変えるために私達は今、何をすれば良いのでしょうか。

まず必要なことは、一人一人がきちんと前を向くということです。あの日からもう二年数か月が経ちました。悲しい思いをした人達もたくさんいると思います。ですが、いつまでも過去にしがみついてばかりでは変わるものも変わりません。ですから、前を向いてこの福島市で光輝く未来と一緒に作りましょう。

そして、福島市の良い所をもっとアピールし、他県からの見られ方も少しずつ変えていくことが大切だと思います。例えば、福島で名物のお祭りといえど何といってもわらじまつりですね。わらじまつりといえど、長さ十二メートル、重さ二トンをはこぶ大わらじが特徴的ですよね。その他にも、わらじおどり、ダンシングソーだナイトなど子供から大人まで幅広い年齢の人々が楽しめるイベントが盛りだくさんです。そんな大規模なイベントをアピールしてみる他にも、もっと小さなことから始めてみるのも良いかも知れません。例えば、町の雰囲気をもっと良くするために、老若男女問わず困っている人には親切にする。この様な、少し意味が無いのではないかと思わせてしまふ事でも、市民全員が心がければ福島の優しさが今にも増して大きくなり、その評判が広まって、お祭り、郷土文化、温泉などを目当てにした観光客なども増え、活気溢れる町になると思います。

私達の住む福島市はたくさんさんの幸福で溢れています。その幸福を自らの手で潰してはいけません。そのためにも、前を向き、

親切心を大切にしてどんな敵にも負けない屈強な心を作りましょう。そうして作り上げた未来の福島は、今までに無いくらい優しい笑顔で溢れていることでしょう。

こんな素晴らしい地に生まれた事に心から感謝し、福島出身という肩書きを今まで以上に大切にしていきたいと思います。

「私の希望、福島之梦」

福島市立福島第一中学校

星 春花

希望のまち、福島。福島という言葉を聞くと、私はまず「希望」という単語を思い浮かべる。

「福島市民憲章」という物を、私は初めて知った。その中に、「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう。」という文が、目にやきついた。希望に輝くまち。この言葉は、将来の福島を物語っている様に思う。私は、将来の福島のまちを考えた事が一度も無い。福島市民として、あるまじき行為だ。しかし、将来の福島のまちを想像してみると、日常生活、まちづくりを今よりも活性化させたいという気持ちがある。

決して簡単では無い。そんな事は分かるが、想像してみると、山のように出てくる。私が創造する将来の福島のまちは、「希望に輝くまち」で、すなわち福島市民憲章の

文と同じである。希望に輝く福島のまちにする様、どうするかは、私達一人一人の意識と考えるで変化する。希望という文字を当てはめられるまちは、一体どんな物なのか自分なりに考えてみた。

まずは「親切」な事である。親切は、意外と出来無い事が多く、まちだともっと出来無くなる行動だ。しかし、親切な事をされてもらった事が無い人はいるだろうか。親切な事をされたら、自分も誰かに親切にしてみる。親切な事をした自分も、親切な事をされた相手も、どちらも嬉しくなる。そんな、人と人とのふれあいを大切にできるまちにしたい。

次は「まちの環境」の事である。まちの環境は、住民が思う今の福島の事だ。私が今の福島のまちで良いと思う事。それは、あいさつである。学校では行いが、まちでは行わないという人は多数いると思う。だが、まちの人にあいさつをされた経験が無いという人はいないだろう。私は、通学の時や買い物している時にあいさつされた事がある。あいさつをする事はとても簡単な事だ。すれ違った人に「こんにちは。」と

言うだけだ。その行動を行っている人を見ると、私もやってみようという考えが生まれる。

将来の福島のまちを造る自分。想像する事は良いが、現に自分が行動していく事が大事である。今の自分達が出来る事は簡単な事しか無いが、限りなくあるはずだ。たしかに答えなんて、何一つ無い。希望という言葉に当てはめる事ができる福島のまち。そうするには、「親切」と「まちの環境」を一人一人が意識する事。原子力災害の被害を受けた、この福島の地、福島の人々。その人々が、福島を造り、福島で生命を育て、福島で絆を深め、福島で家族と共に住む。これが、私の希望であり、福島の夢である。この事が、一步一步進む様に、私は努力をする。福島の未来が、私達によって希望にありふれたまちにする為に。私の希望。福島の夢を叶えるその時まで。

「楽しく働くこと」

福島市立福島第二中学校

八 島 杏 風

「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。」

これを最初に見た時、とても難しいことだと思いました。なぜなら、働くことは大変で楽しくないと思っていたからです。テレビを見ていても、たくさん問題があり、働くことは楽しくないのかなと思うことが多々あったからです。

しかし、本当に楽しくないのか。と思いました。本当ならば、人生がつまらなくなってしまうと思いました。それは、とても嫌なので、働くことについて考えてみることにしました。

「きまりを守り、力をあわせて」これをすれば働くことが楽しくなるのではないかと思いました。きまり守ることにより、気持ち良く働くことができます。そして、力をあわせればお互いのことも理解でき、仕

事もはかどります。また、相手のことをとても考えて行動することができると思えます。そうすれば、働くことが楽しくなるはずです。

「きまりを守り力をあわせて」は、今のうちからできることだと思います。ということは、今から働くことを楽しくできるということです。校則を守り、とくにグループ活動では、力を合わせて行動することができると思えます。それを続けていけば、身に付きます。それが将来にも生かせるはずです。そうすれば、将来も楽しく働くことができ、良い人生を送れると思います。私は小学校の時、宿泊学習でオリエンテーリングがありました。その時、班のみんなとルールを守り、力をあわせ目的地を目指しました。ゴールした後は、達成感もあり、とても楽しいと思えました。これを働くことにおきかえたら、喜びや達成感が味わえるのかもしれないと思いました。

働いていると、必ず困難や悩みがでくると思えます。オリエンテーリングで経験したような喜びや達成感などが積みかさなっていけば自分自身の力や励みとなると思

います。そして、困難な状況にも逃げずに頑張っていけると思えます。

働くことは、一生続くことである。だからこそ、楽しく働いていきたい。一人一人が楽しく働き、生活していけば、家族や周囲の人たちにもつながり、楽しく働けるまちになっていくと思います。

「福島は愛のカタチ」

福島市立福島第三中学校

下 釜 佑 月

東日本大震災、原子力発電所の爆発、その悲劇がうんだ愛がある。そして、その愛がつまった一つ、ひとつのパーツで福島が成り立っている。

福島県福島市。東京などの街とはまったく正反対の田舎で、そして緑がこの福島じやおさまりきらないほど、子どものように成長している。どちらも「街」であるが、東京などは「新しい物と高層ビルが多くある街」、福島は「古き良きを合言葉に緑が多くある街」とまったく違うものである。あの日が来るまでは毎日朝起きて、ご飯を食べて、勉強したり仕事をしたりして、遊んで、ねる。そしてまた新しい一日が当たり前のようにやってきて、また同じようなことばかりをして過ごす日々が続いていた。感情だって、うれしいや楽しいこと、それか悲しいことや苦しいことのどれかに

あてはまっていただろう。

二〇一一年三月十一日、二時四十六分。そう、東日本大震災。あのたった二、三分のゆれによって、今までの生活や感情がいつきに消えて、あじわったことのないものでおしつぶされてしまったことだろう。こんなに美しかった福島も消え去った。原子力発電所までもとうとう爆発し、放射線もたくさん福島だけをかけまわったことだろう。この大きな、大きな事件があったことによって、人の感情が傷つけられ、ロボロになって、爆発してしまう。春になれば、新しい道をまた一歩ずつ進むのを見守ってくれている桜、たんぼぼなどのかわいらしい植物をつむ。夏になれば、日の光と一緒にゆらめく木で虫をつかまえたり、海ではしゃぐこと。秋になれば、落ち葉をかき集めて踏んでみて音を楽しみ、旬の食材をたくさん食べること。冬になれば冷たい雪をほおを赤くさせながら雪合戦や雪だるまを大小と並べてみたりする。こんななにげないことができなくなってしまった。ふるさととふれあうこともできなくなってしまったのが現実だった。しかし、悪いこ

とばかりの思い出ではない。小さい子どもの心にも、大きな協力の気持ちがあった。誰かを助けようとする精神が身に付いた。人のことを思えるような優しく、あたたかみの強い福島になった。

この震災は二度と起きてはほしくないが、そのおかげで変わることもできた。悪いという意味で変わってしまった人もいるだろうが良いという意味で変わった人もたくさんいる。一瞬で笑顔の消えた福島に、笑顔をあたえたのは人。人を強く、たくましくしたのは福島。福島に少しかけていた「愛」が深まったことによって、最後のパーツがうめられ、福島はとてもいきいきとしている。まさにそれこそが「福島は愛のカタチ」と私は考える。

「川が流れていて

美しい景色の福島」

福島市立福島第三中学校

安 田 周 知

僕の住んでいる福島市は、地産地消で野菜や果物、水など、たくさんのが美味しく、そしてなんといっても、川が底が見える程キレイで、景色も、春夏秋冬、朝・昼・夜、全ての時間で見方は違ってとても好きです。

僕の住んでいる地区には、くるみ川という川が流れていて、一年に一度地区のみなさんで、川そうじをします。雑草がおいしげっていたり、ゴミが捨ててあったり、よごれている部分もありますが、そうじをしたら、魚や沢ガニなど、たくさん生き物が戻ってきます。

そして景色は、山に囲まれていて、自然が豊かで、空気がおいしいし、動物たちがたくさんいて、畑をあらされますが、動物たちが好んで食べるということは、それ程

食べ物美味しいということにつながるの
で、僕はこの町が好きです。それに、動物たちがたくさんいることは、それ程この町が豊かで、住みごこちが良いということでもあるので、僕は、気にしません。

春になると、雪がとけ、ふきのとうやたけのこなどがはえ、山菜がとてもおいしい季節になり、冬眠から目覚めて温かい季節になります。

梅雨の時期になると、雨が多くなり、その分たくさんのアジサイが咲きます。そして、田植えの時期でもあり、秋に美味しいお米になってくるのを願います。

夏になると、夏野菜が美味しい季節になります。トマトやきゅうり、ナス、スイカなどたくさん食べ物が収穫できます。そして、くるみ川では川の水が冷たく気持ちがいいです。夏の夜には、たくさんホタルがやってきます。

秋は、待ちに待った収穫の秋。そして食欲の秋です。秋は全てが美味しい時期でもあります。梅雨の時期にうえた新米はとても美味しいです。田んぼには、バッターや赤トンボなどたくさん生き物がいます。

そして、冬は、辺り一面が雪景色に包まれ幻想的な景色になります。冬は、秋に収穫したもち米でもちつきをします。家には、もちつき機などないので、うすときねを使って作ります。もち米をかまどで炊いて、炊けたもち米をうすに移動して、きねでつくります。

このように福島にはたくさん絶景や美味しい食べ物がたくさんあり、環境も豊かで、動物もたくさんいて、とても素晴らしい所なのでみなさんの手でもっと豊かにしていきたいです。

「親切な心を持つとう福島市」

福島市立福島第三中学校

小林 優里

「大変なんだなあー。」私は小学生の時に学校で、ぎじ体験をしました。ぎじ体験では、おもりの入った服を着て、白内障のめがねと腰をまげるベルトを着用しました。そして階段を下ったり上ったりしたり、お手玉でキャッチボールをしたり、おさいふからお金を出したりしました。階段はいつもは二段飛びではやく上れるのになかなかのぼれませんでした。それに手すりを使わないと進めないくらいでした。お手玉のキャッチボールではゆつくりの玉でも落としてしまいました。お金はおさいふの中身が見えなくていちいち出してから支払いをするのですごく大変でした。

おばあちゃんの家に車いすがあり、せまい道、まがり角がすごく難しかったです。それに坂などもすごく大変でした。

私は思いました。ぎじ体験では手ぶらで

も大変だったのにもかかわらずお年よりの人は荷物を持ちながら歩くなんて考えられませんでした。私の知り合いのお母さんも足が悪くてつえをついて歩いていました。一人で坂や階段をのぼれないので、手をかしてあげないとのぼれません。私は困っている顔を見ると手伝ってあげます。もちろん自分からの時もあります。いつも「ありがとう」といわれるとうれしくなります。だから福島市も感謝の言葉がたえないような市にしていきたいために、困っている人を助けられるようにしていきたいと思います。例えば、バスなどに乗った時に体の不自由な人やお年よりに席をゆずったりしていくなどです。

また、バリアフリーについても小学校でならいました。私の分かるかぎりでは、シヤンプーやリンス、洗たく機などに点字をしたり、バスに車いすの人でも乗れるような坂などでした。福島市には私からするとバリアフリーが少ないような気がします。それに駅の方では、信号が青になると音がなりますが、人通りの多い所には音がするように思いました。点字ブロックもある

場所とない場所があると思います。だからできるだけの対策をとらないとますます高い化が進み大変になるような気がします。た。

困っている人がいた時に助けるためには私達が心がけていくしかありません。まずは私達に出来る事から福島を住みやすい市に変えられるようにがんばっていききたいです。

「自然と果物豊かな福島」

福島市立福島第三中学校

関 葉々子

私達の住む福島は、山や川などの自然が多く、ももなどの果物もたくさんあります。

福島の自然と果物は、どこの県の人にも自慢できるくらいすばらしいと思います。

今は、山や川が汚れつつあり、果物は放射能のために検査しなければいけないというのが現状です。都会の人達は、その放射能のある福島の果物を食べたがらず、それ以前に、福島に行こうと思ってもらえません。そんな中でも農家の方々はおいしい果物を作ってくださっています。それも、自然豊かな福島だからこそ作りだせるものだと思います。今は大変な状況のところもありますが、それもいつかは改善され、自然と果物豊かな福島にたくさんの方が来てくれると良いなと思います。

私のじいちゃんとはあちゃんは飯坂で果物農家をしています。もも、りんご、さく

らんぼを作っています。いつも一番に食べさせてくれて、私は食べた感想を言って、それを少し参考にしてくれているそうです。

果物には、畑にするための土地と水が必要と聞きました。土地は、もちろん、でこぼこしては育ちにくいし、ある程度の面積も必要です。水は、さくらんぼが屋根かけするので、雨は届かないため、必要となってきます。水はもとをたどれば川の水です。川が汚れていけば、いくらきれいな水といっても、果物に少し汚れた水をつけることになります。水を汚さないためには、私達の心がけからはじまると思います。私達がなにも心がけなければ、自然豊かな福島が変わってしまいます。だからまずは、川の水はいつでもきれいにしておかないといけないと思います。

私達の身近なものといえばたくさんありますが、その中に山もあります。信夫山など、登ったことのある山もあります。登ったときには、ゴミはほばありませんでした。それはゴミをしっかりと処理してくださる方がいるからなのか、一人一人が気をつけて

いるからなのかわかりませんが、これから一人一人が気をつけていけると自然豊かな福島を継続できると思います。

私はそんな自然と果物豊かな福島が大好きです。

これからおいしい果物を食べられたらすごくうれしいし、自然も汚れず緑がふれる福島にもなったらとてもうれしいし、良いと思います。

「自然がいっぱい福島市」

福島市立福島第三中学校

堀 田 侑 里

私が福島市で良いと思うところは、自然がたくさんあるところです。例えば、花見山や信夫山、吾妻山などです。山や森林という、みどりがたくさんあることが分かります。

まず、花見山などの観光地には、観光客がたくさん訪れます。私は、四年生の頃、遠足で、信夫山に行きました。山に登ってみると、木がたくさんしげっていて、とても自然が豊かなあと感じました。私はあまり山には登らないので、ゆっくり自然を感じたい時や、リラックスしたい時には、また行ってみたいと思います。そして、観光客がたくさん訪れるということは、それだけ福島市の自然が愛されているということだと思うので、私は福島市民として、ほこりに思っています。

次に、福島市は、自然が豊かなので、空

気もきれいだと思います。理科で、植物は光合成すると習いました。植物は、太陽が出ている間だけ、二酸化炭素を吸収して、酸素を出すのです。山や森林には、もちろん木がたくさんあります。つまり、葉がたくさんあるということなので、光合成が多くできるということです。酸素は人間が吸う気体です。その酸素が多いということは、それだけ空気もきれいなんだと思います。登山のテレビで、登山者が大きく深呼吸しているのを、よく見かけます。それは、空気がきれいだからだと思います。

さらに、水もきれいだと思います。私は、山には地下水が流れて、その水がとてもきれいな水だと聞いたことがあります。福島市には山がたくさんあるので、地下水もとてもきれいだと思います。もし、山に登って、地下水が飲めるような所があれば、その場で飲んでみて、地下水のおいしさを味わいたいです。山の中で飲んでいるので、より一層おいしく感じると思います。

私は、福島市は、自然豊かで空気も水もきれいなので、それはとてもすばらしいことだと思います。都会には、あまり森林な

どの自然がないので、福島市は恵まれている環境だと思いました。私は、福島市の自然について今まで興味がありませんでした。知らないことばかりなので、今度調べてみたいです。それから、福島市の自然をもっと増やして、福島市の自然が、もっともっと愛されるようになってほしいです。そして、この、ほこりに思う福島市の自然を何百年後の遠い将来でも、残していければいいなと思いました。

「一人一人の心がけ」

福島市立福島第三中学校

五十嵐 璃乃亜

みなさんは川や海にゴミが落ちているのを見たことがありますか？

ゴミが落ちている姿を見て、いい気持ちになる人はいないと思います。でもゴミを捨ててしまう人はたくさんいます。ゴミがあるせいで川や海がよごれてしまい、生き物もいなくなってしまう。

私は小さいころによく友達と浅い川で遊んでいました。遊んでいたころの川はきれいで生き物もありました。それからあまり、川で遊ぶなくなりました。そして久しぶりに川を見に行ったら、川の水は汚く、あきかななどがおちていました。いつも遊んでいた川なのでいやな気持ちになりました。そしたら、川を掃除をしているおじさんがいました。そのおじさんは毎日毎日川のゴミ拾いなどをしていました。私はそれを見ていて友達と家からほうきなどをもってき

て、おじさんの真似をして川掃除をしていました。きれいにするのは大変でしたが、すぐきれいになったときのうれしさはとでもすごかったです。ですが私は毎日つづかず、あきてしまいました。久しぶりに川に行ったら、おじさんに会いました。そして、

「川をきれいにすると心もきれいになるんだよ。」

と言っていました。小さいころの私には少し分からなかったですがいい気分になりました。やはり、ゴミが少しあるかないかでその場所の印象ががらりと変わります。

私は小さいころから川や水を守るために、必要以上に水をつかわないこと、節水を心がけること、川にゴミを捨てないことと言われてきました。その心がけを忘れずに守りたいと思います。

なぜ人はゴミを捨てるのでしょうか？ゴミを持ち帰るのはめんどくさいと楽をしたいがために少しくらいいいだろう。だれも気づかないだろうと考えてしまいます。ですがその考えを世界中の人が考えてしまつたらどうなるでしょう。

ポイ捨てなどは一人一人の心がけが一番大切だと思います。ゴミ拾いをして少しづつきれいにしようとがんばっている人もいます。どんなに小さいことでも行動にうつし、自分の町をきれいにしましょう。未来にも日本の美しい自然を残し、美しい自然を見守っていきましょう。

「福島市とは…」

福島市立福島第三中学校

加藤 遥

「一、子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」これは福島市民憲章の一つです。では、それは本当にできているのでしょうか。

私は、小学校五年生のときに高齢者疑似体験をしました。腰や手足におもりをつけ、白内障のかわりに白くにごった眼鏡をつけました。そのとき、私は驚きました。いつものように歩こうと思っても思うように歩くことができず、階段なども何度まころびそうになり、とてもこわかったです。お金を数えるとき、形もぼんやりとしていてなにがどれかがよく分かりませんでした。私達にとっては、普通にできていたことが、高齢になっていくにつれて、普通ではなくなっていくのです。

では、どのようにしたら高齢な方々が住みやすい町になっていくのでしょうか。

私は、小学校のときに、バリアフリーについて調べました。バリアフリーとは、高齢者や身体障害者のための設備です。例えば、階段のわきにスロープがついていたり、点字ブロックなどがバリアフリーといえます。

このバリアフリーはどこにでもあるわけではありません。福島市内に充実している場所といえば、県庁や市庁などです。そのような場所は、みんなが来やすいようにつくられています。高齢者や身体障害者の方々はそれ以外の場所ではどのようにしているのでしょうか。少しの段差だけでも大変なのに、階段などでは登ることが困難です。福島市内には、どれだけ、階段や段差があるのでしょうか。そのことを考えると、本当に「子どもからおとしよりまで安全で健康なまち」に福島市がなっているとは、私は思えません。

高齢者や身体障害者の方々が暮らしやすいまちとは、どのようなまちなのでしょう。そのことを考えてみましょう。

道がせまいのと広いのでは、広いほうがいいですし、段差が多いのと少ないのでは、

少ないほうがいいにきまっています。高齢者や身体障害者の方々が暮らしやすいまちをつくっていくことが、福島市にとっていいまちだと思います。今すぐに、そうしていくのは無理かもしれませんが、それでも、少しずつ少しずつ行っていけば、理想のまちができていくはずです。

大切なのは、福島市を少しでも良くしていくことだと思う、その心です。

「支え合える福島」

福島市立福島第三中学校

阿部 大樹

ぼくは、子供からおとしよりまで安全で健康なまちについて考えたいと思います。ぼくは、大波というところに住んでいます。中学校から遠いので路線バスで学校など部活へ行きます。そのバスの中でのことを考えたいです。たまにバスを利用している人が多い時があります。その時はもう、席が空いていません。なのでおとしよりが乗ってきて座れません。その時はぼくも立っていました。ぼくは、見ていておかしいと思いました。なぜかというと高校生が席に座っていておとしよりは立っていることです。しかもおとしよりなどの優先席にも高校生などが座っていました。そして次のバス停で何人かの高校生が降りました。空いた席はぼくの目の前でしたがぼくはおとしよりにゆずりました。そしたらおとしよりの方が

「ありがとうございます。」

と言ってくれました。なんかうれしくなりました。ぼくは荷物が重かったけどゆずって良かったと思いました。

次は買い物での事です。ぼくはこの前買い物に行きました。そして帰ろうとした時に商品を何個か落としたおとしよりがいました。でもぼくは、急いでいて近くに居たのに拾ってあげる事が出来ませんでした。ぼくは帰っている時に、

「拾えば良かったな。」

とっていました。おとしよりだからこれも足も悪いのに大変だったかなと思います、

「次は拾おう。」

と思いました。ぼくは、今まで思っているだけで行動にはうつせませんでした。けどこの事をきっかけにして、思うだけではなく、行動にうつしたいと思います。次は、

「やれば良かったな。」

などで終わらないようにしたいです。

最後に、ぼくが理想と思う福島市は、子供からおとしよりが支えあえる福島だと思っています。ぼくが、おとしよりになったら子供などに話しかけてほしいと思うしおとし

よりの立場になって考えて、ルールやマナーにも気を付けて福島市民として大人になったら、子供もおとしよりどちらも支えていきたいです。それと、おとしよりなどを支える人が増えるように、声をかけていきたいです、ぼくは、

「そんな人が増えたらいいな。」

と思いました。

『福島市民憲章』について

福島市立福島第四中学校

菅 野 楽 人

僕は、「福島市民憲章」の中で、とても良いと思ったものが、三つあります。

一つ目は、「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう。」というところの憲章です。

この憲章を選んだのには、理由があります。この「福島市民憲章」の趣旨の中に、「郷土福島の限らない発展」と書かれています。この部分は、僕が選んだ憲章と、内容が繋がっていると思いました。まず教育の面ですが、教育により良い人材を育て、それにより発展する、といったような意味だと思いました。次に文化の面ですが、古い文化を守り、観光客が増えることによって、発展する、という意味だと、僕は考えました。こういった意味があるのではないかと思ったので、僕は、この憲章を、良いと思いました。

二つ目は、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」というところです。

この憲章を選んだのにも、理由があります。その理由は、一つ目の理由に、少し似ています。「福島市民憲章」の趣旨の中に、「市民すべての幸せ」と書いてありました。市民のすべての人が、他の人に親切に接するようにすれば、福島市のすべての人々が、幸せになれるだろうと、僕は思いました。なので僕は、この憲章が、良いと思いました。

三つ目は、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」というところです。

この憲章の意味は、どんな世代でも安全に過ごすことのできる、バリアフリーのことを指していると、僕はそう思いました。なので、これからもっと、バリアフリーの施設が、増えてほしいと思いました。そういったものが増えれば、もっと生活が便利になると思います。

僕はこのコンクールで、「福島市民憲章」という物を、初めて知りました。なので、これからは、そのことを意識して生活して

いきたいです。

「なにもかもきれいな町にしよう」

福島市立福島第四中学校

島 貫 陽 向

ぼくはこの町をなにもかもきれいなまちになれると思います。なぜなにもかもきれいになってほしいかという理由は二つあります。まず一つ目は空や水や自然などのゆたかな町になってほしいからです。さいきんはポイすてやポイすてが原因で火事などがおこっています。なのでぼくはポイすてをやめれば水や木などがきれいになると思います。もしポイすてをやめなかつたら水がにぎり、きたなく、木はもしかしたら無くなっているかもしれません。なのでぼくは一船の人にできるCO₂を減らすなどではなくかんたんな「ポイすて」をしなければこの町の自然や水などもっときれいになると思います。まずぼくはそういうかん単なことをやり、町中に守ってもらい、県に守ってもらい、この福島をもっともっときれいな県にして、ほかの県に

負けないくらい水や木をきれいにしたいです。なのでポイすては本当によつてはいけないと思います。なのでまずは自分からしていけばいいと思います。福島が自然ゆたかな県にするようにがんばりたいです。

二つ目は人の心をもっときれいになってほしいです。さいきんは万引きなどが多くなっています。なので本当にかん単なことからやつていけばいいです。最近はこちらまえのことができないという人が増えてきたので、本当にあたりまえのことを守つていけばいいと思います。あたりまえのことをやり続けているとあたりまえじゃないことはやらなくなるのでまずはあたりまえのことをしてから色々な物にちょう戦したいです。そうしてぼくは福島のなにもかもがきれいになるといいです。もしできたのなら、他の県にも負けないくらいなにもかもがきれいな福島になり、もう福島は元気になったとしようめいできるくらいなにもかもきれいになると本当の福島が出てくるので「あたりまえのことをあたりまえのようにする」ということができる。ぼくはともよいと思います。みんなと力を合わせ福

島をなにもきれいな福島になるようにしたいです。

「福島市民憲章」

福島市立福島第四中学校

奈良輪 拓海

夏休みの宿題の一つである課題作文で福島市民憲章のことを初めて知りました。

市民憲章には五つのこうもくがあります。がその中で気になったのが親切で愛情あふれるまちをつくりましようというこうもくです。

親切で愛情あふれるまちをつくるには、まずあいさつをすればいいと思います。知らない人でもこんにちはやおはようございます、こんばんは、おかえりなさいなどまずあいさつからだと思います。年よりの人などなにか不自由でこまっている人がいたら助けるなどをすればいいと思う。

子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくるには、横断歩道をわたるときなどはちゃんと右左を見てからわたる。自転車に乗るときはヘルメットをつけるなど車にのる人はしっかり運転しなければいけ

ないし、いざとなったら自分の身は自分で守らなければいけないので自分でも気を付ける。

空も水もきれいなまちをつくるには、家でせんざいをあまり使わないや植物を増やす。このごろ木が少なくなってきたので植物を増やすことによって空気はきれいになるので植物をふやす。

このようなかんとんにできることをすれば福島はいまよりもっともうつくしい福島になって、うつくしま、ふくしまになれる。

市民一人一人が、がんばればまたあの美しい福島がもどるだろう。

「福島市民憲章について」

福島市立福島第四中学校

栃久保 紫陽

僕は、今まで福島市に十三年間住み続けていますが、福島市民憲章とはどういうものなのか、何が書かれているものなのか全く知りませんでした。ですから、この作文を書くにあたって福島市民憲章とはどういうもので、何が書かれているものなのか、インターネットを使って調べてみることにしました。

すると、このようなことが看板に書かれていました。一、空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。一、教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう。一、親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。一、きまわりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。一、子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。昭和四十八年四月一日制定と書いてあり、上の方には、わたくし

たちは、みどりにつつまれた信夫山と清い流れの阿武隈川をもつ福島市民です。福島市は、地味豊かなしのぶの里に古くから開けた人情の美しいまちです。わたくしたちは、平和で、さらに住みよく希望にみちたまちをつくるため二つの市民憲章をさだめます。と書かれていました。

僕は、書かれていること全部読んだのですが、引つかかることが二つありました。一つは、福島市民憲章の一番最初に書かれている空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょうという文の、水もきれいなという部分で二つ目が、上の方に書かれていた清い流れの阿武隈川というところなんです。なぜその部分に引つかかったのかというと、二〇一一年三月十一日に東日本大震災が起こったのち、十二日に福島第一原子力発電所三号機と一号機で水素爆発が起こってしまい、それからは常に目では見えない放射能があるようになったからです。ですから、川の水はもちろん、海水までもが汚染されているという状況に福島県全体が置かれているからです。

このようなことから、私は水もきれいな

という部分と清い流れの阿武隈川という部分は今の時点の状況からすると、違うのではないかという考えになりました。

ですが、今は違っても、今から綺麗にしていけることはできるので、福島市民憲章に書いてある通りの美しくみどり豊かで綺麗なまちそして清い流れの阿武隈川にしていければ良いのでは、ないかと思いました。

これは、放射能が関わってくる問題なので、すぐにはどうにかできることではありませんが、たくさんさんの時間をかけてでも、元のように戻ることを祈っています。

「福の島 福島市」

福島市立福島第四中学校

斎藤 浩 太

福島市の市民憲章のひとつに「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」とあります。しかし、震災以降の福島市ではいろいろな場所で除染が行われています。僕の家近くの音楽堂でも早い時期から除染が行われました。しかし、そこに生い茂っていた花々は刈り取られ、大きな木も伐採されました。小学校の頃はちよつとした森のようで貴重な遊び場でした。また、除染が終わらない公園は立ち入りを禁止され、雑草が僕の背丈よりも高く伸びています。この現状を目の当たりにするととても悲しく、残念に思います。

当たり前のように思っていたものが、ある日突然、なくなってしまう。今まではそんなことを考えたことはありませんでした。

この貴重な自然を守り続けるにはどうし

たらいいのか。あまりにも大きな課題を突きつけられたような感じがしました。もし、あの時、原発での事故がなければ：

そんなことを考えても仕方ありません。今、僕たちにできること。それは未来の福島市を担えるように、勉強や部活に励み、仲間たちとの絆を強くすること。

そして、福のある島、福島市をいつか世界に誇れるよう頑張りたいと思います。

「福島に住むという事」

福島市立福島第四中学校

白坂 亮太

ぼくは、福島市民憲章というのがあると
いう事を知りませんでした。学校で「ふく
しまの風景」というハガキをもらいその中
に福島市民憲章の5つが書いてあり知りま
した。

「空も水もきれいな、みどりのまちをつ
くりましょう。」

ぼくは、平成二十二年の夏休みに、もに
わダムイベントに参加しました。森林を
ばっさいして光を取り込み若い木を育てた
り、ふるさとの川を守るための水の大切さ
やダムの大切さ、限りある資源について学
びました。

次の年も参加したいなと思っていたら、
あの大震災が起き、原発の事故が起こりま
した。震災が起きてからは、生活が変わっ
てしまいました。外で遊べない、川の水も
さわれなくなり「子どもからおとしよりも

で安全で健康なまちをつくりましょう」と
いう市民憲章もできていなかったのかなと
思いました。でも震災があつてから嫌な事
とか悲しい事とか沢山あつたけど外の県
の人やテレビに出ている人などが、福島を
応援してくれたり、ボランティアをしてく
れるのを見ていたら、福島の人も元気にな
つてきて、市民憲章のきまりを守り、力を
あわせて楽しく働けるまちをつくりまし
ょう。親切で愛情あふれるまちをつくりま
しょう。ということも震災があつたからよ
いに守れてきているのではないのかなと思
いました。

もらったハガキは、どれもとてもきれい
でぼくは特に吾妻山の桶沼のハガキが好き
です。福島市は、山が多くとても景色がき
れいです。空も青くてきれいです。だから
早く水も、もつともつときれいになれば良
いなと思います。そのためには、また市民
憲章にあるように、「きまりを守り、力を
あわせて楽しく働けるまちづくり」もとて
も大切だと思いました。

ぼくも、もつと福島を好きになりたいし、
震災で福島を出てしまった友達もき

れいに良くなった福島に帰ってきてほしい
なと思います。

ぼくも市民憲章をもつと守れるようにが
んばりたいと思います。もつと勉強も部活
もがんばっていききたいと思います。そして
みんなと一緒に福島は、とても良いところ
だともつと伝えていきたいなと思います。

「福島市をよりよくするために」

福島市立岳陽中学校

山 本 雪 乃

福島市民は自然に囲まれて生活しています。山に囲まれていたり、木もたくましく育っています。

福島市の空も水もみどりもきれいな理由は福島市民の一人一人が心がけているからだと思います。もちろん掃除をしてくれる人などもありしますが、みんなが気をつけているからだだと思います。例えば、福島市に落ちているごみはとても少ないと思います。私は、自分が歩いているところがごみだらけだったら、捨ててもいいよね、と思い捨ててしまうと思います。でも自分の歩いているところがとてもきれいだったら捨てたくないし、捨てにくいと思います。日々、ごみが落ちていたら掃除をしてくれる人がいるからだと思います。それに一般の人々も捨てないように気をつけている人が沢山いるからごみが一つも落ちていない

ようなまちなんだと思います。

福島市の空の空気がきれいな理由は自然がとてもきれいだからだと思います。乗り物を運転しても、二酸化炭素など森や山、木などが吸ってきれいな空気を出してくれているから、いつも空気がきれいなんだと思います。

福島市の緑が美しい理由は、二つあると思います。一つは、山がいろんなところにある、自然が豊かなところ です。山がもしなかったら、緑がとても少なく、空気があまりきれいなまちではないと思います。それに、山は人工的な自然ではないと思います。自然だからできることがあると思うし、四季によって山の色が変わったりするところも美しいなと思います。二つめは、福島市民の人々が自然をととても大切にしていることです。むやみに花や草を取ったりする人もいないし、逆に山の自然を守ったり、木を植えたり、様々な活動が行われたりもしています。だから福島市の緑はとてもきれいで美しいのだと思います。

ごみが少ないから、緑が育ったり、車を運転しても、緑がきれいな空気をつくって

くれることなど、美しい緑がいつまでも続いている理由は、福島市民の一人一人が協力をしてくれているからだと思います。だからこそ、これからも、豊かな福島市の自然を守り続けていかなければいけないと思います。そのためにも、一人一人が気をつけて福島市をよりよい地域にしていこうと思います。ほんの少しのことに気をつけながら福島市民に生活してほしいと思います。

「よりよい福島になるために」

福島市立岳陽中学校

八 島 かすみ

私は、福島市民として誇りを持っています。

なぜなら福島の人はとても親切で思いやりがあるからです。朝、学校に行く時にごみや木の葉を拾う近所の人と毎日あいさつを交わします。雪がたくさん降った寒い冬の日でも雪かきをしてくれています。これは思いやりの心があるから出来るのだと思います。掃除をして疲れているはずなのに、私が出ると元気にあいさつしてくれます。私はそんな福島市民の方を尊敬しています。ごみや木の葉を拾う事は自然を守る事にも繋がります。

福島市民憲章の一つ目の、

「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」

にも関わりがあると思いました。ごみを拾う事は川岸なら水もきれいになって、たく

さんの魚や生物が増えると思います。空をきれいにするためには家庭内や工場から出る大量の煙を減らしていかなくてはなりません。そのためには、自分達も外でのバーベキューや焚き火などをする時には出来るだけ、煙がでないように火加減を調節するなど出来る事から少しずつ空がきれいな福島になっていければ良いです。

みどりを増やしていくためには、木の伐採を減らすことそして木を植える事が重要だと考えました。今、日本全国で木が減少しているので福島市でも計画を立てて木を伐採出来ればみどりのまちに近付けると思いました。みどりを増やしていくには、木や花をボランティア活動として植える事が大切です。木を大きく育てるには長い時間が必要ですが、その分やりがいや達成感を感じると思っています。

私は近所の人達のおかげで自然を守る事の大切さと人への親切な心を感じました。これからは誰にでも元氣よくあいさつが出来るように努力をし、福島空やみどりを守るように環境についても少し調べてみたいと思います。震災により、一度は大

変な思いをしましたが、これからはみどりが沢山あって、福島と人への愛情と親切さがあるまちを目指していきたいです。

これは私一人では実現は不可能ですが、福島みなさんが一人、一人考えて行動すればきっと可能になると思うので、よりよい福島市になるために努力していきたいと思いました。

「まちの緑で心もきれいに」

福島市立岳陽中学校

齋藤 雅鈴恵

東日本大震災で原子力災害もあり、私達福島市民は比較的外出する機会が減っている。それとともに、自然とふれ合うことも少なくなっている。このようなことが原因で、ずっと家の中にいたり、テレビやゲームをやりすぎてしまったりすると思う。

そこで福島市の自然をきれいにすればふれることはできなくても観賞することはできる。そのきれいな自然を見れば、外で遊びたいと思うかもしれない。見ているだけでも、気持ちはずっカリするかもしれない。しかし、どうやってこの町をきれいにすればいいのか。この原子力災害の問題が起きている中でどのように、自然をきれいにすればいいのか。私は、いくつか考えてみた。

まず一つ目は、身近なところからきれい

にしていく方法だ。家の近くなど、身近なところなら、いつも通っているから放射線の心配は少ないと思う。それに、身近な自然をきれいにすると、見る回数も多くなる。そして、身近がきれいになると毎日スッキリした気分で過ごせると思う。

二つ目は、自分の家の中で花や緑の植物を植えれば良いと思う。外がダメなら、家の中で育てても空気が良くなり、ゲームなどはあまりやらなくなると思う。

なぜ私は、こんなにもきれいな自然にこだわるのか。それは、体験したからだ。

私の亡くなったおじいちゃんは、病気になるってからずっと家の中にいた。おじいちゃんがいた部屋に入ってみると、うす暗くて空気が悪かった。私の母は、おじいちゃんのことを一番心配していた。母は、どうかして部屋の空気を外みたいによくしようと思うと考えていた。そこで思いついたのが、部屋に植物を置くという考えだった。確かに植物は、人間のはく二酸化炭素を吸い、酸素を出すという働きがある。そのときは、あまり意味がないのではないかと思っていた。しかし、少し過ぎてからおじい

ちゃん部屋の部屋に行ってみると、前よりは空気がよくなりスッキリしていた。そして、おじいちゃんの方にも変化があった。ずっと寝てばかりだったおじいちゃんが少しづつ、起きて生活するようになった。それから、自分から外に出たいと言うようになった。病気は良くなかったが、部屋に植物を置くだけで、こんなにも気持ちが変わるのだなあと思った。

それと同じで、福島市民の多くは東日本大震災が原因で、部屋に閉じこもっている人がたくさんいる。その方達を…その方達の心を助けるのはだれか。それは、福島市民全員だ。

全員で積極的に自然をきれいにし、そして私のおじいちゃんのように心もきれいになるようにする。

福島市民全員で、福島市の緑も心もきれいにすれば、この町は明るくなると思えます。

「働くということの大切さ」

福島市立岳陽中学校

小林 遙 香

私達は、これから大人になって社会に出て働くようになります。福島市をより良い町にするためには一人一人が一生懸命働くことが大切だと思います。

仕事というのは一人で行うものではなく、協力して助け合うことで大きなことができると思います。例えば、医者という仕事についている人は、人の命を助けるという大きな役割があります。それは一人で手術を行っているわけでもないし、病院で具合を見てもらい薬をもらうという二つの仕事で協力して行うことがあります。このように、協力し合うことで人が助かったり、幸せになったりするので仕事は協力が必須です。

その協力が生まれるためには、おたがいを分かりあって信頼しめとめ合っていないければいけません。友達関係でも、その人

のいいところ、悪いところを知り、おたがいにみとめ合い親友になると思うので、仕事でも自分の意見を言い、そして一番大切な仕事の仲間を信頼することが協力的性につながると思います。

楽しく働ける町にするためには、人と人との関係や環境が整っていないといけないのでそこは大人として働けたらいいと思っています。

また、働く側の関係も大切ですがお客さんとの関係も必要だと思っています。気軽に話しかけることができるということはお客さんにはいい印象になると思うので、働く側は笑顔で対応することが大切です。

私達はまだ働けないけれど、働く年になった時には、一生懸命働きたいと思っています。部活などと同じく後輩は先輩の姿を見て、目標にそしてそれを超えられるように努力します。仕事も、目標にする人を決めることで、もっと努力すると思います。

きまりを守り、楽しく働くためには、一人一人の意識や仲間との関係が大切だと思っています。仕事は、人を幸せにしたり安全を守ったり人のためにできるし、自分自身の

ためにもなるもので、多くの人が働き、豊かな町になるといいです。全員が自分の好きな職業につけるとは限らないけれども、どの職業も自分の個性を出すことで楽しく働けると思います。

私達中学生は今の中学校生活で職業について未来について考え、大人になったときに楽しくできるようにということを考えて生活していきたいです。うまくいかないこともあるけれど仲間と協力することで乗り越えられるんだと思います。

「親切で愛情あふれる安全な町に」

福島市立岳陽中学校

山田 朋佳

私は、福島市を、「親切で愛情あふれる安全な町」にしたいと思いました。

安全な町にしたいという風に思った理由は、小さな子どもや、おとしよりなどが、たくさんいるからです。坂道などを、歩いている時に、自転車に乗った人が、けっこう速く、進んでいるのを見て、そこに小さな子どもや、おとしよりがいたら、すごく危険だと思ったからです。また、車や自転車が、信号が赤になるギリギリに渡っているのを見て、それもすごく危険だと思ったからです。

親切な町にしたいと思った理由は、おとしよりに席をゆずっているという場面を、テレビなどで、よく見るからです。私は、あまりバスや電車には乗りませんが、おとしよりなどに席をゆずる、親切な人が増えれば良いと思いました。私が親切な町にし

たい理由は、もう一つあります。それは、ゴミを拾っている人がいることです。あまり多くはありませんが、ゴミを拾っている、おじいさんやおばあさんを見たことがあります。自分から、進んでゴミ拾いをしていて、すごく親切な人だなあと思いました。愛情あふれる町にするには、これも大切なことだということが分かりました。

愛情あふれる町にしたいと思った理由は、あいさつについて、思ったことがあったからです。私は、あいさつはとても大切なことで、人と人との関係を良くするため、すごく重要なことだと思っています。そう思っているの、私は、近所の人にたくさんあいさつをしています。でも、私の家の近所に住んでいる人で、あいさつをしても、あいさつを返してくれない人がいます。私は、自分があいさつをしたのに、相手があいさつを返してくれない時、いつも、ひどいなあと 생각합니다。だから、私は、愛情あふれて、一人一人あいさつをちゃんとする町になつてほしいと思いました。私が愛情あふれる町にしたい理由は、もう一つあります。それは、朝道に立つてくれてい

る人がいることです。私が小学生の時、朝学校に行くとき、いつも地域の方が早くから来て、通学路に立っていてくれました。小学生は、みんな元気にあいさつをしていました。地域の方も、あいさつを返してくれました。私は、中学生になつてから、このような光景が増えれば良いなと思うようになりました。私の家は、学校からすごく近いので、学校に行くまでに、先生一人しか会いません。今まで私は、立っている先生に、あまり大きな声であいさつは、出来ていなかったの、これからは、今よりも大きな声で、小学生の時のようにあいさつをしたいと思いました。

私は、いつもの日常生活の中の光景から、将来の福島市が、今よりも、「親切で愛情あふれる安全な町」になつてほしいと思いました。

「笑顔の絶えない福島県」

福島市立岳陽中学校

加藤 あかり

福島県は、東日本大震災や原子力災害にも負けないで、今、現在、助け合って生活しています。三月十一日は、今でも、忘れる事のできない日です。そんな時でも、家族の笑顔や親友の笑顔を見ると、心が安らぎます。実際、こんな風に、私も、東日本大震災を乗り越えてきました。

特に、忘れられない事があります。私の家の近所の人と助け合った事です。周りの家の人は、みな、お年寄りばかりで、私よりも大変だったと思います。でも、自分の事よりも私の事を、気を使ってくれました。そして、笑顔もありました。笑顔は、つらくて悲しい時でも、心を安らげてくれる物だと感じました。

ときどき、私も何か、つらい思いをして、人の話も聞きもせず、暴言ばかり吐いた時が何度かあります。でも、助け合った、あ

の日を思い出すと、今の自分が、ばからしく思うときが何度もあります。

福島県は、他の県よりも、たくさんの笑顔があると思います。たぶん、きつかけは、震災だと思っています。震災は、人間と人間の関係を、もう一回、見直して、くれた良い機会だと私は思います。人は、一人では生きていけないと。

笑顔で毎日を過ごしていると、何か失敗して、人にかかわれたときでも、次がんばればいいやという考えになれます。一日を、ポジティブに過ごせます。笑顔は大切です。

私は、つらいことがあっても、笑顔で人にあいさつをすることを心がけています。怒った顔で、あいさつを人にしても、不快感だけが相手の印象に残ってしまうからです。あいさつのしかたを少し変えてしまつたら、悪い印象が人に残ってしまうので、気をつけています。

私は、笑顔あふれる福島県で、ずっとありたいです。なぜなら、笑顔でいて、悪い印象を受ける人は、なかなかいないと思うからです。

学校でも、笑顔であいさつを心がけています。私は、笑顔であいさつをした相手に、笑顔であいさつを、返されると、その日がとてもハッピーに過ごせます。

笑顔の輪を福島県から、全国に広げたいです。そして、震災のあの日のように、つらい現実でも、笑顔で過ごせたらいいなあと何度も思います。今は、お金があれば何でも買える世の中ですが、笑顔はお金では、買えることはできません。それほど、大切な物です。

これからは、笑顔の絶えない福島県を目指して、今できることから始めたいと思います。

震災から立ち直った福島県なら、できるはずです。笑顔のあふれる社会が、これから築いてくれたらいいなあとは私は思っています。

「空も水もきれいなまちに

するには」

福島市立岳陽中学校

渡 邊 奈々羽

最近、水の汚染や、地球温暖化によって天気が変わりやすくなったり、安心して水を口に入れてもいいのか、気になったりすることが多くなってきました。そのような状況にあるなかで、私が考える今の福島市にできることは、まず、むだなエネルギーを使わないということです。夏から秋にかけて蒸し暑い日が多いですが、室内の温度が三十度を超えない場合は、エアコンの使用をひかえ、せん風機を回してがまんするなどの、工夫が必要だと思います。また、家にある保冷剤をタオルやハンカチに包み、体のいたる所にあてるのも効果的だと思います。どうしても暑いときには、エアコンの設定温度を二十八度ぐらいで、エネルギーの使いすぎをふせげる適切な温度で夏の暑い日を楽しんでいきたいな

と思います。こうした節電を福島市に住んでいる人々が実感し、きれいな空をつくっていききたいです。また、これ以上、地球温暖化が進まないようにしていきたいと思っています。

私たちがいつでも安心して飲める水をつくっていくには、まず、環境を汚さないという工夫が必要だと思います。家で料理をするとき、油や、野菜などの食べ残さないところを流しに直接流してしまったことはありませんか。直接流してしまうことで、川や海に流れたとき、その水が汚染されてしまい、目で見た感じも、手でさわって見た感じも、汚いと感じてしまうことが多くなるのではないかと、思います。福島市民の人が見て、「ああ、あの川の水、汚いな」と思うのなら、まだ大丈夫ですが、他県から来た人などに「汚い」と思われたら、福島市は、汚い町と、思われてしまうようになるかもしれません。そう思われないうち、料理で出たゴミなどは、きちんとゴミ袋に捨て、直接流すことがないような町になっていけたら、いいと思います。

また、私は福島が緑が多い町、として有

名になったらすごいなと思います。雑草が多いのではなく、木があちらこちらにたくさんある、すてきな町になっていつてほしいです。道路には、四月になると花が咲く、さくらの木をきれいに並べて、その道路を通る人が、すてきな道だと思えるようにしたいです。雑草は、たくさん生えていると、いやだと思う人もいるので、できるだけなくしていきたいなと思いました。あと、花が多い福島市にもしていきたいです。公園などの人が集まる場所に、見ている人を感じさせるきれいな花がたくさん咲いていれたいなと思います。

私は、空や水をきれいにするには、緑と花が多い町をつくるには、と、私が考える理想的な福島市を紹介しましたが、まだ実現することのできないことが多いと思うので、できることだけでも、福島市民の人々が協力し合い、実現していけたらいいなと思います。

「今以上の福島に」

福島市立岳陽中学校

茂 木 陽

私は最近良く、この福島市に生まれてくれて良かったなと思います。なぜかというと、この福島市は緑豊かな場所です。みんなが安心して暮らすことが出来るからです。そんな福島をもっと良くするために私は自分が出来るようなことを考えてみました。

まず最初に考えたのは「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」について自分が出来るようなことです。最近はありませんですが、吸い終わった煙草を道に捨てたり空き缶をポイ捨てしたりする姿も少しあったので、ちゃんとゴミ箱に捨てるように呼びかけをすればいいと思いました。呼びかけるのにも色々な方法がありますが、みんなの目に入るように、ポスターなどで呼びかけるのがいいと思いました。また、自分はゴミをゴミ箱に捨てないでポ

イ捨てるような人にはなりたくないと思いました。

そして、もう一つ考えたのは「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」についてです。私ができそうだと思うことは、お年寄りに気を配ることです。よく、バスの席はお年寄りの人にゆずれと言われますが、それだけでは親切とは言えないのかなと思います。配ることが福島市をよくするポイントだと考えました。バスの席をゆずっただけではなく、そのお年寄りも持っている荷物を持つてあげたり、お年寄りにいい気分になってもらうために自分から話しかけてみたり、親切にするのに一工夫すれば、他の市の人たちも

「福島の人たちは親切だ。」

「福島市がうらやましい。」

などと言ってくれるのではないのでしょうか。また、親切にすることで人と人のつながりも深くなり、今後親切にする人が増えてくるかなと思いました。人に親切にすることで、こんなにたくさんいいことがあるんだと思いました。

今回は「空も水もきれいなみどりのまち

をつくりましょう。」についてと「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」について考えました。福島市は、緑豊かなので、親切にする人も多いので、これからもそれを続けていきたいということをみんなにも伝えたいと思いました。今以上の福島市になるように、福島市のみんなががんばっていきたいです。また、他の市の人から、今以上の福島を認めてもらえる日がくると思います。

「福島市を輝く町へ」

福島市立岳陽中学校

渡 辺 麗 菜

私は中学一年生です。受験なんて「まだまだ」と思っていました。でも、一学期の初めの頃に、今分らないとダメだ。と学校の先生に言われました。私はそれまで、まだ一年生なんだし。と思っていて、話を聞いた時、ドキッとなりました。

私はそれから勉強で分らなかつたところを復習し、完全に解けるようになりました。分かつているところでも、ノートを見るまで解いたりして、余裕があつたら予習をしています。この努力が受験に良い結果をだす理由の一つになっていてほしいです。そして大人になったら、福島伝統を受け継ぎ、輝いている福島をより一層輝く町にしていきたいと思っています。

今年行われた、東北六魂祭では、市内、県内、県外の方々がいらつしやいました。

私がそこですごくいいと思ったのは、屋台やお店を開いている方々です。とても暑い中、笑顔を絶やさず、どんなに忙しくても丁寧になりたいたいと思いました。あと、道路にゴミが落ちていなかったことです。大勢の人がいるので、ポイ捨てしている人がいるのではないかと、気にしていたのですが、目立つゴミはありませんでした。とてもすごいと思いました。多分、捨ててあつても誰かが拾い、ゴミ箱に捨てていたのだと思います。

福島市には、おいしい果物がたくさんあります。代表的な果物はモモです。日本の中でも生産量は上位に入っていると思います。私も福島市のモモは大好きです。でも今、後継者がいない等の理由で、やめてしまう方々が増えてきています。私はとてももったいないと思います。今まで続けてきたことを止めてしまうのはどうなのかな、と思っています。

私は、果物や福島の方々の笑顔で、この私達が住んでいる福島を輝かせたいです。中学生の私には、まだ何もすることができ

ませんが、勉強や文化を学び、この福島の将来を考えていきたいと思っています。福島は東日本大震災で一時みなさんから笑顔が消えました。でも、辛い過去を胸に刻み、笑顔を取り戻しています。まだ新しい道を歩み始めたばかりです。今までにない笑顔を福島市に咲かせたいです。そしてあの過去をこれから生まれてくる子供たちに伝えていかなければいけないと思います。私は、震災を乗り越えたからこそ、今があるんだよ。と伝えたいです。

私はこれから、色々なことを学び、大人になっていきます。大人になったら、学んだことを活かして生きていきます。そして、学んだことを大切にし、福島の文化や伝統を受け継いでいきます。そして、次の世代へ、輝いている福島市を受け継がせられるよう、今できることを、精一杯努力していきたいと思っています。

「かがやく福島」

福島市立岳陽中学校

大場 千智

大地震が東北を襲った、二〇一一年三月十一日。あの日から福島は変わってしまった。

原子力発電所が爆発し、放射能がたくさん出た。今もまだ出ている。福島から県外へ、避難した人はたくさんいる。人口も前よりも少なくなった。福島県産の食べ物も前よりあまり買われなくなった。福島は、東北は、変わってしまった。

でも、あきらめなかった。東北六県で行う『東北六魂祭』を行い、福島にたくさんの人が六魂祭を見に来てくれた。その時、私は、福島は嫌われているのではないかと思っていた。でも六魂祭の様子をみて、福島は嫌われてなんかいない、と思えた。

福島は、また変わろうとしているのではないかと思った。でも、変わるのはあの大地震の前の福島ではなく、大震災後から変

わる新しい福島なのではないか、と私は思う。福島の人々、みんなが変わろうとしているのではないか、そんなことが『東北六魂祭』の様子から感じられました。

みんなが変わろうとしている、それなのに私は変わろうとしていないのではないかと思い、自分が恥ずかしくなった。福島が嫌われている、自分は何もしていないのに福島を勝手に嫌な気持ちをしていた自分が、とても恥ずかしくなった。このとき、私は自分の故郷を大切にしようと思った。優しくしてあげたいと思った。

こんな私のように、まだ変わろうとしていない人が、どんどん自分から変わろうと思えば思うほど、変わる人が増えて、希望もどんどんあふれてくるだろうな、と思った。

そして、希望がたくさんあふれるとその希望をパワーに福島も変わる、私はそうなっている。たとえば、放射能がたくさん出ている、人口が少なくても、福島県産の食べ物があり買われなくても、福島が変わって、福島が前よりももっと、かがやけばそれでいいんだと感じた。福島か

ら。

これから、教育と文化を尊び希望にかがやくまちを作るために、みんなが助け合って協力して生活していけば誰もが幸せに暮らしていける、そう信じている。

私は、この福島市民憲章を見て、福島みんなが安全で楽しく、幸せに福島で生活する事がなによりで一番の大切な事だという事をこの作文を書いて、学んだ。

こんなに良い故郷は日本で、世界で福島だけだろうと思った。福島で生きよう、と感じた。

福島はこれからも変わり続けるだろう。たくさんさんの夢と希望をパワーに。だから私たちも希望を持って、夢を持って、精一杯の力を出しきって、変わっていこう。みんなが新しい福島をつくりあげよう。そしてつなげよう。

未来へ――

「みんなで安全で健康な町づくり」

福島市立渡利中学校

宇賀神 愛美

私は、みんなで安全で健康でいられる町をつくりたいと思ったので、「みんなで安全で健康な町づくり」という、題名をつけました。

私は、安全でいられて健康でいれる町づくりにできることは、いっぱいあると思います。例えば、わたしたちの町が安全でいられなかったら、お年寄りが一番こまると思います。特に、足や腰などが悪いお年寄りの人たちは、だんさがあつたりと、大変こまります。お年寄りの人が、だんさにつまづいてしまったら、骨が折れてしまったりしたら、お年寄りの人や子どもも、大人も、こまってしまう。骨が折れてしまったら、なおるのに、時間がかかります。このことから、やっぱり、わたしたちが、みんなのために、安全に暮らせること、安全に外で歩けることを、わたしたちが守れ

ればいいと思います。

次は、健康でいられる町をつくりたいと思ったことは、子ども、大人、お年寄りが、風邪をひいてしまったり、病気にいかつたりしないように、空気のいい地域で安心してくらすといいと思います。健康でいれることは、そんなのは、あまりできない人たちもいるかと思いますが、病気の人たちをへらせればいいかと思えます。ですが、東日本大震災で起きた、原発事故で、内部被ばくなどで多くの人が、大変なことになっていきます。私は、はやく、放射線がなくなつてほしいと思っています。健康は、私たちにとつて、大事なことが、このことを考えて、わかりました。

安全と健康のことで、感じたこと、分かったことは、たくさんあります。一つ目は、安全と、健康は、わたしたち、地域の人でも、心がけることで、守れることが分かりました。二つ目は、人はみんなで支えあつて生きていることです。人は、一人で支えられないのがこのことを書いて分かりました。これからもみんなで、支えて生きていけば、わたしはいいと思います。三つ目は、

お年寄りの人、子どもなど、骨を折つたりしないように、できるだけ、だんさをよけて歩けばいいと思いました。お年寄りの人たちも、そうなのですが、小さい子どもは、まだ、あぶないものを知らないのです、もし、そこでころんでしまったらケガをしてしまうので、できるだけ、さけて歩いてほしいです。

わたしは、これからも、安全で、健康でいれるようにしたいです。

「環境が良い町をつくりましょう」

福島市立渡利中学校

小賀坂 理 紗

環境の良い町をつくるには、ポイ捨てや食べ残しやゴミの分別をしないなどをしないから、地球温暖化になっていくんだと思います。

一つ目は、ポイ捨てについて、遊んだりして、食べ終わったゴミを持っていることがめんどくさくなって、歩道とかに捨てる人がいると思うので、何mかごとに、ゴミ箱をおいて、ポイ捨てが減ると私は思いました。

二つ目は、食べ残しについて、これ食べたいかと思って、皿にとったけど、他の物もあるんですけど、私は、いま皿に取った物がなくなつて、次はどのくらい食べられるかを、自分で考えて、このくらい食べられるかなと考えながらたべていけば、食べ残しが減ると思いました。なぜかというと、

自分で手をつけなければ、お母さんやお母さんなどの家族の人が食べることができるので減ると思いました。

三つ目は、ゴミの分別について、分別は、カン・ビン・燃えるゴミ・燃えないゴミ・プラなどがあります。カンとビンは、何かはわかりますが、燃えるゴミや燃えないゴミ・プラは、どんなものがとは、くわしくは、分かりません。それをかんとんに説明します。

一つ目は、燃えるゴミについて、燃えるゴミは、紙・リサイクルできないもの・プラでも、よごれていてあらつてもおちないものなどがあります。

二つ目は、燃えないゴミについて、燃えないゴミは、電池や電気せいひんが燃えないゴミです。

三つ目は、プラについて、プラは、よごれていなく、かるい、などの特ちょうがあります。ペットボトルのまわりのラベルもプラです。よごれていない・かるいなどのものがほとんどプラとなります。

これらの三つのたいさくで、少しは環境がよくなり、地球温暖化も少しでも良いほ

うに行つてほしいと思います。

これらを、一人一人がこころがけていけば、少しずつ良くなつていくと思います。

これらを、やつていくと、五段かいでいくと五から二とか三に、良くなつていくと思います。

私も、これらをできるだけもつて、地球温暖化にならないように、心がけていきたいと思うのでみなさんもできるだけ、心がけていきましょう。

例えば、これ以外には、車に乗る回数を減らす、エアコンの回数を減らす、テレビの回数を減らす、パソコンの回数を減らすなどたくさんあるので、一つでも多く、こころがけるように、がんばっていききたいです。そしてみどりも大切にして、木をあまり切らないようにしましょう。

「安全、安心して暮らせる町づくり」

福島市立渡利中学校

槌谷 香織

私は、この福島の人たち全員が安全に、そして安心して暮らせたら良いと思います。

でも、今、私は原子力発電所が爆発し、放射性物質が問題になっている中、安全にそして安心して暮らせるのでしょうか。放射性物質は子どもの方が影響を大きく受けると思いますが、大人にも影響がないと言うわけではありません。ということやはり福島県民全員がなんらかの不安があるということになります。

ですから、私たちはこれから福島県民全員を安全にそして安心して暮らせる環境をつくるのはとても困難なことだと思います。それでもできることから一步一步進んでいきます。例えば除染。まだまだやっていないところも多いと思いますが、少しずつ進んでいます。もう一つは観光。以

前、会津に行った時、予想以上に観光客がたくさんいました。少しずつ前の生活が戻ってきているのだと実感しました。そして会津へ行く途中のややさん、ももがたくさん出ていました。そこにはたくさんの人たちが集まっていました。それはとてもうれしかったです。私たち福島県民は少しずつ前に進んでいます。

でも、津波の被害にあわれた方や放射性物質のせいで家に帰れない方々は、まだ前に進めていないと思うかもしれませんが、少し本当に少しだけかもしれないけど前へ進んでいるのは確かです。

そして、福島を変えるにはどうすればいいか、考えなければいけません。私はもつと福島にいろんな人たちが遊びに来てほしいです。その観光客たちのおかげで福島が明るくなって、そして明るくなった福島にいる人たちも明るくなり安全にそして安心して暮らせるようになるのではないかなと思います。

それでもまた不安や不満がでてきたら何回でも改善していけばもつとつと良い福島になると思います。

そしてこれから、大事になってくるのは観光名所だと思います。ほとんどは会津に集まってしまっています。他の地域では中通りは花見山、浜通りではアクアマリンふくしまと言えるぐらいしかないのです。このような観光名所をこれから私たちは大事にし、安全に安心して暮らしていけるようになったら良いと思います。

「安心して暮らせる町づくり」

福島市立渡利中学校

滝 口 綾 奈

私は、自分の住んでいる町が、住み心地の良い町になるにはどうしたらいいのかを考えてみました。まず、この町の住み心地を良くするためには住民の心掛けが大事だと思います。どういった心掛けかというと、例えば、夜中には騒音を立てない。(近隣の住人に迷惑がかかる) 犬の糞便の後始末などといった日常的に行うものの心掛けからしてほしいと思います。やはり、自分が身の回りに気を使っていたとしても、町全員が川の水や自然の緑に美意識を持たないと、事は始まりませんから。そして、まず私は、この町の皆には渡利の町の景観を維持してほしいです。ここは、花見山という春になると観光客でにぎわう、この町唯一の素敵な観光地があります。そんな町の景観を守るため、皆には常日頃から、ゴミのポイ捨てなどは慎むようにしてほしいで

す。そんなことを言っている私も、ゴミのポイ捨ては時偶^{ときたま}、してしまうことがあります。ゴミのポイ捨ては、町内の至る所で見受けられます。これはもしかすると、半ば習慣的になってきている行為ですから、怖いものです。これはそのまま放っておくと、いずれ大変なことになると思います。手おくれになる前にこの問題を早めに処理し、町の自然を汚さないようにしたいです。そして、この町の私の住んでいる家の近所では、高齢の方が多いです。ですので、高齢者が安心できるように、困っているときは手を差し伸べてあげられるよう、常に身近に居てあげたいです。そんな風にご近所でおしで助け合っていけたらいいなと思います。近所だけでなく、町全体でそんなことができたなら素敵だろうなと思います。互いが互いを思いやれるような暖かい町をつくるには、まず、あいさつをすることから始めるといいと思います。正面から歩いて来た人とあいさつをせずに、無言ですれちがうと何も感じませんが、正面から来た人とはっきりした声であいさつを交わすと、ほのぼのとした気分になります。最初、

あいさつをしても、別に何の変わりはないものと思っていました。全然そんなことはなくて、町の住民があいさつを交わすようになれば、町全体が一体となって、とても楽しく快適に暮らせると思います。

そして、最後に多分さっきもこのことについて述べましたが、町の自然についてです。私は、ゴミ拾いなどの清掃ボランティア(地域の)には積極的に参加すればするほど良いものだと思います。町の自然が美しければ、散歩をして楽しもうなどという意欲もわいてくると思います。小さな子供達も、きれいな自然のある環境で育てば幸せでしょう。

こんな風な理想の実現は、かなり大変なものと思われませんが、町の皆で協力すれば実現も、限りなく可能に近付くと思います。いつまでも住み心地の良い町であってほしいです。

「福島市民憲章」

福島市立渡利中学校

斎藤 生成

福島市民憲章は、福島市民なら誰もが一度は目にしたことのあるものだと思います。

「一 空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」

一 教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう。

一 親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。

一 きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。

一 子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」

これらの憲章は、私達福島市民のなかで、四十年という長い年月を経ながら伝わってきました。この四十年の間、たくさんの方がいましたが、二〇一一年、東日本大震災がありました。そして、原子力災害が

発生し、福島市は今までにない災害にまわれしました。復興への道を歩んでいる福島市だからこそ、市民憲章はますます大切になってきているのではないのでしょうか。

福島をよりよい町にするために、私たちにできることは、空気を汚さないこと、今受けている教育を尊ぶこと、他人に対しての心づかいをもつこと、きまりを守って協力しあうこと、年齢を問わず安全に過ごすこと、など色々な協力法があります。

例えば、川などにゴミがすてられているのをたまに見ます。見かけた人もいやな気分になるし、なにより川が汚れてしまします。

他にも、小さな子やおとしよりをいたわらない人もいます。本来、バスの優先席は、おとしよりや妊婦、身体の不自由な人が座る席のはずですが、平気で学生や大人が座っているのを見たこともあります。

そういった人たちには、この憲章をもう一度見直してもらい、考えるべきだと思います。また、最近では相手の気持ちを考えずに行動する事が多くみかけられます。相手のことを傷付けてしまうような言葉を簡

単に述べたり、他人の事には無関心で、人とのつながりをもとうとしない人もふえているそうです。

この福島市を、憲章通りにしていくためには、全市民が自分を見つめ直す必要があります。

憲章についてをより多くの人に知ってもらい、福島を発展させていきたいと思いました。

「安全できれいな町へ」

福島市立渡利中学校

熊谷 ゆき

私が目指す福島の町は、二つあります。一つ目は、きれいな町です。空、水、山、森などみどりあふれる町です。

まず山、森、木のみどりです。山や森は汚さないように、ボランティア活動などをしてゴミ拾いをしたりして、自然を守ることが大切です。花見や、山登りをするとき、山が汚れていたら嫌なので、ゴミをポイ捨てしたりせず、出したゴミは必ず持ち帰ることが大切です。また、大きなゴミを山に置いていくのは、やめてほしいです。

また、洗い物などで汚れた皿は、布、紙などでふきとって洗ったほうが川は汚れず、魚は川に集まると思います。また、洗剤を使う量は減り、自然にもかけいにもいいと思います。川が汚れるとふってくる雨が汚くなったりしてしまいます。自然はじゅんかんしているので、水などにも、問

題がでできます。このような事を考えれば、油っぽい汚れなどを、紙でふくのは簡単なことだと思います。

美しい町を保つには、いろいろな努力が必要です。けれど、努力をすればするほど、美しい町になります。

二つ目は、安全な町です。交通事故などが少なく、交通ルールをしっかり守る町です。

毎年交通事故で多くの人が命を落としています。私はそれをニュースでよく見ます。少し気をぬいただけで、命を落とす方がたくさんいるのを見て、「気をつけないとな」と思います。けれど、ときどき忘れてしまうこともあります。どんなに気をつけていても、人は失敗することがあります。なので、一人一人が交通ルールを守れば事故は減ります。その心がけが大事です。

この二つが私の目指している町です。なかなかきれいな町になることや、安全な町になることはありません。けれど、努力をすれば目指している町に近づくと思うので、まず一人一人の努力が大切だと思います。家族で注意しあったり、学校で伝えた

りすれば、努力する人は、増えると思います。また、努力するとどんな効果があるのかと考えることで努力することの大切さ、重要さが分かると思います。そのため、考えることも大切ということが分かります。このように、みんなが努力することで、福島だけでなく日本全体が、きれいで、安全な国になると思います。

「空も水もきれいな緑の町」

福島市立渡利中学校

大友 康太朗

空も水もきれいなみどりの町とは、そもそも何なのか。それは、透き通ったきれいな川があり、緑があふれ、美しい空気をたくさん吸える町だと思う。現在、この三つがそろった町は、数えるくらいしかない。でも、少しでも近付くために、一人一人が行動すれば少しずつ近付いていき、やがて達成することが出来ると思う。具体的には、花を育てたり、川が汚れるようなものを流さない、ゴミを減らすなどがあるが、それらは一人一人の意識と、声掛けがあれば出来ることだ。多人数でやればその効果も大きくなるし、効果を実感出来た時の喜びも大きくなるだろう。だからこそ多人数で取り組むことが大事だ。多人数で取り組むといっても、個人個人の意識で出来ることと、町単位で協力してやることは違う。

まず個人で出来ることは、コツコツと

日々やっていくような、地道な努力だと思う。そのため、めんどくさがつたり、いやになったりもすると思うが、その気持ちをおさえてがんばることが大事だ。地域など多人数で取り組む以前に、一人一人が自分で取り組んでいなければいけない。だから自己で取り組む意識を持つことは大事なのだと思う。

次に地域で取り組めることは、多人数だからこそ出来るようなことだと思う。多人数でやるには、団結が必要だ。だからまずは、全員がやることを認識することが大事だと思う。多人数でやるにも、個人でやるにも、しっかりとした気持ちを持つていなければいけないと思った。

自分達で取り組んでいくべきことはわかったが、私達が生活しているこの福島では、放射能の問題をさけて通る訳にはいかない。どんなに空や水がきれいでも、緑が増えても、さほど状況は変わらないと思う。現在、放射能の除染活動が行われているが、それでも人に害が無くなるまでには、何十年とかかるだろう。だから、すぐにわからなくても今出来ることを、後ろを振り返ら

ずに実行し、何十年か後に実感出来ればいいのだと思う。

ここまで、空も水もきれいな緑の町とは何なのか、それを実現するために何が出来たのかを述べてきた。そして、そこから大事な事は、努力と団結だということを改めて実感した。この二つを実行に移していくことが、目指す町へとつながっていくのだと思った。両方を同時に行うのは、簡単なことではないと思うが、実現のためには必要不可欠なことだ。自分自身、実現のためこの二つのとつとした行いをしていきたい。そして、何十年か後実現されたとき、自分も実現のためにがんばった一員として、胸を張りたい。そのために一人が必要だと思う。全員でがんばり、全員で同じ達成感を味わいたい。

「福島市民憲章作文」

福島市立渡利中学校

斎藤 真子

私は、これからどんな福島にしていきたいかについて話します。

福島は、原発事故のえいきょうでまだ、避難区域の地域もあります。でも、地しんにも放射線にも負けない緑いっぱいのが福島にしていきたいです。

あと、川などの水もきれいにしていきたいです。

そのためにも、日ごろから流していけない物を流したりしないようにしていきたいなあと思います。

あと、これからのようなどんな福島になってほしいかについて話します。

一つ目は、節電です。二つ目は、元気な福島です。

どんな事があっても元気で、立ち向かって一つ一つをしっかりとがんばってそれを元気に変えてほしいです。

この夏休みは、大雨で他の県はどしゃくずれがいっぱい出ていて大変だけど、どこも少しでも早く元に戻れたらいいなあと思いました。

それと、私は、このけんしょう作文というのは初めてで最初はまったく分からなかったけどけんしょう作文というのはどんな感じにしたいかとかそういう事が分かりました。あと、最初はけんしょう作文なんてどういう事なのか全然分からなかったけど、このけんしょう作文はどんな福島にしていきたいかなどを考える作文なんだなあと思いました。

あともう一つで、これからどういままの福島でいてほしいかについて話したいと思います。

私は、元気で笑顔がいいと思います。

その理由は、明るく健康でいてほしいからです。あと、笑顔でがんばってほしいからです。

これから、大人になるためにいろいろなけんしょうの事を学んでいくと思うのでその時は、中学校の時やったなと思い出せたらいいなあと思いました。

「福島市の身近にある自然」

福島市立渡利中学校

佐藤 尚紀

僕達の住む福島市は自然に恵まれています。季節によっていろいろな楽しみ方があります。春には花見山できれいな花が咲きほこります。僕は今年花見山に行きました。遠くからきた他の県のバスが止まっていたり観光客がたくさん見にきていました。夏はわらじ祭りがあつて年に一度のイベントなので地元がたくさんの人が参加して盛り上がります。秋には桃やなしなどが収穫されます。冬では、阿武隈に白鳥がやってきたり、雪がたくさん降るのを利用してスキーをすることができます。その中でも特に楽しみにしている季節は冬です。なぜなら小学校のときに行ったスキー教室が楽しかったからです。今年は家族と行きたいです。しかし、東日本大震災がおきて、原子力発電所の事故があつて放射能が福島市にも降ってきました。風評被害で福島県の農作

物が売れなくなっていました。しかし二年たった今では出荷制限も解除されてきたし、米袋の検査をしているので安心して福島のものを食べられるようになりました。さらに他の県の人にも福島の野菜や果物を食べてほしいです。

福島市内では、除せんをしています。自然を守るために自分ができることは何か考えてみました。一つ目は地域の清掃活動に協力することです。僕の住んでいる所は二ヶ月に一度清掃があるので家族と一緒に参加したいです。

二つ目はポイ捨てをしないことです。小さなゴミもたくさんあれば町全体が汚く見えるのでゴミを見つけたら拾うようにしていきたいです。

三つ目は、ゴミの分別とリサイクルをこころがけることです。ゴミを分別しないで焼却すると二酸化炭素が多く発生するからです。リサイクルすることは、ゴミを減らすことにもつながり新しいものに生まれ変わるすることができます。

美しく元気な福島市を作ることを目指して福島市に住む人々が協力して自然を守つ

ていく事が大切だと思います。特に若い世代の僕達が積極的に行動していきたいです。

「残したいもの」

福島市立清水中学校

松 本 陽菜乃

私が通う清水中学校、この地区は、古くから清水がこんこんと湧き出していたという。地名は、その場所の特徴から付けられたものも数多い。近くには、「清水ほたる」と名の付く公園もあり、清水という地名からも、昔はとてもきれいな小川が流れていたことが想像できる。

清水中学校は、今年で創立二十九年、開校当時は豊かな田園風景が広がっていた。かつてはまだホタルが見られ、夏の風物詩になっていたのだろう。そして、約十年ほど前までは、「ほたる祭り」が開催されていた。まだ小さかった私に記憶は残っていないが、川にホタルを放ち、人々の心を和ませていたという。

現在、ホタルを見ることはない。便利さと引き換えにホタルは姿を消したのだ。田んぼだった場所は、住宅地に変わり、西道

路ができ、スーパーが立ち並ぶ。生活用水、車がたくさん走るようになったための排気ガス、コンクリートの用水路では、ホタルは生活できない。ホタルは、豊かな自然があり、川がきれいでないと生きてはいけないのだ。ホタルを人工的に放流しない限り、もう昔の姿を見ることはできないだろう。

私は、福島市の美しい自然を残していきたい。生き物が住みやすい、良い環境を作ることが、美しい自然を残すことに繋がっていく。少しずつ汚れていった川を、私達の手で少しずつきれいにしていこう。川を汚さない、水が無駄にしない、自然を守ろうとする一人ひとりの心がけが大切なのだと思う。

父が言った。

「昔は、家の前にたくさんホタルが飛んでいたよ。」

夏には、あちこちで見られた当たり前の光景。今年の夏、私はずっとセミの鳴く声を聞かなかった。八月になり、ようやくセミの声がする。天候不順が、原因の一つだろうと思われる。天候不順は、農作物への影響やイベントの中止など、私達にとつ

ても良いことはない。家の庭には、毎年セミがやってきて、うるさいくらいに鳴いている。でも、セミの声が聞こえると、私は、「夏が来た」と感じる。このセミも、ホタルと同じように、消えてしまう日も遠くはないのだろうか。もっと環境のことを、考えていかなければならない。将来、子ども達に、

「セミ祭りに行こうよ。」

なんて言われるのは、とても悲しいことだから。

「『福島』をこうしたい」

福島市立北信中学校

熊谷 まなみ

四年生だった私は、来年から始まる『陸上』や『新しいクラス』がとても楽しみだった。しかし、春休みまでもう少しのところで東日本大震災が起こってしまった。

震災があつてから、私たちの生活は一変してしまった。外での遊びや小学校六年生でやる米づくり、お祭りなど、たくさんのが制限された。生活では、停電で一つの懐中電灯で夜を過ごしたり、断水でお風呂もシャワーがなく、水をくみに出かけたりして、普通の日常生活がおくれなくなっていた。私は、もともとできてあたりまえだったことができなくなることがこんなに悲しく、大変で、悔しいと思うと思わなかった。それほど、これまでの生活がどれほど安心できるものだったのかと思い知らされた。

他にも、双葉町に住んでいた私の親せき

は、原発事故でふるさとをうばわれてしまい、福島市で今、暮らしている。親せきだけでなく浜通りから避難した人は、これまで暮らしていた自宅、ふるさともどりたくてももどれないことになってしまった。福島市を今、これからふるさととして暮らしていくことになってしまふ人も出てくるだろう。

これらのことを体験して、『福島市』に求められていることはとてもたくさんあるのではないかと考えさせられた。子供からお年寄りまで暮らしやすい生活をするために、今の福島に足りないことを探してみたい。例えば、避難してきた人が住む場所や就職、子供が遊べる場所などだ。特に、農業や漁業をしていた人たちは、今まで働くために使っていた土地や海がなくなってしまうから、前と同じ仕事はできなくなってしまう。

そこで、福島に足りないことも考えて、次の福島をこうしたいということをまとめたい。

一つ目は、避難して働くところがない人のために、避難した人限定の就職説明会の

ような会を開いて、少しでも福島のことを分かってもらえるようにする。

二つ目は、車がふるさとにある人のために、車を無料で一日借りられる場所をつくる。

三つ目は、子供からお年寄りも体を動かせる集会を開き、ふれ合いの場と運動できる場をつくる。

四つ目は、あまりくわしくない人のために、買い物や美容院、病院や子供を預けられるところなどが一つになったショッピングセンターをつくって、一回でいろいろなことが済む、分かりやすい建物にする。

このようなことを考えた。今はまだ、安心して暮らせていないが、福島の人みんなで協力し、子供からお年寄りまでが『いい町』『安心して暮らせる』と言ってもらえるぐらいの県にしたい。震災での『福島』のいやなイメージをがらつと変えるくらいにするために、これからはがんばりたい。

「大きな心と豊かな気持ち」

福島市立北信中学校

小林 大士

僕が、福島市民憲章についての作文コンクールを選んだ理由は、自分達が暮らす福島市に関係する作文コンクールだったからです。

福島市民憲章に対しての意見は五つあります。

一つ目の、空と水もきれいなまちをつくるに意見です。空では、二酸化炭素の排出量を減らすことです。どうすれば減らせるかを考えると、自動車から電気自動車への呼びかけポスターや節電をコマースシャルなどにすれば良いと思います。水では、節水に協力していただくのと、川へのポイ捨てをなくすために、ゴミ箱を増やして、流し台から洗剤を使う量を減らせれば良いと思います。

二つ目の、教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくるに意見です。校外学習などで、

ほかの市町村や他県に行くのではなく、福島市の自然・観光地・歴史・産業・スポーツなどの素晴らしい事に気づいてほしいと思います。

三つ目の、親切で愛情あふれるまちをつくるに意見です。親切では電車内でのゆずりあい、あいさつなどを守るように、標語にして、子どもから大人までが目につくところに看板を掲示すれば良いと思います。愛情では、市民に目が見えない方や、耳が聞こえない方に、導くための黄色い突起を増やしてみたり、スローパーなどに、手ができる人を店員にすれば、愛情ありの便利な暮らしができると思います。

四つ目の、きまりを守り、力を合わせて楽しく働けるまちをつくるに意見です。きまりでは、約束やルール、マナーを守らなければ、どうなるかを考えさせるビデオなどを市のトップページなどに、掲載してほしいと思います。力を合わせて楽しく働けるでは、各お店でイベントなどをひらけば、従業員もお客さんも楽しめる場所が増えてくると思います。

五つ目の、子どもからおとしよりまで安

全で健康なまちをつくるに意見です。安全では、車道や歩道のでこぼこを直したり、標識や信号機を増やすなどして、外出時の事故を少しでも減らしたいからです。健康では、学習センターなどで、健康についてや栄養についてなどのセミナーを開けば、健康に気をつけてくれる人が多くなるので、良いと思いました。

この作文を書いてみて感じたことが二つあります。

一つは、できることを、自ら行動していく大切さを感じました。一つ目の空と水をきれいにするでは、自分達でもできるので、協力性を持ち、実行していきたいです。もう一つは、人と人とのつながりです。みんな支えられて生きているので、より良い福島市にするために、いろいろな人を支えていきたいです。

「もつときれいな福島に」

福島市立北信中学校

佐 竹 樹

ぼくは、この福島市に住んでいて、時々感じるがあります。そのことを直せば、もつとこの福島市が良くなるような気がします。このことを感じたのは、ぼく一人だけでは、おそらくないと思います。なので、この作文を読んで、多くの方々に共感してもらえたら非常に良いなあと思います。では、ぼくがこの福島で直せばもつと良くなると思うことは、いくつかあります。

一つ目は、歩道に関する事です。ぼくが住んでいる位置は自転車通が許可されているので、登下校は、自転車です。その登下校中によく思うことがあります。それは、歩道の横からたくさん草がボーボーとはえてきているので、歩道がせまくなり、その場所を通るのが難しくなっているということです。これは、一見通りずらいだけと思われがちかもしれませんが、それは違う

と思います。通りずらいので、少し車道側を通らなければいけなくなります。そうなると、おのずと車とぶつかってしまう可能性は増えます。ぼくは、今述べたことで車とぶつかりそうになり、ひやつとしたことが何度かありました。それに、車いすの方々やお年寄りの方々は、もつと危険だと思います。なぜかという、身動きがとりづらいので車とぶつかりそうになってもその危険を回ひすることが難しくなってしまうからです。あと見ばえも悪いように思います。脇の方から草がたくさんはえていて、とてもきれいと感じる人は、おそらくいないと思います。こういう理由から脇から草がはえている歩道は良くないと思います。

二つ目は犬の放し飼い等です。ぼくは、北中央公園というところのすぐ近くに住んでいます。そこでの犬の放し飼いが絶えません。フンを持ち帰らなかったり、リードもつけないでずつと放し飼いをしていたりして迷わくをしています。犬の放し飼いは、法律上禁止されています。公園にフンが落ちていたやなのは、読んでいるあなたも多分同じだと思います。犬の散

歩をする際は、必ずリードをつけてほしいと思います。

これがぼくが直せば、もつときれいで良い福島になると感じたことです。これを読んでみなさんは、どう思われたか分かりませんが、確かにそうだななどと思ってくれたら良いなあと思います。何年後になるか分かりませんがぼくが述べたことがいつか改善されていると良いなあと思いました。そして、日本中、世界中の方々が、

「福島に行ってみよう。」

と考えるようなところになれば、福島がすぐ活発になって、にぎやかなとても良い場所になると思います。これは、良い事だと思います。そのためにも、二つのことを今後しっかりと直していけば良いとぼくは、思います。

「福島市民憲章について」

福島市立北信中学校

黒津 拓海

ぼくは、福島市民憲章の空も水もきれいなまちをつくるというのはできていないと思います。理由は震災のせいで、原子力発電所が爆発し、放射線のえいきょうで空も水もきれいではなくなり、人々が川や海にゴミを捨てるせいでとても水がきたなくなっているからです。放射線のせいで、人々は安全な県へひなんをして福島の人口は減り、水はあまり飲めなくなつて、福島のきれいな海までいけなくなつてしまいました。でも、放射線はどうすることもできないのです。そして放射線が自然に消えてなくなるのは、何十年も何百年も先なのです。なので、どうすることもできないのです。それなのに人々は川にゴミを捨ててもつと川をきたなくしているのです。川や海の水が汚くなつてしまつたら、魚などの生き物が住めなくなり、死んでしまいます。

そこでぼくが思っていることは、ゴミを捨てたいなら川や海に捨てないで、ちゃんとゴミ捨て場に捨てた方がいいと思います。そのために川や海の近くにポスターを貼つて皆に呼びかけをしたらいいと思います。それでもまだゴミを捨てていたら直接言えばいいと思います。そしてそのちらかつたゴミは自分達でゴミをとつて少しでもきれいな川や海にしたいです。

放射線については、公園や学校や線量が高い所は除染ということをして、少しでも安全になるようにしています。けれどもいつかはまた、放射線の量が多くなつてしまふと思います。

今、ぼくが求めていることは、人々の安全や川や海や空気のきれいを求めています。

放射線は何もかもをうばつたさいあくなやつです。しかしぼく達は何もすることができません。放射線をあびすぎると五十年後、ぼく達はいきなり死んでしまつたり、おもし病気になる可能性があります。なので放射線はあまりあびすぎてはいけませんのです。しかし空気中に放射線がただよって

いるので自然にぼく達はあびてしまつていくのです。

放射線は今、少しずつ他の県にもいつていくそうです。なので他の県の人々も気をつけなければなりません。そして、福島県は今、他の県から少しきらわれているので、他の県とも向きあつていかななくてはならないのです。

もう今になってきて、放射線のせいで死んでしまつた人が何人かできました。そして放射線がいやになつて自殺してしまつた人も何人もいます。

空も水もきれいなまちをつくるという憲章は今後どうなるかは分かりません。けどいつかはきれいになつていくとぼくは思います。

ぼく達は、今後、放射線に向きあつていかなくはいけません。それでも空と水がきれいなまちづくりを目指してがんばりたいです。

「市民憲章について考える」

福島市立大島中学校

坂野井 利 緒

私は、福島市民憲章のことを、今まで知りませんでした。そして、市民憲章と聞いても何の事なのか意味が分かりませんでした。そこで趣旨を読むと、「市民全ての幸せと郷土福島の限らない発展を願いながら快適で明るく住みよいまちづくりを進めるよりどころ」と書いてありました。私はこれを読んだ時に「とても前向きな考えだな」と思いました。同時に、こういう気持ちを持ち続ける事は簡単ではない、と思いました。二年前に起きた東日本大震災と原発の事故があつてからは、特に気持ちが沈んだり不安になることが多かったと思います。そして、このような考えは持てないと思いました。

私は、さらに全部で五つある憲章のひとつひとつを読みました。福島の自然についてや、子供たちの教育について、また

安全で健康な、まちづくりについてなど、どれも本当に大切な事が書いてあるなど、震災を経験して、より実感できました。

私は、この市民憲章の考えに少しでも近づくにはどうすれば良いのか考えました。そして、たどり着いた私の考えは、

「基本にあるのは、市民ひとりひとりが健康であることが大切」

だと思いました。あたりまえのことですが、体が健康でなければ何をするにも前向きに行動できないと思います。そして健康でいるには、日々の規則正しい生活バランスの良い食事を心がけて免えき力を高めることが大切だと思いました。免えき力を高めることは放射線から体を守る力が強くなると聞いたことがあります。福島で暮らす私達にとつては、より大切なことだと思います。私も、日々健康でいるようにして、福島市が良いまちになるように地域の活動に参加していきたいと思っています。

「みんなが大好きなまちに

するために」

福島市立松陵中学校

遠藤 優花

私は、市民憲章を読み、三番目に出てくる「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」というのについて考えてみたところ、とても市民憲章と合っている出来事があったのを思い出しました。

一つ目の出来事は、登下校中にありました。私が、道で車が通り終わるのを待っていたときに、一台の車の人が通るのをゆずってくれたことです。私は、とてもありがたく思い、お辞儀をして通りました。その時、運転手の人が笑顔でお辞儀をしてくださっているところを見て、「とても親切な人だな」と思いその日は一日、とてもですがうれしい気持ちで過ごすことができました。この出来事を思い出したとき、あのゆずってくれた人は、心からゆずろうと思ったからこそ、笑顔でお辞儀を返してくれた

んだと思いました。

二つ目の出来事は、震災時のことです。二〇一一年三月十一日、巨大地震が日本を襲ったあの日、私は周りの人の優しさを改めて知りました。クラスで泣いている子をはげましている子、家に帰ってから外に出てみると、笑顔で私に声をかけてくれた地域の人、家族や親せきを心配し、電話をかけたり、声をかけている家族。それはみんな、地域や家族への愛情が強いからこそできたことだと思います。この愛情がこの地域にあるから、みんなは、あの日も少し安心して過ごすことができたはずだと思います。

私が住んでいる松川町は地域や人々への愛情があふれているところです。私はこのまちが大好きですが、もっと大好きにするためにしたいことがあります。一つは、心が温まる出来事を自分もできるようにすることです。どうしてかという、もっともつと親切で心が優しくなるからです。自分がしてもらって嬉しかったこと、自分の心が温まったこと、それが親切で愛情あふれるまちをつくりましようというのが達成で

きると思います。そしてもう一つが、自分から進んで行動することです。これは、してもらったから自分もする、ということではなく、自分から相手が「嬉しい」「心が温まる」と思う行動をするということです。そうすれば、自分も相手もとても良い気持ちになるはずです。その良い気持ちが大好きなまち、親切で愛情あふれるまちをつくるポイントになると思います。

あの二つの出来事、二つの考えを生かし、みんなが大好きで、親切で愛情あふれるまちをつくりたいと思います。

「親切で愛情あふれる松川町」

福島市立松陵中学校

中 津 雪 名

私たちが住む松川町には、親切な人がたくさんいて、愛情があふれています。私がそう思った理由は三つあります。一つ目は、孫見守り隊の人達です。孫見守り隊の人達は、小学生が安全に登下校できるように毎日横断歩道に立っていてくれます。小学生が渡る時も笑顔であいさつをしてくれて、とても嬉しくなります。重い荷物を持っていたり、道だけがをすると、荷物を持ってきたり、家まで送ってくれたり、けがの手当てをしてくれます。孫見守り隊の人達は、知らない子供達にもとても優しく接してくれるので、私も感謝しています。私たちは、孫見守り隊の人達に、本当の孫のように思ってくれているんだと思いました。

二つ目は、松川町の人はとても親切だということです。私がそう思ったのは、いろんな人があいさつをしてくれるからです。

私が登校している時や下校している時、もちろん外で歩いている時も、お年寄りの方や近所の人や地域の人があいさつをしてくれます。その他にもお店の人も笑顔であいさつをしてくれて、とても嬉しくなり、思わず笑顔になってしまいます。地域の人があいさつしてくれようと、自分からもあいさつをしないといけないと思います。会った人には必ずあいさつをする心がけています。が、する時としない時があるので、必ずあいさつをするという習慣をつけないといけないなと思いました。私たちは、地域の人達に、とても親切にされて育っていったんだと改めて思いました。改めて感謝するべきことはたくさんあるなと思いました。私が小学生の登校班の班長をしていた時に、一年生が転んでけがをしてしまった時に、交通指導をしていた人がその様子に気づいて気遣ってくれて、その子の親に電話をしてくれたりして、私がどうしようか迷っていた時だったので、とても助かりました。その後同じ班の人が車で登校していたのをたまたま通りかかって、学校まで送ってくれて、とても嬉しかったです。その

一年生も次の日は元気だったのであのとき助けてくれなかったらどうなったのかと思いました。松川町は親切あふれる町だと思います。このようなことは、松川町のルールや伝統ではないと思いますが、松川町の人達が松川町をもっといい町にしようと思つてやつてることだと思います。

私は、まだ大人に守られると思いますが、自分が大人になれば当然、今度は自分が子供達を守らないといけないと思うので、自分が大人になったら、更に松川町を親切で愛情あふれる町にしていけたらいいと思います。

「私たちの福島市」

福島市立松陵中学校

鳴原 優実

私たちが住んでいる福島市は、人が温かくていいまちだと思います。しかし、問題が一切無いかというとそうでもなくて、課題もあります。一人一人が優しい心をもったまちになって欲しいです。

私たちは一人では生きていきません。家族の支えがあるからこそ、こうやって幸せな生活ができています。人は必ず人と関わり合っていてそれなしでは過ごしていきません。その中で様々なトラブルがあるかもしれないけど、人からの愛情を感じ、幸せな気持ちにだってなれます。

私が今まで過ごしてきた中で感じた「愛情」は家族からの愛情です。私は親にしかられることが多いのですが、それはすべて私のことを心配して、そして想ってくれているからなんだと感じました。それは、学校の先生にしかれることも同じで、た

だ単に嫌っているからではなくて、もっと良くなってほしいとか期待してくれていてしかってくれているんだと思います。

その時には感じる事ができなくても、あとから愛情や優しさに気づくことができればいいと思います。

福島市民憲章にかかれている「親切で愛情あふれるまち」というのはどういうことか、考えてみました。私なりに考えてみたのは、子供からお年寄りまで年齢に関係なく、みんなが愛され、そして一人一人が優しい心をもったまちです。私自身もこういうまちになったらいいと思います。そして小さなことにも幸せを感じ、感謝していきると、さらにいいまちになると思います。大げさかもしれないですが、世界で一番、優しさと愛情あふれるまちになってほしいです。

「市民憲章から感じたこと」

福島市立松陵中学校

田 尻 千 尋

私が福島市民憲章の中で、一番印象に残ったのは、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」という言葉です。

親切とはどういうことかと考えたとき、私は最初に思いやりがあるということだと思いました。小学校の道徳の授業で、だれかを思って、その相手のために行動することとは、思いやりがあるということを書きました。親切心で相手のために思うのも、一つの愛情の形だと思います。私は、明るいまちづくりのために、思いやりの心であふれたまちになってほしいなと思いました。

親切といえば、席をゆずったり、何かを手伝ったり、だれかを助けたりすることをイメージしますが、私は最近まで本当にこのようなことをやっている人を見たことがなく、また、自分自身でもやったことがありませんでした。けれど数ヶ月前、遠くの

町にでかけたときに、「親切な行動」を二回見かけました。

一回目は、バスに乗っていたことです。停車した所で、足をケガしていて松葉杖をついている男性がバスに乗りました。ちょうどその時間、バスは混んでいて、座る席がなかったのですが、その男性を見た学生の方が、席をゆずっていたのを見かけました。相手のことを考えて自分から席をゆずるなんて、とても親切な方だなと思いました。

二回目は、電車に乗っていたことです。私は、乗車口の近くの座席に座っていたのですが、向かい側の乗車口のドアが開いて荷物が入ったカートのような物をひいたおばあさんが乗ろうとしていました。ところが、なかなかカートが持ち上がらず、乗るのがとても大変そうでした。その時、向かい側の乗車口のとりの座席に座っていた男性がおばあさんの所へ行き、手伝い始めたのです。そして、それをきっかけに何人かの人がかートを持ち上げるのを手伝いました。また、電車から降りるときもカートを降ろす手伝いをしていました。だれ

か一人の行動をきっかけに周りの人も相手への思いやりで手伝うなんて、とてもすごいことだなと思いました。

この二つのエピソードは、私の町ではない違うところで見えたことでしたが、このようにことが私の町でもあれば、それは、「親切で愛情あふれるまちづくり」に近づいているということだと思います。親切な心はだれもが持っているもので、ただそれを実行できないのではないかなと感じました。思いやりの心であふれたまちになるためには、一人一人が勇気を出して行動することが大切だと思います。

「福島 of 自然」

福島市立松陵中学校

加藤 麻那

私は福島 of 自然が大好きです。山からひく水は甘くておいしく、福島 of 空気を吸うと心が落ち着きます。

三月十一日 of 震災のとき、一部 of 地域は水が出なくなつて水を運ぶ車を持つ人々を、私はテレビで見ることがあります。しかし、私の家 of 水は山からひいていたので、テレビを見て、水があることはとてもありがたいことだと思いました。私の家 of 近くにある水原川を水質検査をしてみたら、水のきれいさは最高でした。この川がきれいになったのも、この川 of 周りに落ちていたゴミを、地域の人たちや、小学校全校生でゴミ拾い活動をしたおかげだと思っています。そして、この水原川には、きれいな水に住むという魚や生物が住んでいました。私が四年生 of 夏のことです。そのころはまだ大震災がなくて、生き物にとつても平和な毎

日でしたが、三月十一日 of 大震災が起きて、水原川も少し汚染され、五年生 of 間は川に近づくことすらできませんでした。魚や生物たちがどうしているかも分かりませんでした。そして六年生になり、ようやく水原川について調査できるようになりましたが、四年生 of ときのように魚や生物などはいませんでした。だから、この水原川にまた、魚や生物が戻つてきてくれるように、私たちは川を大切にし、きれいにしていることが重要なのです。

福島 of 空気がおいしいのは、豊かなみどりがあるからです。福島 of 空気は豊かなみどりの木たちが、私たちのために空気を送ってくれます。だから、福島 of 空気はおいしいのです。私の家 of 近くには桃咲山という山があり、小学生 of 春のころに桃咲山探検というのがありました。桃咲山に登り、頂上まで登つて景色を眺めました。山から見下ろす水原はすてきでした。通行中に見られる花や木なども、一つ一つ小さな花がついていたり、すてきな香りもしました。たまに、山へ入つてみると缶やゴミなどが捨てられていて、山のイメージが汚くなる

ときがあります。そんなことが桃咲山にもおきたらせつかくのきれいな山がもつたいないです。

水原には、他にクマガイソウ of 群生地があり、私も高学年になつたらガイド活動などをやりました。こんなきれいなみどりを、私たちは守つていく義務があります。

私たちができることは、福島のためにも、自分たちのためにもやらなくてはいけないことなのです。

「わたしの生活と市民憲章」

福島市立松陵中学校

伊 藤 渉

わたしは、この福島市で生まれて、ずっと福島市に住んできました。それも福島市のはじの方ですが、自然も人情もあふれていて、市民憲章の願いが根づいていると思います。

「空も水もきれいなみどりのまち」とされた福島市は周りを山で囲まれていて、わたしのところはとくに山が多いです。見渡すかぎり山で、住んでいるところにも自然が多いです。春や夏には草木がおいしげり、四月には桜がさきます。夏や秋は虫の声がして、夜その声がないとねむれません。家の近く、学校の近くには田んぼがたくさんあって、毎年毎年稲が植えられて、大きく成長して頭を垂れて、収穫されていくのを見てきました。福島は米も美味しくて、それは水がいいからだと思います。自然があふれていて、自然と共に生きている街、福

島市はそんなところだと思いました。

わたしの近所では、その時季になると、行事の準備でいそがしくなります。その行事も、近所の人たちとのつながりがなければできません。八月十五日には盆おどりがありました。わたしも前日と当日にかり出されて、お手伝いをしていました。集会所には地域の人たちがたくさん出入りしていました。お母さんと近所の人たちは、おたがいに頼んだり、頼まれたりしていました。これは毎年のことで、互いに信頼しているし、協力しあっています。盆おどりに子供も参加しました。わたしも、去年まで笛や太鼓を演奏していました。夏休みの夜、集まって真剣に練習しています。こうして子供たちにも、人とのつながりが受けつがれていくんだな、と思いました。

わたしのもといいた小学校は、山の上にあつて、自然にあふれています。わたしのクラスは十七人で、一クラスしかありませんでした。ですがみんな仲良く助けあつて学習やいろいろなことをしてきました。また地域のことを調べる授業がよくあり、一年生や二年生のころから自分たちの住んでい

るところの文化や特色を知る機会がありました。六年生ごろになると、自分たちの地域、自分たちの学校がいいところなんだな、と思いはじめました。自然にも囲まれていて、いい先生もいて、恵まれているな、と感じました。小学校の昇降口には、市民憲章がかかげられていました。いままであまりよく見たことはなかったけど、今これを書いていて、「教育と文化を尊び希望にかがやくまちをつくりましょう」という文とその考えがあつたから、いい学校で勉強できたし、今もこうして学習できているんだな、と思いました。

福島市民憲章というものがあつて福島はいいところになって、これからもっといいところになっていくと良いな、と思いました。

「福島 of 親切な輪」

福島市立野田中学校

安 田 仁 菜

私は、小学校四年生のときに、ある体験をしました。

それは、私が一人で下校している最中の出来事でした。車通りの少ない道を歩いていると、前から二才くらいの男の子が走ってきました。よく見ると、手にお菓子を保持って、大粒の涙を流していました。私が驚いているうちに男の子は、車がたくさん通る大通りの方へ行ってしまいました。事故が起きてしまったら大変だと思い、私は手に持っていた荷物を置いて、男の子を追いかけてきました。その子は道路へと出てしまいそうでしたが、私が危機一髪でその子のこととを抱っこしました。何とか助けることはできましたが、これからどのように行動したら良いのか全然わからず困っていました。すると、一台のトラックがきて運転手さんが降りてきて、男の子の家を探すのを

手伝ってくれました。家は、すぐに見つかりました。男の子のお母さんは、何度もお礼を言ってくれました。私は、自分が誰かの役に立てたことがとてもうれしくて、今後も困っている人がいたら、こわがらずに助けなければいけないと思いました。その男の子を送りとどけた後、運転手さんが、「たった一人で男の子を助けたなんて、すごいね。」

と、声をかけてくださいました。その優しい言葉を聞いたときの喜びは今でも、ずっと覚えています。親切な運転手の方のおかげで、あの時、素早く行動できました。それから私は「人に優しくできる」、「困っている人がいたら助ける」、これらのことを目標にしています。家族や友達だけではなく、自分の住んでいる町の人達にも思いやりをもって接するよう、日々心がけています。世の中は親切な人だけではありません。しかし、親切な人が少しずつでも増えていけば、福島市も少しずついい市になっていくと思います。親切をしたときの達成感はずっと心に残ります。誰かに優しくして、次はその誰かが次の人に優しくして、次は

その誰かが次の人に優しくする。そういういたような福島であってほしいです。いつも、手をつなぎあって、相手のことを一番に考えられる、私達市民が福島を他の人に自慢できるようにたくさんの人に思いやりの輪が広がってほしいです。

中学生になった今、小学生のころにはわからなかった人の気持ちが少しずつわかるようになってきました。相手の立場になり、たくさん考えて、親切な行動ができる、そんなカッコいい大人になりたいです。福島市は他の市に比べると親切な人が多いと思うので、これからもっともとと素敵な市になつてほしいと思います。そのためにも、私達市民全員でがんばっていかなくてはなりません。私も福島市民の一人として、親切と思いやりの心を忘れずに行動していきます。

「川遊びで学んだ自然」

福島市立野田中学校

佐藤 あづさ

私が川遊びで思い出に残っていることは、福島 of 自然を感じられたことだ。

四年ほど前の、暑い夏の日、母は「涼みにいこう。」と言いだして、私と姉と祖母を連れて川に向かった。そこには、人間の目をそのままくつつけたような山のふもとで、かつて小学生のころ、校舎から山を見るたび、その目が見えていたことから、私が「山の目」と呼ぶようになっていたところだ。

車がふもとまでくると、あたりは森や水田、畑が広がっていて「田舎」と呼ぶのにふさわしかった。住宅など立ち並ばず、農家の人達が住むような家が、辺りにぽつりぽつりとあるぐらいだ。

車は田舎道を進み、山の中へ入った。さほど高くはなく、でも森という景色と川のせせらぎで、山というイメージがわいてき

た。

そして車は止まった。止まった場所は、坂を下ると川につながる車道だった。

私たちは車を降り、ビーチサンダルを履いて川に入った。水が、すごく冷たかった。聞こえるのは、森の鳥の鳴き声、川の水が流れる音。それだけだった。なんとなく匂いをかいでみると、湿っぽくて、清々しくて、冷たいような、言い表すことができない、何とも不思議な匂い。森の香りと言われればそうかもしれないが、その匂いは、この年になっても今でも覚えている。こんなのは、都会だったら絶対味わえない。ここでこそその匂いなんだ。ここにこれだけ良かった。そう思うだけで、すごく胸がいっぱいになった。

私は、川であまり遊ばなかった。そこにいるだけで、充分楽しかったのだ。川の上の岩を飛んで別の岩へ移ったり、川の流れをただひたすらずっと見ていたり。小さいときだったから、初めて見たものに大きく感動し、印象深く残ったのかもしれない。私は、自然の風景が好きだ。もちろん、福島も、だ。こんなにきれいな風景は、私

たちの祖先がずっと守って築きあげてきたからこそ、今、私達の目の前に現れている。福島 of 自然は、こんなにも素晴らしいんだ。風評被害で苦しんでいる今、それを逆手に取って、福島 of 良さ、福島 of 自然を伝えられたらいいのではないか。そして何十年か経って、今度は私が「涼みにいこう。」と言って母や子供を連れて川で遊べるような、そんな環境になってほしい。

そのために、自分達にできることもあるはず。川をきれいにしてあげればいい。空気をあまり汚さなければいい。ゴミなどはちゃんと持ち帰って捨てればいい。その他にも、たくさん、できることがある。

だから、私は「今できること」を探し、実行していきたい。ひとりひとりがそれを実行できるようになったら、福島は、また輝くのだろう。あのころみたいに。

「木や花のいっぱいある福島市」

福島市立野田中学校

美 濃 由紀乃

私たちの住む福島市には、たくさんの木や花があり、とても緑豊かです。みなさんは、木や花を大切にしていますか。

私は小さい頃、朝顔を育てたことがあります。毎日水をやり、ときには肥料をやりました。ですが、毎日水をやっているせいか、朝顔が枯れてしまいました。その時、家の一部の緑が枯れてとても悲しくなりました。私は、水は毎日やらず、一日に一回、肥料は一週間に一回と決め、大切に育てようと改めて思いました。忘れずにやり続けた結果、朝顔がきれいに咲きました。朝顔は朝しか咲かないので、毎日写真をとりました。やがて、朝顔の種ができました。初めて種をとったとき、「花ってすごいな」と思いました。そして、とった種を土に埋めました。その種も花が咲きました。これを見て、朝顔も家族の一員だと思いました。

大切に育てれば、育てるほど価値があると思います。

また、私の家のまわりには、たくさんの木が植えてあります。その木は、マツの木です。私の生まれる前からマツの木はあったと聞きました。木はめったに枯れることがないので、ずっと植えてあり、とても大きいので、「木ってすごい」と思いました。木は、葉っぱができて育つうちに、葉っぱの色は変わります。木によって種類があるので、葉っぱの形で特別なものがあつたり、種ができて、子孫を残す木もあると知ったとき、たくさんの木を見てみたいと思いました。福島市は、たくさんの木がいろいろなところに植えてあるので、買い物に行くなど、ちょっとした移動のときでも、いろいろな種類の木を見ることが出来ます。私はたくさんのお木を見て、福島市は緑豊かで、とてもきれいなところだと思うようになりました。

みなさんもこういう経験があると思います。都会とは違って、とても緑が多い福島は空気がきれいです。また、春になると桜が咲く木があると、道を歩くだけで美しい

桜が見れてお花見もできます。桜はいつの間にか散ってしまいますが、新しく葉っぱが生えてきます。都会は、ビルが高かったり、たくさんビルが並んでいたりするので、桜を間近で見るとはなかなかできません。福島に住む私たちは、緑豊かな木や花に囲まれていてとても幸せだと思います。

たくさんいいところがある福島は、美しい市だと私は思います。みなさんも、木や花を大切に、これからも緑豊かな福島を大事にしていきたいでしょう。

「みんなで守る福島市の自然」

福島市立野田中学校

星 野 小百合

山に囲まれた福島市。自然がたくさんある福島市。私が生まれたこの土地の美しさは、日経っても変わることがありません。

東日本大震災による原子力発電所の事故の影響で外出できない日々が多くありました。放射能によって何もかもが汚染された、と思った人は少なくないはずです。でも、福島市の美しさは変わらずにありました。確かに、体には悪影響があるのかもしれませんが。空気も汚染されてしまっていたかもしれません。それでも、花は咲いていました。川だって流れていました。春の心地良い風も吹いていました。震災前と変わらない福島市景色を、汚いもののように扱われることが、私には悲しくてたまりません。震災を機に私は、普段はなかなか深く考えられない福島市の美しさを考え直すことができました。

夏休みは、須川へ遊びに行きました。川に來たのは三年振りくらいで懐かしく感じました。透明できれいな水が流れる須川を目の前にしたとき、自分は恵まれているな……と、ふと思いました。でも、よく見てみるとペットボトルやお菓子のゴミ、手持ち花火などのゴミがたくさん落ちていました。震災のときも美しいと思っていた川なのに、少しのゴミだけで福島市の自然がこわされていくことは悲しい現実です。たった一人でもポイ捨てをする人がいると、他の人達もするようになってしまいます。そして、美しい自然そのものがこわされていくはず。そんなことになってしまえば、きれいな水が流れる須川が台なしです。次世代の子供達は、私達のように川で思い切り遊ぶことができなくなってしまうかもしれません。自然を守るためにも、次世代の子供達のためにも、ポイ捨てはやめるべきです。

私は、震災で実感した福島市の自然の美しさ、川へ遊びに行った経験から、様々なことを考えさせられました。「福島市民憲章」にある「空も水もきれいな、みどりの

まちをつくりましょう。」という一文は、福島市民全員が守っていかなければならないことです。どんなときでも、福島市の自然を愛し、大切にしていこう、私はそう決めました。呼びかけはもちろん、自分のまわりの花や木などの管理をきちんとしていきたいです。自分も、福島市民の一人だということをお忘れず、これからの生活を送っていききたいと思います。

「親切で愛情あふれる福島市」

福島市立野田中学校

佐藤 紅音

私は、福島市民憲章の中で「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」というのが一番印象に残りました。理由は、私の家の近くには子供だけでなくいろいろな年代の人が住んでいるからです。その中で生活していて、親切な人にたくさん出会ったからです。あるおばあちゃんは、いつも野菜をくださいます。おじいちゃんは、会ういつも笑顔であいさつしてくれます。小学生も気づかってくれたり、小さなことでも気づいてくれたりします。おばさんは、柿をくれたり、おすそわけをしてくれたりします。こんなに心やさしい親切な人がたくさんいることが福島らしいところだと思います。私も親切にされるだけではなく、自分からやさしくするようにしています。会う人みんなにあいさつしたり、困っているお年寄りがいたら助けてあげたり、自分

なりのやさしさで近所の人と接するようにしています。私は、県外に出かけると知らない人ばかりで、なかなか話すことができません。けれども福島に帰ってくると、気持ち落ち着きます。それは、福島市民一人一人の心のやさしさがあるからだと思います。

私は、「だれかにやさしくされたからやさしくする」のではなく、常に人に対する思いやりの気持ちをもつことが大切だと思います。これは今、福島市に住んでいるからこそ思うことです。もし、だれにも心を開かず親切という言葉を知らない人がいたら、福島市は今のようないい心をもつ人であふれることはなかったと思います。だからといって親切にすることだけが大切だとは思いません。人のためを思っ注意することも大切です。けれどもそれは別の角度から見たらやさしさです。このように一つの角度からだけでなく、いろいろな角度から見れる人がたくさん増えると、心からやさしいといえる人が増えることになると考えます。

私は、福島市には心からやさしいといえ

る人がたくさんいると思います。親切な人、やさしい人、それらの人達に出会うことがなかったら、今の私はいません。だから私もそうになりたいと思います。これから福島市民という気持ちを持ち、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」という市民憲章を大事に生活できたら、と思います。もともと親切で愛情あふれる人が増えたら、福島市にとって大切な宝になると思います。

「より良い福島市のために」

福島市立野田中学校

蒲 倉 成 美

あなたは、足元を意識して歩いたことがありますか。足元には、意外な景色が広がっていることがあります。コンクリートが長く続く道路の合間で強く強く育つ植物や、眼下に広がる地面。普段何気なく踏みしめている野原など、ただひたすら前を向いて歩いているだけでは気づかないような美しい景色が、足元には広がっているのです。しかし、その一方で、ふと目を移すと、空き缶が我が物顔で道に転がっていたり、ごみがそこらじゅうに落ちていたり、ひどく残念な気持ちになることがあります。ごみをポイ捨てすれば、自分達の町が汚くなってしまう、住みにくい町になってしまうのに、なぜごみを捨てるのか私は不思議でたまりませんでした。ですが、それと同様に、自分から進んで道のごみを拾う人の気持ちもわかりませんでした。いくらきれ

いにしても、ごみを捨てる人はいます。「いくらごみを拾っても、どうせすぐ汚くなってしまうのに、なんでごみを拾うんだろう。ほっとけばいいのに。」そんな私の自分勝手な考えを改めさせてくれたのは、母でした。私はその話をすると、母は笑いながら、「でも、もしごみ拾いをしてくれる人がいなかったら、福島市なんて、あつという間にごみだらけだね。」と笑いながら言いました。その何気ない母の言葉に、私は大きな衝撃を受けました。それと同時に、今まで自分がどれだけ自己中心的で、他力本願な考えを抱いていたかに気づきました。きれいにしてくれる人がいるからこそ、今のごみの「少ない」福島市に住むことができるのだと、やつと気づいたのです。みんながごみを知らんぷりして、そのままにしておいたら、あつという間に今よりずっとずっと汚い福島になってしまいます。裏で支えてくれる人がいてこそ、今の地域社会が成り立っているのだと思います。そして、私は私なりにできることを、少しずつ進めていけばいいんだと思いました。

このことに気づいてから、私は地域に恩

返しするために、地域の人へのあいさつ、手伝いを積極的に行うようにしています。一人一人が「美しい福島市」を作るために、あたり前のことをあたり前にするという気持ちを持って生活できれば、もっと住み良い福島市になるでしょう。それは、私達の未来にもつながることだと思います。いいことを積み重ねて、この先何百年も続く笑顔あふれるこの町をもっと幸せな町にしたいです。一人一人が大きな夢と一市民としての自覚を持ち、より良い福島市を、みんなで築きあげていけたらいいと思います。

「親切で愛情あふれるまちづくり」

福島市立飯野中学校

阿 曾 舞 佳

親切で愛情あふれるまちとはどんなこと
なのでしょう。

私は、親切で愛情あふれるということは、
助け合い、優しい気持ちを持つということ
だと思います。

歩いているとき、おとしよりの人が重い
荷物を持っている、重そうに見えるなあ
と
思って、「持ちますか。」とおとしよりに優
しく声をかける人もいれば、そう思ってい
ても、す通りしていく人もいます。

電車に乗っているときも、座る場所がな
くて立っている、おとしよりや、にんぷさ
んがいます。そんなときは、「座ってください
さい。」と言って、席を替わってあげると
良いと思います。

おとしよりと出入り口ですれ違うとき、
気にしないで、出入りする人もいますが、
気をつかって、おとしよりを優先的にして

ドアを持っているという人がいます。

この三つの例は、「優しさ」、「親切」、「愛
情」の三つがあって成り立つことだと思
います。

人に親切にすると、かならず「ありがと
う。」という言葉が返ってきます。それだ
けで、うれしくなったり、親切っていいな
あと
思っ
て、「またやろう。」という人がた
くさん増えてくると思います。

人に親切にされると、すごくうれしくな
ると思います。

このように、親切にすると親切にされ
るのは、どちらも気持ちが良いことだと思
います。

みんながみんな親切にすることで、助け
合い、絆が生まれるものだと思います。
そうすることで、福島市に親切で愛情あ
ふれるまちがつかれるんだと思いました。

「きれいなまちを取り戻すために」

福島市立飯野中学校

菅野 ひかり

私は、福島生まれ福島育ちで、福島が大好きです。自然も豊かで、とても住みやすい所です。そんな住みよいまちづくりを目指した、福島市民憲章の内容にもとづいて、福島市について考えてみました。

「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」これは、福島市民憲章の一つです。福島市は昔から自然が豊かで水も空気もきれいでした。しかし、今はどうでしょう。道を歩けばタバコの吸い殻やペットボトルなどのゴミがたくさん落ちています。川の水はゴミや家庭から出る油や洗剤で汚れています。

これではとても「きれい」とは、いえません。

現在の福島市を、以前のきれいな福島市にするために私たちにできることはないか、考えてみました。

きれいな空ときれいな水を保つには、節電節水を心がける必要があります。私たちは、電気や水を使いすぎています。当たり前のことですが、毎日少しずつ、節電節水をしていきたいです。

ゴミのないきれいなまちにするためには、進んでゴミ拾いをする、ポイ捨てをしないことが大切です。特にゴミ拾いは、なかなか自分から進んで拾うことができないと思います。私もそうです。ですが、少しの勇気を出せば、きっと以前のようなきれいな福島市になると思います。

私たちにできることを少しずつ、自分から進んで行う。そんな考え方を、福島市民全員がもてば「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」という一つの目標を必ず達成できると思います。

「空も水も、ずっときれいなまちに」

福島市立飯野中学校

齋藤 はるな

私は、「福島市民憲章」の「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」という所に心をひかれました。

私の家の周りには、金魚のいる池や、銀木犀やアジサイなどの低木、たくさんの花などの、みどりがたくさんあります。この家が建ったところは、ホテルがたくさん飛んで、池には、自然にヤゴやカエルがたくさんいたそうです。けれど、最近ではずいぶん様子がちがいます。ホテルは少ししかいなくなつて、池にも金魚やどじょうしかいません。私の家ができたのと、「福島市民憲章」ができたのは同じころです。私は、「この四十年という間に、生き物も動物も植物も、みんな減っているんだ……。」という悲しい気持ちになりました。

私は、このような憲章を掲げている福島市に住むみんなが、この先ずっと、みどり

がたくさんの福島市でくらすためには、この自然が減っているという事実を受けとめること。どのようにすれば美しい自然を取りとめておくかみんなが集まって考えること。の二つが大切だと思います。

今年で四十周年の「福島市民憲章」にあるまちづくりを進めていくためには、一人一人が自覚しないとけないと思います。四十年前の福島よりもっと空も水もきれいなまちをつくっていくために、私もできることを少しずつでも取り組んでいきたいと思っています。

「愛情あふれる町をつくるには」

福島市立飯野中学校

藤野 正 希

「親切で愛情あふれるまちをつくる」ということは、福島市民憲章の中でも一番僕たちに身近な事なのではないかと思えます。地域の人に声をかけ、助け合っていけば親切で愛情あふれるまちづくりにつながると思います。つまり、あいさつなどをしたりするだけでも愛情がうまれるなんて、とても簡単で僕たちにもできる事だと感じため、とても身近だと思ったのです。

僕が実際に、登下校中に地域の人にあいさつをされたり、あいさつをして返してもらったりすると、僕はうれしい気持ちになります。そして積極的にあいさつをしようという気持ちにもなれます。また、友達がいさつをすると僕もあいさつをしなればという風を感じて、あいさつをするようになります。このようにして人に対しての愛情がうまれるのだと思います。

そしてもう一つ感じるがあります。それは、地域の人が助け合って生活しているということです。特に近所の人々が、採れた野菜を分け合ったりしているところなどをよく見ます。僕の家でもよく野菜をもらうことがあります。このような関わりの中には、親切ない気持ちがあるのだろうなあと思いました。

今まではあまりこのような事は考えたことがありませんでしたが、今回この福島市民憲章を読んだことで改めて見直すことができ、良い機会になったと思います。この機会を大切にして、親切で愛情あふれるまちをつくっていききたいと思います。

「親切で愛情あふれる福島」

福島市立飯野中学校

高野 真由

私は国語の時間に初めて「福島市民憲章」というのを知りました。そして福島市民憲章をクラスの皆で読んだ時、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」という言葉聞いて、夏休み中の楽しかった出来事を思い出しました。

夏休みが始まってまだ早い時に私の家の庭に近所の人たちが集まって区の集まり会を開きました。その集まり会は朝の八時から夕方六時くらいまでやっていました。朝のうちに勉強をすませた私は、同じ区の友達を呼んで一緒に遊びました。大人は区の集会所から持ってきたカラオケボックスで歌ったり、おさを飲んだりしていました。小さい子などは手づくりのわなげをしたり、水ふうせんであそんだり、皆で楽しい時間をすごしました。

私はその集まり会で楽しんでいる時、み

んなが仲良いことに気づきました。小さい子供もお年よりまでも楽しそうに話したり、大人も私達に気軽に話しかけてきてくれたりしました。そんな事が「親切で愛情あふれるまち」につながるのだと思います。

震災が起き、水も電気も止まってしまった時、近所の人に井戸水をたくさんもらったり、野菜などもたくさんいただきました。私たちは周りの人の協力もあって生きていつているのだと思います。私もすれちがう時あいさつをしたり、少し話をしたりして、困っている時は親切に助けられるようになりたいと思いました。

「福島市民憲章を知って」

福島市立飯野中学校

阿 曾 友 佑

僕は、この市民憲章を初めて聞きました。見たり聞いたりしていないと思っていただけけれど自分がただ見過ごしていただけかもしれないでした。教室で、みんなとこの福島市民憲章を読んだとき、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」という憲章が気に入りました。なぜかという、僕の住んでいる町の人達は、よく自分達にやさつをしてくれるからです。登下校をしていて、自分達かもしれない人に会っても、その人達は自分達のことを知らないのにもかかわらず親切にあいさつをしてくれます。だから、この町の人達は親切なので、この市民憲章がぴったりだなと思います。

また、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」という憲章も気に入り、ときました。僕が町を歩いたりしていると、ときどきゴミが落ちていたりすることに、す

こし気になっていました。自分、地域の人達が気がついて減らしていけば「空も水もきれいなみどりのまち」にどんどんちかづいていくと思います。

これからの生活は、この福島市民憲章を思い出しながらすごしてみたいと思います。たとえば、ゴミを見たら捨てる、あいさつや、困っている人を手助けするなど、憲章に関わることをしていきたいなあと思いました。また、この福島市民憲章を、いろんなところで探してみたりしたいです。

「福島市民憲章について」

福島市立飯野中学校

大澤 花音

私は、この「福島市民憲章」というものがあることを初めて知りましたが、少し見覚えがありました。以前、国体記念体育館に行ったとき、階段の近くに書かれていた福島市民憲章を読んだのを思い出しました。そして、私は福島市民憲章の五つの中で、ある一つの市民憲章に注目しました。それは、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」です。理由は、福島市といえばみどりがたくさんあるという私のイメージがあるからです。

ですが、おとしおきた原発事故の影響で水遊びができなくなったり、山を登ったりもできなくなりました。それ以外にも、公園や外で遊ぶことが制限されています。そんななか、私が住んでいる飯野町もそうですが、各地で放射線の除染作業が行われている最中です。その除染作業をしてくれ

ている方々以外にも、地域の方々が歩道の草刈りや草むしりをしてくださいました。作業をしてくださった方々のおかげで、今は公園で遊ぶこともできますし、水遊びもできます。そして、除染作業を行ったことで、以前よりもさらに福島県の自慢であるみどりがきれいになったなあと思いました。みどりも水もすべてがきれいな福島をもつためにも、私はこの「福島市民憲章」を意識して生活したいと思います。

「福島っていいな」

福島市立飯野中学校

伊藤 凜

私は「福島市民憲章作文コンクール」のテーマを読んで、二つ気になったものがあります。

一つ目は「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」というものです。これを聞いて、心の中で「あ、そういえば飯野町は緑がたくさんあって家の近くの山の中に水が湧きでている所があったなあ」と思いながら話を聞いていました。実際に湧きでている水は、下に沈んでいる石が透きとおって見えて、ろ過をすると飲めそうなくらいすごくきれいです。

二つ目は、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」というものです。私は、東北六魂祭で電車に乗って行きました。そのときに、帰りの電車に乗っていたとき、ちよつと離れた所で、

「どいづ。ここにすわっていいですよ。」

という声が聞こえたので見てみると、女子高校生が七十代後半くらいのおばあさんに席をゆずっているのが見えました。それだけではありません。階段で困っているおばあさんがいてそこに女子高校生が通っていたと思ったら、戻ってきておばあさんの荷物を持って手伝っているのが見えました。やっぱり、福島市は、みんなすごく優しく、すごく親切な人々ばかりなので、私も今度困っている人を見つけたら、はづかしがらずに手伝ってみようと思いました。

「市民憲章の精神」

福島市立飯野中学校

菅野 あかり

国語の時間に、いきなり、福島市民憲章についての作文を書くことになった。

私はまず、「市民憲章なんて、あったのかな？」と思った。しかし、市民憲章は、私たちの身のまわりにも書いてあったことが分かった。市の体育館や、市のふうとうなど、私たちが良く見ていなかっただけだった。

渡された紙に市民憲章が書いてあったので、皆で読んでみた。市民憲章は全部で五つあった。どれもよりよいまちをつくるために大切なことだった。その中で、私が特に注目したことは、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」というものだ。

私は、この憲章にある、「親切で、愛情あふれるまち」ということを実現するためには、困っている人がいたら、ただ見てい

だと思う。このことは、簡単そうなことではあるが、実はとても難しいことだと思う。「よし、助けよう」と思っても、その勇気が出ず、そのまま通りすぎてしまうということも、あるはずだ。

私も、卓球の試合の準備の時に、とても一人では持つことができないような大きい荷物を持った人がいたが「手伝いますか？」の一言が言えずにだまって通りすぎてしまったということがあった。

そのことから、少しの勇気を出して助ければ、相手の人はとても助かったし、自分も、「良いことをして良かったな」と思うことができるということが分かった。

私と同じぐらいの年で市民憲章を知っている人は少ないと思う。だからこそ、その知らない人たちにも市民憲章を知ってもらって、市民憲章の精神を受けついできたいと思う。

「市民憲章について」

福島市立飯野中学校

渡 辺 美 夢

私は、教室で「福島市民憲章作文コンクール」募集要項の紙を見るまで、福島市民憲章についてなにも知りませんでした。

読んでみて、注目した所は、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」という所です。飯野町は、人は少ないけれど、とても親切な人が多い町だなあと感じました。なぜなら、あいさつをすると、知っていても知らない人でも笑顔であいさつをかえしてくれるからです。私はとてもうれしく思いました。

学校の帰り道でも、おばさん達が、

「そんな大きいカバンしよって大変だねえ、勉強がんばってねえ。」

など、声をかけてくれます。ほかに、町のだがし屋などに行って買い物をする時、

「ありがとねえこれおまけだよ。」

などと、おまけをくれたりします。その中

でも、一番心に残っているすごいなあと思うことは、朝の六時三十分くらいに外を歩いていたら、おばさん達があつまって、せけん話をしていたことです。朝から元気だなあと思いました。ほかの所でも、散歩している人などみんな楽しそうだなあと思いました。話しているのであいさつはやめた方がいいかなあと思い歩いていたらおばさんの方から、

「おはよう！」

と声をかけてくれました。とても温かい町だなあと思いました。

わたしが大人になっても、ずっとこのような「親切で愛情あふれるまち」にしていきたいです。

「未来につながる憲章」

福島成蹊中学校

山 岸 咲 亜

この時代の出来事が未来に残るとなると、原子力災害が一番大きいです。震災により、おきたこの事故は、私たちの生活を大きく変えました。このことが福島の深い歴史となると、私たちが大人になったとき、どう感じるのかなと思いました。未来の子供たちはどう受けとめてくれるのかな、あの事故は私の気持ちを大きく変えました。けれど、私は暗い歴史が残るより、自慢できるような明るい歴史を残したいです。私が考えた未来に残る歴史は、憲章通りの市です。山に囲まれていて緑がたくさんある現在、水も少しずつ安全になってきています。教育と文化、私たち子供は、たくさん体験をすることができています。学校で文化に触れることもできました。親切で愛情あふれる、バスで席をゆずる人を見ました。私たち家族は、その方にとっても感心し

ました。きまりを守り、力をあわせ楽しく働くことは、大人は協力して仕事をし、子供は助け合って学ぶことだと思います。子供からお年寄りまで安全で健康なまちでは、せまくて危ない道が広く通りやすくなっているのを見ました。以前、家族でお出かけの際、せまい道路でドキドキしたことがあります。憲章通りにはまだ足りないけど、少しずつ変化してきている福島を皆で上げまし、助け合っていけると良いと思います。また、近い将来、生活も震災前と変わらず安定してきたころから、毎日少しずつ憲章通りになっていけると良いと思います。私もこれから、憲章を意識したいと思います。

「私達のふるさと、福島」

福島成蹊中学校

佐藤舞奈

私は作文コンクールの紙を配られたときに、初めて「福島市民憲章」を知りましたが、これを見たとき、すぐに疑問がわきました。二つあります。

一つ目は、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」についてです。今、そうなっていますか。放射線できれいなまちと言えますか。私の家族は毎年祖母の家に行きます。その帰りに、いつも博士山の水をくんできます。しかし、原発以来、その水はくまなくなりました。そのようなことをした人も多いと思います。なぜだと思いますか。その水の中に放射線が入っているかもしれないと思ったからです。

二つ目は、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」についてです。みなさんはこれを見て何か思いませんか。今、外は安全ですか。私はそう

は思いません。原発前は、公園でワイワイとさけびながら遊んでいた子ども達が、今、どこを見ても見つかりません。なぜだと思いますか。遊ぶ場所、時間が制限されたからです。それにより、体力が落ち、ストレスがたまる人もそう少なくありません。私も実際そうでした。前までは一位、二位を取っていましたが、運動ができなくなると一位、二位を取るのが難くなりました。

私は、この「福島市民憲章」は今の現状に合っていると思います。私もいろんな人に「福島市民憲章」を知ってもらいたいと思います。前よりは放射線が少なくなつて安全にはなつたけど、全部がなくなる訳ではないので、まだまだ安全とは言えません。私は原発以前のまちが好きです。友達と一緒に遊んだり、学べたりすることはとてもうれしいです。はやく安全で空気も水もきれいなまちにもどつて、前みたいになりたいです。でも笑顔でいられる暮らしがしたいです。

「福島市民として」

福島成蹊中学校

松 本 尚 輝

僕は福島市民として、市民憲章に協力したいと思った。どのようにしたらいいのか考えたところ、次の事が思いうかんだ。

一つは、ごみを見つけたら拾うということだ。市民憲章の中にも、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」とある。ごみを拾うのはあたり前のことだが、今まではごみを見つけても、しらんぷりをしてしまっていた。けれども、それではきれいとは言えない。出来る限りは拾っていいと思う。

二つ目は、学習に進んで取りくむということだ。「教育と文化を尊び希望にかがやくまちをつくりましょう。」とあるように、僕達は未来の希望とも言える。福島市の未来に貢献できる人になりたい。

三つ目は、おとしよりを大切にすることだ。僕は、バス通学をしている。善

意の席があるのだが、人がいっぱいだと、ついつい座ってしまう。この席は、おとしよりや、けがをした人などが座る席なのだから、一つでも空いているようにしたい。

四つ目は、きまりを守って生活することだ。福島市の条例や、学校の校則などにひっかからずに生活することを中心がけて、楽しく「学べる」場所をつくりたい。

五つ目は、かぜをひいたら無理をしないということだ。僕の学級では、休む人が少ない。入学してから休んだのは、二十一人中四人ほどだ。でも、休みたくないからといって、無理をしてしまつては、他の人にうつしてしまう。安全で健康なまちをつくるには、このようなことが必要だと思う。

僕はまだ十二年間しか生きていない。でも生涯福島市民として市に貢献できたら、うれしい。

「福島市に通って」

福島成蹊中学校

佐藤 創平

ぼくは、今年から福島市の中学校に通っています。

この前、信号が黄色になり、ぼくが乗っていたバスが止まったとき、バスの前を走っていた車が黄色の信号でも止まらず、交差点に入っていました。車は急には止まれないので仕方がないと思ってみると、何台かは明らかに赤信号に変わってから、信号無視をして交差点に入りました。ぼくは危ないと思いました。その後も、何度か同じことがありました。

また、中学校の窓から歩道が見えますが、歩道を軽トラックが走っているのを見たこともあります。その時も危ないと思いました。「信号を守る」「車は車道を通る」などの交通ルールは守らなければならないものです。

福島市の市民憲章にも「決まりを守り、

力を合わせて楽しく働ける町を作りましょう」とあります。どこにでもきまりを守れない人はいると思います。ぼくもきまりをまもれなかったことがあります。その時は、だれも見えていないから、このくらいならいいだろうという気持ちでした。信号無視や歩道を車で走った人も同じで、警察が見ていないからとか、このくらいならだいじょうぶだろうという気持ちだったのかもしれない。

ぼくは中学生になって、学校のきまりの大切さを知りました。きまりは、みんなで暮らすためには大切なものです。学校のきまりを守れない人がいると、友達に迷惑をかけたり、楽しく生活できなくなったりします。社会のきまりも同じだと思います。だれかが見ている見えていないは関係ないと分かりました。また、これくらいならいいということもないと思います。ぼくも、これからは学校や社会のきまりを守り、みんなが気持ちよく暮らせるように努力したいと思っています。

ぼくは、今年から福島市に通うようになりましたが、福島市はとってもいい市だと思

います。人が多くにぎやかです。店も多く、買い物も便利です。また、あちこちにある学習センターの図書室はどこもきれいで本がたくさんあり、とてもいいと思います。伊達市の人も利用できるのです、ぼくも利用しています。福島市にはいいところがたくさんあります。

福島市民憲章にはきまりを守ることにほかに「空気も水もきれいなみどりのまち」「教育と文化を尊び」など、大切なことがたくさん書いてあります。福島市は県庁所在地で、福島県の中心です。県の手本になる市です。福島市に住む人だけでなく、市に通っている人もみんな市民憲章を大切にして、よりよい福島市にできたらいいと思います。ぼくも努力したいです。

「自然も生きている」

福島成蹊中学校

伊 藤 辰 哉

ぼくは、山の川などでバーベキューやキャンプなどをしているが、ゴミを川に捨てているのを、ニュースや新聞などを見ておかしいと思います。それは水だけではありません。草むらや路上など、どこにでもゴミが捨てられるをよく見ます。ゴミをあんなどころ、こんなところなどに捨てると、自然はどうなるのか、不思議や悲しみの気持ちがたくさんありました。ゴミでよく捨てられているのは、ペットボトルやガムの食べかすなどです。どうしたらこのようなゴミを減らすのは、自分自身で意識して生活しなければならぬと思います。今、ゴミをここに捨てて良いのか、川に自分たちのゴミを捨てて良いのかなど、意識していなければ、自然をよごす、ゴミは減らないと思います。ぼくは、このような事をなくすため、意識して生活しています。今回あ

えてこのような作文にしました。

みなさんも、この福島のためそして自然のためご協力をお願いします。

